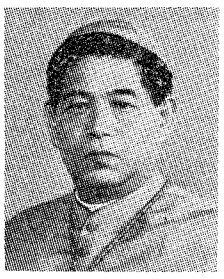
カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

年頭のごあいさつ

ヨゼフ　松永久次郎司教



新年あけましておめでとうございます。

一九九一年が世界平和の年、すべての方々にとって神のお恵みの年となるよう、心をこめてお祈りいたします。

一、新年はお恵みのしるし

流れて止るところのない時の営みに、神は朝と夕を与えて一日とし、月と四季の移り変わりを添えて一年とされました。そして新しく陽の上る朝を一日の初めとされ、また人が元旦を定めて、新しい年の出発を記念するよう導かれました。こうして新年は、平凡に流れゆく時の中での「お恵みのしるし」となったのです。

わたしたちは、「新年」を一つのけじめとし、過ぎた年を振り返って感謝と反省の心を持つとともに、新しい年に向かって力強く踏み出さねばなりません。過去から貴重な教訓を学びとるとともに、過ぎ去ったものに訣別を言い渡す態度も必要です。そして、初心にかえり、新しく明るい未来を築くべく、お恵みに信頼して再出発せねばなりません。

新年は、考えて見れば数多くの日の中の一日です。しかし、わたしたちはこれを特別の一日とし、時の流れを超える人間の価値を思い、時を正しく用いてお恵みのよき協力者となることを学ぶ機会とせねばなりません。キリスト者であるわたしたちは、新年をお恵みのしるしとして活用すべきなのです。

二、福音宣教の呼びかけ

いま、日本の神の民に対する神の声は、福音宣教推進の呼びかけだと思います。福音宣教はキリストの教会生来の任務で、特に新しいものではありませんが、第一回福音宣教推進全国会議が開かれてすでに三年、いまその第二回会合が具体的企画の段階に入っている折、福音宣教はやはり「時のしるし」というべきでしょう。わたしたちは、

「笛を吹いたのに、踊ってくれなかった」（マタイ11・17）

と言われることのないように、この時の声に答え、時の務めに協力しなければならないと思います。

ところで、福音宣教がキリストの教会の基本的使命であり、キリスト者各自の生き方の根本にある課題であるとすれば、時のしるしに促されて自覚を新たにするとともに、いつも変わらぬ本来の姿を見極めることも必要です。一方に偏った意見に動じることなく、表面的なことにのみ眼を奪われることなく、ことの本質を弁え、その広がりを正しく理解し、すべてを大きく受け入れて、堅実に地道に福音宣教の活動を続けてゆかねばなりません。

福音宣教についての自覚と理解を益々促進し、その総合的かつダイナミックな活動をわたしたちの間で展開してゆきたいものです。神の恵みを心をこめて願いつつ、神の働きの献身的協力者となって、キリスト者本来のこの務めを全うしてゆきたいものです。

三、兄弟的交わりの中で

今回わたしは福岡の地で新年を迎えます。わたしは自分に与えられた新しい務めを、神の摂理の一つの展開として受けとめ、真心こめて全うしてゆきたいと思っています。

しかし、福岡はわたしにとって言わば未知の土地です。同じ信仰に招かれて共にキリスト信者であること、そしてキリストの司祭職の交わりの中で、共に兄弟であることを除けば、ごく平凡な隣人のひとりに過ぎません。わたしがここで、いくらかでもお役に立つことができるためには、神父様方、そして信者の皆さんの積極的な助言と協力を必要とします。この点どうぞ宜しくお願いいたします。

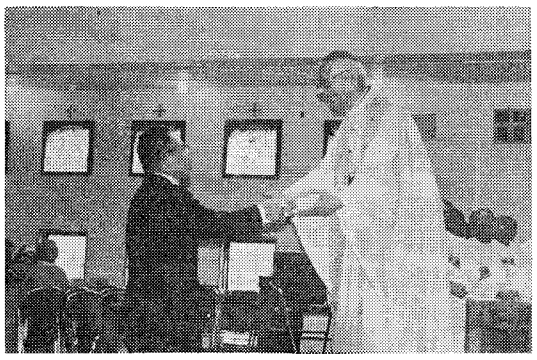
もともとキリストの教会は神の民、キリスト信者の集まりです。キリストとの交わり、キリストのもとにおける信者の交わりこそ、教会の生命の営みです。この交わりの中でわたしたちは、キリストの救いの働きに与かる共同責任を負っています。そして、今の時代は特にこの兄弟的交わりを、内外共に明らかに示すよう求められています。

そこで、福岡教区における福音宣教のため、皆さんが知恵と心を合せてくださるよう、活発に発言、提言してくださるとともに、一たび実践的行動が必要な場合は、一致協力して参加してくださるよう、切にお願いいたします。新しい年におけるわたしたちの働き、「み国の来たらんことを」の働きが、深い信頼を伴う兄弟的交わりのうちに、強力に推進されるよう、心から祈るものです。

○○○　○○○

あらためて新年のご挨拶を申し上げます。

この一年中、皆様と皆様に親しい総ての方々を、神の恵みが暖かく包んでくださるよう、特にごミサの祭りの中でお祈りいたします。



平田司教お別れ式

第四代福岡教区長として二十一年間、牧者の重責を担ってきた平田三郎司教の「お別れミサと式典」が十一月二十三日、記念碑ともいえるカテドラル・センターで盛大に行われ、教区の各地から聖堂一杯の信徒や司祭たちが参列した。

お別れ式では、伊東誠二師、尾崎紀世恵シスター、小笠原克己氏がそれぞれ感謝の言葉を述べ、「職を辞されても教区を支え続けてください」と労いの言葉を贈った。

また、大分から駆け付けた平山高明司教は、初代の大分教区長としての平田司教の業績をたたえ、「引退ではなく、日本の教会のために今後とも働き続けてください」との希望を表明した。（2面に平田司教様の言葉と関連記事）

今月のみことば

わたしに従う者は
暗闇の中を歩かず
命の光を持つ
（ヨハネ8・12）

久留米　平田敬神父

松永司教様着座式

1月15日（火）午前11時より

カテドラル大名町教会で

＊カテドラル駐車場は利用できません。
＊聖堂に入りきれない方には、4階ホール、駐車場テントのモニター会場をご利用願います。

時の話題

渡辺孝之

「これまで宗教に関心もなく、縁もなかった私が、何気なく短期講座のチラシを見ていた時、シスターに声をかけられ、勧められるままずっと申込をしました。お話を聞いていると不思議なほど心が落着き、心の充実を感じるようになり、最終日の今日まで欠席できませんでした。私の意志ではなく、何かに運ばれてここまできたような気がします。折角ですからもう少しキリスト教の勉強をしてみたいと思っています」。

これは熊本短期キリスト教講座最終日の『共に語ろう』というティーパーティの席で、受講の感想を述べた若いOLのことばです。

この講座には『生きがいをさがそう』というサブテーマがついています。若いOLの心をここまで捉えたのは、講師の方々のお話とお人柄の魅力によることは勿論ですが、今も現存し聖霊を送り続けて下さる神様の魅力にほかならないと思います。

ひとは誰も何らかの苦難を背負って生きています。その日その日の生活が暗く辛く、世をはかなみどこにも希望や喜びが見出せないでいる人。今の世の中どこかおかしいと思いながらも豊かさや安逸さに慣れ、自分の心の世界にわざと蓋をしてしまっている人、などなど。しかしある日、ある瞬間「真の幸福とはなんだろう」「私は生きがいのある人生を送っているのだろうか」と、ふと心をよぎる思いがあるに違いない。ところが大部分の人は「考えたって仕方がない。なるようにしかならない」とあきらめる。

こんな時、あの若いOLに声をかけたシスターのような存在が、魂に火をつける役目を果す。熊本の短期講座でも、多くの信徒が周囲の人に心を配り、声をかけ、お誘いし一緒に受講するケースが多くみられました。

信徒使徒職の活動といえば難かしく考えがちですが、やさしい愛の眼ざしで人の心を和らげ、笑顔で人を明るくし、やさしい言葉をかけ、人のために働く心づかいさえあれば、悩み苦しむ人の友となれるだろうし、その人の求める生きがいを一緒にさがすため教会や、講座などにお誘いすることもできます。さがし求める者に、神様はきっと〝生きがい〟を与えて下さることを信じます。

生きがいをさがそう

（熊本短期キリスト教講座実行委員長　手取教会）

主の御降誕と新年のお慶びを申し上げます

一九九一年　元旦

福岡教区長　松永久次郎司教
平田　三郎司教

〈福岡地区〉
司教館　渡辺　隆義
牧山　藤房
牧山　重光
川口　康頼
黒川　博
青木　保
森山　信三
浄水通　P・ブランガン
泉　類治
山川　辰幸
堤　要吉
赤倉　稔
須賀澤公男
春山　勝美
鵜野　泰年
畠山　七郎
B・シュルツ
T・リシャール
竹森　勇
山田　成章
F・ハーン
乾　盛夫
堤　敏雄
下町　豊重
川上　惣一
糸永　一
糸永　武男
平田　敬
三村　邦明
西田　邦洋
大名町
大楠
美野島
吉塚
箱崎
老司
光丘
古賀
二日市
小郡
本郷
今村
久留米
大牟田
西新
茶山
笹丘
高宮
大橋
呼子
馬渡島
大神学院
田川　清美
伊東　誠二
高木　善行
高見　三明
J・P・ラベル
J・ツルデル
A・ラプラント
Z・イェール
大山　悟
松井　忠之
杉原　寛信
永富　久雄
畠　基幸
鈴木　忠一
M・ヴェッター
G・ブレシュト
S・オチョア
イエズス会
K・ウーリック
草野　純英
塩谷　恵策
外川　直見
S・ライル
皿山FC
八王寺
小神学校
聖パウロ会
黙想の家

〈北九州地区〉
L・デシャンブ
C・バスチ
M・ボンカズ
徳山　登
E・モーゼ
J・ガイヤール
岩永　義人
山元　真
平田　三好
平田　寛
浦　俊雄
門司港
門司
小倉
湯川
戸畑
若松
水巻
黒崎
M・コース
L・ベリオン
J・バイヨ
H・キニュ
M・ラバルタ
浦口　均
J・ノーリス
L・グロージャン
平田　正喜
山下　正
深堀　勝人
天神
直方
飯塚
田川
新田原
行橋

〈佐賀地区〉
鳥栖
佐賀
唐津
武雄
伊万里・多久
鹿島
ロザリオの園
トラピスト
R・マグリン
A・ディベロ
G・カツアニーガ
F・サルディ
C・ガッザルディ
A・テンペリーニ
A・アレグリーニ
C・ミケレーナ

〈熊本地区〉
玉名
手取
健軍
島崎
荒尾
帯山
菊池
武蔵ケ丘
八代
人吉
水俣
本渡
大江
崎津
W・グリン
B・ジョー
M・マッコンネル
牧山　勝美
W・カリー
K・オマホニ
青木　悟
R・オウエンス
H・オカロール
中浜　一男
T・フィッシャー
J・モラハン
F・カロール
H・ハンター
P・ダイアモンド
交流センター　S・フランコ
海外留学　櫻井　尚明

☆☆☆☆☆

みちくさ

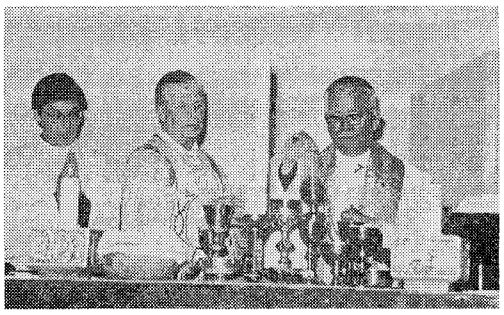
その昔病床で、ラジオからながれる落語や講談を楽しんでいたこともあり、東京に出た折、思い立って上野まで足をのばして寄席に行った。テレビでお馴染の顔がいくつか落語や漫才、曲芸を演じていた。時のたつのも忘れて、次に登場してくる出演者の熱演を見、聴き入っていた▼説教や講話など『話し』の機会が増えると共に、話すことの難しさを痛感するようになり、『話し』の同業他者がどのようにして聴衆の心をとらえるのか、勉強し直してみたいと思ったからである。できるだけ前の座席に陣取り、目の動きから顔の変化までじっくり観察させてもらうことにした▼一番参考になったのは、落語である。座布団一枚の上で、さしたる小道具も用いず、うまく間を取りメリハリのきいた言葉で語り聴かせる術は、説教台からの説教にも似ていると思った。ながながとした話しではなく、約十分ぐらいの時間に全神経を集中させ、お客さんと勝負する話し家の厳しさは、十分な準備もなく説教台にのぼっていた自分を恥入らせてしまった▼そんなこともあって、新しい年を迎え小さな夢を実現したい。それはもう一度寄席に行くこと。それと二つ以上のお寺の住職さんの話しを聴くこと。たしかにカトリックにも素晴らしい説教家がおられるが、そのような方々も話し方のヒントは案外こんなところから得ておられるのかもしれない。宣教者としての使命への情熱と誇りのゆえに、聴いていただける話術を学び続けたい▼もちろんキリスト信者は皆、〝神のみことば〟を語る『話し家』でもある。だから〝神のみことば〟を自分の持味を存分に活かして多くの人に語りたいものだ。福音宣教が各自の生活から始まる以上、題材も切り口も違うのは当然だが、話す人は「自分の話しに酔ってはならず、相手と対話せよ」を肝に銘じておきたい。

ありがとう平田司教様

ペトロ平田三郎司教様は今年七十七歳とは思えないほどお元気。一九七〇年一月に福岡教区長として着座されたが、以来引退されるまで、庶民的司教として親しまれ、愛されてきた。堅信式に出向くにも、一人でカバンをもって汽車に乗り、気さくに声を掛けられる。また司教様仲間でも「過ぎ越し司教」と呼ばれるほどに、教区民の心の中には「過ぎ越し」という聖書の意義深い言葉が刻まれている。

こんな平田司教様の思い出を写真でたどってみることにします。（編集部）

一九七〇年一月に第四代福岡教区長として着座



カルー大使を迎え司教叙階銀祝の式典

1962年に大分司教に叙階

お別れにあたって

ペトロ　平田三郎司教

私は昨年十月二十八日、教皇様の許可を得て、福岡教区長の職を退くことになりました。司教の定年は、第二ヴァチカン公会議により、七十五歳となっていますが、私はこの規準を二カ年も超えておりました。

この度の退職に当たり、皆様から心溢れる餞別、記念品、別れのお言葉をいただきました。厚く御礼申し上げます。

顧みますと、私の七十七年の旅のうち、五十一年は司祭として、そのうち八年は大分の初代司教、二十一年は福岡の司教として、計二十九年間、教区の奉仕に当たってきましたが、私の努力不足のため、私の司教職のモットーでありました「皆が完全に一つになりますように」（Consummati in unum）との主キリストの言葉を、司祭団、修道共同体、信徒のうちで十分に実現することができず、神様にも皆様にも申し訳ないと思い、お赦しを願います。

私が教区に残した大きな穴を埋め合わせるに余りある立派な松永久次郎司教様が、み摂理により後継者として選ばれ、牧杖を手にすることになりました。この教区五代目の司教様の牧杖のもとに皆が一致団結し、新しい牧者を押し立て、教区がますます大家族となっていくよう引退後もお祈りいたします。

老いゆく私が、命の続くかぎり、教会の忠実な僕・奉仕者として尽くしていくことができるようお祈りをお願いいたします。

一九九〇年十二月

司教様仲間と（アドリミナ）

カトリック・フェスティバルで信徒たちから囲まれる

感謝のことば

司教様をとおしてよみがえる司祭職

伊東　誠二

司教様のご挨拶をお聞きして、教区の責任は司教様はもちろんのことですが、神父をはじめ信者全員の責任において果たされるということをつくづく感じました。

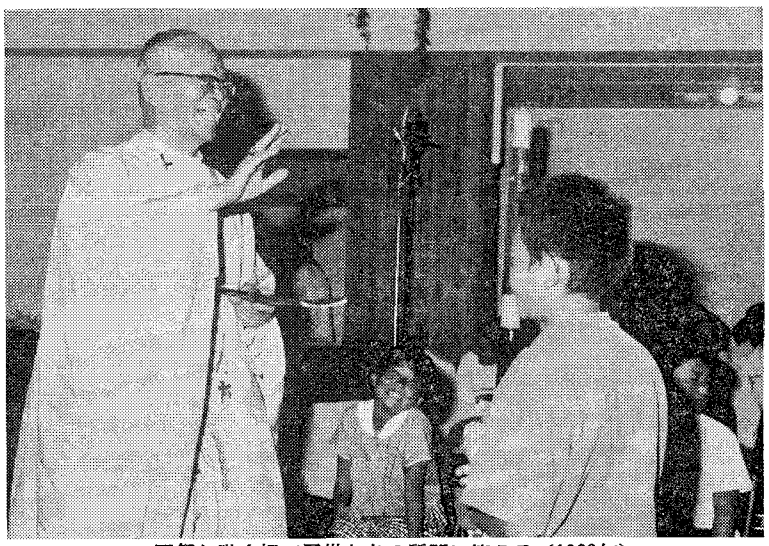
二十一年間、教区のために尽くされ、今職を退かれることになり、空しさみたいなものをお感じになっておられるかと思いますが、司祭職には終わりはありません。

そして、私たちもキリストの司祭職に与る者ですが、生き生きしたものは、司教様を通して私たちのうちによみがえってきます。

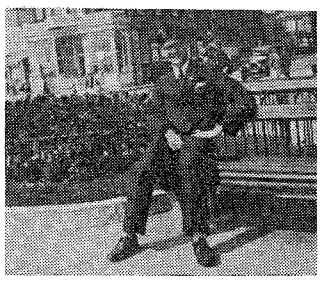
司教職をおやめになられても、私たちが活気に満ちた者となりますように、また、カトリック教会の栄光のために今後とも助けてくださいますようお願いいたします。

ありがとうございました。

（馬渡島教会主任司祭）



司祭叙階金祝で子供たちの質問に答える（1989年）



青年時代ロンドンで

おかげ様でこんなに信徒も成長しました

小笠原　克己

一九七〇年以来、私たちの父、牧者として司教様は、第二バチカン公会議以後の新しい教会の方向について道を示してくださいました。具体的には、司祭評議会、教区信徒使徒職協議会、教区修道女連盟の発足、また第一回福音宣教推進全国会議後すぐに司牧評議会を発足させるなど各種委員会の整備にも力を入れられました。

その間に教区五十周年の式典、聖年大会、カテドラル建設、教皇様を日本にお迎えする等大きな行事を主催され、公会議以降の開かれた教会としての在り方、現代に生きる信仰のあるべき姿をお示しくださいました。

私たちは司教様を通して、キリスト者としての信徒の生き方を学びました。

二十一年間本当にご苦労様でした。去る十一月十一日に行われましたカトリック・フェスティバルに示されたように信徒は育ってきています。どうぞご安心下さい。そしていつまでも私たちを見守って下さい。

司教様のご健康をお祈りしながら感謝の言葉といたします。

（水巻教会信徒）

これからも霊的富を分かち合って下さい

尾崎　紀世恵

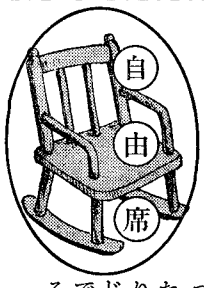
司教様、福岡教区を二十年間ご指導くださいまして、ほんとうにありがとうございました。

私たち修道会の中には、司教様にお招きやお骨折りをいただいて、福岡に来ることのできた会もあったと思います。修道女連盟も、司教様になってできたように聞いております。

現在、この福岡では二十六の修道会と五十の修道院があり、それぞれの働きをさせていただいております。高齢化が進み、自己中心的で、人間関係は益々むずかしくなってまいりました。その中で共同生活をする私たちの役割は、大切になってきているように感じます。どうぞ、これからも司教様のご経験豊かな知識と、霊的富を私たちに分かち合っていただきたいと、心から望んでおります。

司教様のこれからの新しいお仕事の上に神様のお恵みを祈ると共にお元気でお励み下さいますように。

（礼拝会シスター）



フェスティバルにはたくさんの神様が

木村　祐子

フェスティバルでは、いろいろな服装のシスターがいらっしゃるということに驚き、目を奪われました。

催し物もよかったのですが、それよりもミサに興味を持ちました。今まで、TVだけで憧れというのもあると思いますが、たくさんの神父様が立たれた時、背筋がぞーっとしました。

外国人、日本人とさまざまな神父様のお顔を見ていると、たくさんの神様を見ているようでした。

四〇〇〇人もの人々が一つの目的で集まり、同じことをするという信仰のあつさに驚きを禁じえませんでした。お祈りの途中で、周りの人たちを見ると、それぞれが本当に一生懸命に祈っていて、こんな光景を見たのは初めてのことでもあり、驚きと同時に怖いと感じました。みんなの心の中で、何が叫ばれているのだろうかと考えていました。

（信愛女学院短大一年）

信者さんの中に神の存在感じた

水之浦　幸

私は神様を見たことはないし、神様と今共にいるな、と感じたこともそうありませんでしたが、フェスティバルに参加していた信者さんの中で神の存在を感じることができました。

屋外ミサを初めて体験してみて、すぐに思ったことは、イエズス様が人々に説教をしている場面のようだということです。椅子も何もない外で、太陽の光に照らされながらのミサにはすごいものがありました。

そこで分かったことは、信者というのは偉い人の集まりではなく、弱いから罪人だから、少しでも神様のお話をきこうとする人、神様を必要としている人たちなのだということです。

（信愛女学院短大一年）

新年おめでとうございます

☆ 個人黙想においでください ☆

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096—352—3306
096—352—8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑（SOU-EN）

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

本郷教会

ジョアン又右衛門偲び
殉教慰霊祭と聖体行列

大刀洗町本郷にゆかりのあるジョアン又右衛門の殉教慰霊祭が去る十一月十八日、本郷教会（主任川上惣一神父）で行われた。

先人キリシタンの信仰の模範を仰ぎ、讃えるために集まった信者は約二百人。平田司教司式のミサ後、流川の殉教地跡にある記念碑まで約三十分かけて聖体行列を行った。

メイン・ストリートをロザリオを唱えて歩き、途中三回の花撒きと献香。静かな雰囲気の中にも殉教者の道をたどるように、町民の見守る中、信仰の道を一歩一歩力強く踏みしめていた。

参加した大人の信徒たちは子供時代の聖体行列を思い出し、久しぶりに聖体行列が行えたことの深い喜びに浸っていた。また子供たちも、女の子は着飾り、男の子は侍者を務めるなど、本郷教会の信徒全員が一体となったすばらしい殉教祭となった。

殉教祭について川上神父は「子供たちに自分たちの先祖の信仰の証しを讃える聖体行列を印象づけたかった」とその動機を語るとともに、「このような行事を今後も大切にしてゆき、皆で殉教者たちに倣って力強い信仰を培っていきたいと思う」と信徒への期待も大きい。

今回の殉教祭は信者の一致協力で準備し、出来上がったものだけに皆の喜びもひとしおの様子。

殉教者の遺体は、今村教会の祭壇下に葬られているとのことである。

ご聖体を奉持する平田司教と行列する信徒たち

家庭
第2回
全国会議へ歩み始める

テーマは『家庭』

皆さまのお手元には第二回福音宣教推進全国会議（ナイスⅡ）の「祈りのカード」は届いていますでしょうか。同事務局は、「朝・晩の祈りやミサの前後に唱えられることによって、全国会議を準備し、盛り上げていきたい」と事務局通信の中で言っています。

通信は、今後、適宜出されることと思いますが、目を通し続けていかれますと第二回全国会議が目指しているものがよく分かり、自分の問題としてこれに関わりを持つことができるようになるのではないかと思います。

さて、第二回全国会議は、一九九三年後半の開催が決まっています。

またテーマ「家庭」で、司教団は第一回全国会議の課題を「家庭」という視点から見直し、その精神を継承し、発展させようとしています。なぜなら、ヨハネ・パウロ二世の使徒的勧告『家庭―愛といのちのきずな―』にもあるように、社会の基礎単位は「家庭」であり、第一回全国会議において取り上げられた「生活を通して育てられた信仰」は深く「家庭」に関わっているからです。

今後の日程では、まず司祭たちの理解と協力を得るために、近いうちに長崎カトリック・センターで長崎管区の司祭会議が開催されますし、教区公聴会も予定されています。

これらは、日本の教会の生の声を聴き、吸い上げ、活かしていこうとする司教団の姿勢の現われです。ですから私たちは、このような会合に出席したり、あるいはアンケートに答えたりすることによって、自分たちの置かれている現状の正しい分析とそれへの効果的対応策の作成に協力していきたいものです。

福音宣教という教会の本来の使命を私たちが喜びをもって推進していくためにこの欄では、「家庭」について様様な角度からいろんな方の提言を取り上げていきたいと考えています。

皆さま方のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。　渡辺隆義（編集長）

司祭研修会

司祭の生涯養成について
シノドスの報告聞く

第八回シノドス（世界司教代表者会議）にみられた『司祭の生涯養成』を研修する教区の司祭の集まりが、十一月二十六日から二十八日まで、唐津のシーサイドホテルで開催された。

講師は、シノドスの特別参加者であった高木善行師（サン・スルピス大神学院）で、四十名が参加。シノドスの模様や提起された問題など詳しい報告を聞いた。

高木師は講演の中で、「現代社会に対応できる司祭の養成は神学校だけでは、不十分であることが司教たちの一致した認識である」と述べた。

また、超自然的なものが軽視される現代に生きる〝司祭の霊性〟を〝司祭の具体的生活の中での霊的生活〟といいかえて、司祭は、司祭団、信徒、司教との関係の中で自己の存在の意味を見出さなければならないとした。

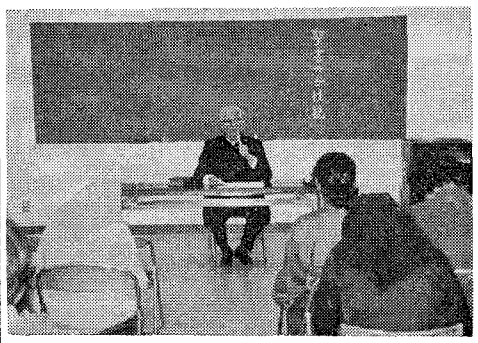
講演する高木善行師

さらに、司祭は、頭（かしら）であるキリストを生きるが、それは「支配することではなく、あたかも潜望鏡のように現代社会と神の望みをよく見、聴き、そして共同体の行く手に正確な判断を下す役割を果たすという意味においてである」と語った。

これらの講演を踏まえた分散会では、「司祭にとっても信徒にとっても最高の養成者は、主キリストをおいて他にいない」などの声があった。そのほか、司祭団の一致の必要性を指摘する声や、「教区司祭の召命のために小教区の司祭には責任がある」「神学校との協力関係の促進」などが強調された。

夜は、一致と交流のための親睦会が催され、本職顔負けの芸も多く披露されるなど、なごやかなうちに充実した二泊三日を過ごした。

聖書の女性観を学ぶ
望まれる男性側の理解



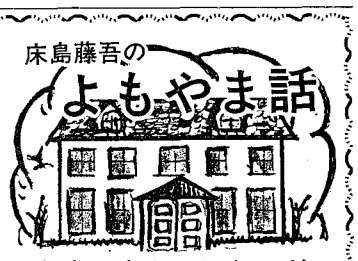
「聖書週間」の十一月二十五日午後から、カテドラル・センターで「聖書講演会」が行われた。教会における女性の使命、役割を問う機運が高まっている折『聖書の女性観』を学ぼうという試みに約七十名が参加、熱心に耳を傾けていた。

新約聖書の女性観を担当した渡辺隆義師は、女性の苦しみ、痛みに共感するイエスを紹介。宣教者としての女性の果たすべき役割を指摘した。

旧約聖書を担当した平田三郎司教（＝写真）は、旧約聖書に登場する女性たちの生き様を紹介した後、「様々な問題をもつ、罪深い女性たちがキリストの救いにつながっている」「旧約の女性観の不完全さは新約によって完成されるが、特に聖母マリアにおいて女性の母としての役割と処女性の価値の両立が成った」と語った。

質疑応答では、「このような話はぜひ男性にもきかせて欲しい」との声があり、講師も「共通の認識を持つために、その必要性を感じる」と答えていた。また、「女性の司祭職は？」など、小教区共同体において女性について幅広い論議が起こることが期待される集まりとなった。

床島藤吾の よもやま話



冬山であわや深堀司教

ヨゼフ会の会員として司教館で奉仕させていただくようになって四十一年になりますが、お陰でたくさんの司教様や神父様方と出会うことができました。そんな中で、例えば、年齢や国の違いで信仰の表し方も違うなどいろんなことを学び信仰を養われてきました。

そこで、これから『教区報』のご要望もあり、私がこれまで出会った司教様や神父様方のエピソードを少しず紹介させていただくことにいたしました。宜しくお願いいたします。

まずなんと言っても、私の心の歴史に残っているのは第三代教区長であられた深堀仙右衛門司教様です。

司教様は、カナダから帰国され、昔の泰星（小神学校）の聖堂で司祭に叙階されました。

司教様の運動神経は抜群で、特にテニスは相当の腕であったと伝えられています。今、教区でテニスがうまい神父様として有名なノーリス神父様（飯塚教会）とも対戦されています。どちらが勝ったかは神父様にお尋ねください。私も卓球のお相手をしていただきましたが、歯がたたなかったことを覚えています。

それに、司教様は山登りが好きで、若い頃は下駄で山登りをされていました。日本の山はほとんど征服され、旅館の常連客でもありました。「冬山のほうが好きだ」とおっしゃっていましたが、冬の阿蘇山で雪のため道がなくなり、迷子になって命拾いされたこともあったのです。

フェスティバル
陰の功労者として小神学生へ讃辞

昨年十一月に盛大に行われた『カトリック・フェスティバル』の企画運営委員会の反省会が十二月五日、司教館で持たれ、多くの参加者の声として、「次回は三年から五年後に。青年対象のフェスティバルを」という要望がでていることが報告された。

会合ではまず、委員の一人ひとりが感想を語り、「当日は、信者、未洗者を問わず多くの人々に〝喜び〟がもたらされた」「準備をとおして共同体の仲間の隠れたタレントを発見した」「小教区を超えた地区レベルの交わりができた」ことなどが紹介された。

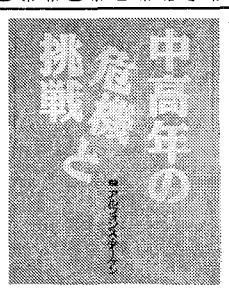
また、小さな体で大きな奉仕の力となった福岡小神学校の生徒たちに特別の感謝とねぎらいの心を表明した。

M・コニリー師帰天
病者に慈愛の宣教者

聖コロンバン会司祭のミカエル・コニリー師は十二月十七日、心筋こうそくのため熊本中央病院で死去。享年六十八歳。二十日、手取教会で葬儀ミサと告別式が執り行われた。（詳細は次号）

BOOK 読みま専科

☆中高年の危機と挑戦
アルフォンス・デーケン著



中高年期にであう8つの危機と、それにどのように対処したらよいかを、ユーモアたっぷりに語り、人生後半を楽しく有意義なものにするために、希望とファイトを与えてくれるものである。

昔なら四十代はもう晩年、今はようやく人生半ばですから、長寿社会をほんとうに幸福なものにするためには、こうした生き生きとした精神の涵養が必要なこと。人生の意義をしっかり把握してこそ「死」についても臆することなく語り合うことができます。ただの延命ではなく、「生」の質が問われはじめた現代に、キリスト者としての回答も準備されていなければならないのではないでしょうか。

女子パウロ会・五二〇円

明けまして
おめでとう
ございます

新年もよろしく
お願い申し上げます

年始のお休みは次の通りです。

一月一日～三日
一月二十日
一月二十五日

◇◇◇

※一月十五日は通常通り開いておりますので、どうぞご利用ください。

パウロ書院

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
石 石 理 大 素材
他 の 影 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

一月の行事

※ゴチックは司教日程

1日　新春ミサ（カテドラル）午前10時
15日　松永司教着座式（カテドラル）午前11時
16日　カナの会
20日　筑後ブロック青年合同成人式（久留米教会）正午
　福岡ブロック青年合同成人式（カテドラル）午後1時30分
　教区修道女連盟総会（司教館）午前10時
2月3日　佐賀地区信徒協理事会（多久教会）午後1時

福岡黙想の家

～3日　幼きイエズス会黙想会
5～6日　コーロピエノ合唱団研修
7～13日　休館
28～29日　日本基督教団修養

平田三郎司教様は糸島教会（巡回）へ

平田司教様は十二月二十二日司教館から糸島郡志摩町にこのほど新築なったばかりの司祭館に転出された。

司祭館と信徒会館を有する糸島の巡回教会は、西新小教区に属しているが、司教様を迎えての新しい出発となる。なお、落成式などは未定。

平田司教様の新住所は左記の通り。

福岡県糸島郡志摩町大字松隈字四反田七七〇
☎092-327-3210

教区人事

聖パウロ会福岡修道院 杉原寛信師新院長に

聖パウロ会は、このほど塚本孝夫師に代わって、院長に杉原寛信師を発令した。

塚本師は東京に転任。

新院長の杉原師は、「福岡教区の神父様方をはじめ信徒の皆さまのご支援によって与えられた任務を誠実に果たしていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします」と語っている。

一九九一年度第一回結婚準備セミナー

福岡会場
1月12日（土）
1月17日（木）
1月19日（土）
1月24日（木）
1月26日（土）
1月31日（木）
2月2日（土）
2月7日（木）

熊本会場
1月16日（水）
1月21日（月）
1月23日（水）
1月27日（日）
1月28日（月）
1月30日（水）
2月4日（月）
2月6日（水）

＊経験豊かなスタッフがお手伝いいたします。

問い合わせ先
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎092-541-6207

「聖週間の典礼」福岡研修会

聖週間の典礼を、講義、実習、聖歌練習によって学ぶ集いです。司祭、修道者、信徒の皆さん、どなたでもご参加をお勧めします。

場　所：福岡カテドラル大名町教会
日　時：2月10日(日)と2月11日(祝)
講　師：土屋　吉正師
　（上智大学神学部教授・典礼学）
　小田　賢二師
　（国立音大講師・教会音楽家）
　その他現代典礼研究会スタッフ

プログラム、参加費など詳細は、追って各小教区、修道院にご案内致します。

問合せ先：
松井神父（福岡小神学校）092-531-6821
深堀　純（大名町教会）　092-801-5351
主　催：福岡教区典礼委員会

カトリック・フェスティバル お礼状

「フェスティバル」も神さまの祝福のもと、盛会のうちに終了できました。

ご協力いただきましたすべての方々にあつく御礼申し上げます。

皆さま方にはいろいろとご無理、ご迷惑をおかけしたことと存じますし、当日もなにかと手落ちがあったことと存じますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

皆さま方お一人おひとりに神さまが豊かにお報い下さいますよう心よりお祈り申し上げます。

感謝と喜びのうちに
1990年12月

企画運営委員長　渡辺　隆義
実行委員長　小笠原克己

石油という神

徳山　登

明けましておめでとうございます。

これは実際にあった話です。二百年前のことです。ヨーロッパのある森の中でたった一人で生活していた十二歳の少年が発見されました。人間の社会を少しも知らず家庭も知らず、まったくの野性の状態でした。少年はある村の校長先生に引き取られました。校長先生は、お母さんと一緒に少年の教育に心を尽くしました。しかし、少年には何も伝わらず、何の効果もありませんでした。出来るようになったのは、スープの入った丼を台所の隅で食べることだけです。食べますが犬がなめるような音をたてて、素早く飲んでしまいます。ある日、少年は逃げ出しました。二、三日後、ある農家で、果物を盗もうとして、捕まりました。少年は校長先生の所に連れ戻されました。おばあさんは、この子を何とか人間の生活に慣れさせようと、優しく優しく、心を尽くしました。けれども、少年は口もきかず、心を閉ざしたままでした。

ところがある日突然、少年はおばあさんの手を取って、じっと見つめるのです。それから、おばあさんの両手を自分の顔に当てました。二人は、しばらく黙って、顔を見合わせていました。二人の頬に涙が流れます。野性状態の中で生きていた男の子が、一人のおばあさんの愛情で人間性を呼び起こしました。

現代社会の多くの人はだんだんと野性の状態に落ちていく様相を見せます。人間同志が殺し合う能力、たとえば毒ガスや核兵器などはずいぶん発展してきました。

昔、イスラエル人は砂漠で鋳物で子牛を造り、神として拝んだのです。いつの時代も人間は偶像を造ります。いまや石油が偶像化され、石油資源を巡って悲劇的な戦争に発展し、多くの人が巻き込まれます。しかし愛を知らず、愛する力のない人が増えています。東京の中学校の話です。仲のよい二人の優等生がカンニングの約束をしました。テストの結果を渡された二人は愕然としました。相手の答案を写した教科の成績が極端に悪いのです。その訳は簡単なことでした。互いに相手を蹴落とすために、間違った答案を作ったのです。

子どもの頃から、早くもこんな犠牲になっているのです。

〈人はパンのみに生きるに非ず、神の言葉によって生きる〉（マタイ4・4）パンを偶像化することが許されないように、石油を偶像化してもいけないのです。そこから、混乱、狂乱が起こるのです。人の心に腐敗が起こるのです。

私たちが神様に生かされているのは愛され、愛するために心が汚染されています。神を信じている私たちもあの野性の少年のようなものです。神様はおばあさんのように、何回も何回も、私たちが、びっくりし恐れることのないように、気を配りながら、私たちに近づかれます。神様は優しく、私たちと付き合おうとなさるのですが、私たちは気づかず、主のみ心を理解できずに逃げ回ります。でも、野性の少年がおばあさんの手を取ったように、私たちも祈りましょう。〈主よ、お手を取らせてください。私の心が静まるように、主のみ手しかありません。どうか、私の手の中にみ手を入れて下さい。私を完全に捕えて下さい〉。

今年も、偶像を当てにして、神なしで計画し解決する誘惑にあったとき、小さいテレーズの次の言葉を思い出しましょう。〈私は、何事もすべてを心から、愛をもってやりたい。苦しむことも、楽しむことも、心から、受け入れます。……私の天職、それは愛です〉。

愛がすべてだと悟った人はしあわせです。新年に当たり、合い言葉として、心に記したい。

〈すべてを愛をもって！〉

（パリ外国宣教会　八王寺教会）

いくたびのわがいたづきをまもりこし なれなかりせばわれあらめやも

会津八一

かのときのことのは

森山　敬三

『寒燈集』に所収。号は秋艸道人。渾斎。坪内逍遙に師事し、二十一歳のとき、子規を訪問。東洋の古美術、短歌、書道など、どの分野をとってみても、それぞれ一家言ある一流の人で、しかもそれ全体は、学匠魂でつらぬかれていた。独身であったので、家事雑用のため二十歳の高橋きい子を養女にした。きい子は、昭和二十年七月三十四歳で亡くなるまで、八一の、良き助言者、保護でもあった。そのとき彼は六十五歳であったが、哀傷のあまり、山鳩二十一首を詠じた。豪放磊落の彼にして、なおこのような歌がと思うと、悲愴の感に打たれる。塾生と自分のため秋草堂学規として次の四か条を残した。一、深くこの生を愛すべし　一、省て己を知るべし　一、学芸を以て性を養ふべし　一、日々新面目あるべし

イザベリーナ貝沼梅子さん

平山高明司教様（大分教区長）のご母堂。十一月二十四日古賀教会で葬儀ミサ・告別式が執り行われた。

一月命日の司祭

＊ジェームス・ドノフ師（聖コロンバン会）一九八五年一月二日元菊池教会主任
＊ジャン・マリ・マルタン師（パリ外国宣教会）一九七五年一月十八日元大牟田教会主任
＊グスターブ・ロー師（パリ外国宣教会）一九五〇年一月一日元人吉教会主任
＊アウグスチン・ハルブ師（パリ外国宣教会）一九四五年一月十四日元崎津教会主任
＊ルドビコ・ガルニエ師（パリ外国宣教会）一九四一年一月十九日元大江教会主任
＊ジョゼフ・フレスノン師（パリ外国宣教会）一九二九年一月元久留米教会主任

編集室から

▽クリスマスと新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は「教区報」を可愛がっていただきありがとうございました。

今年も、誠実に出来るかぎり正確かつ迅速な情報の伝達を心掛けてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

▽「時の話題」の新富先生には一年間、特に教育の視点から書いていただきました。考えさせられることが沢山ありました。あつく御礼申し上げます。先生の今後のご活躍をお祈りいたします。

今年度の筆者は、熊本地区にお願いいたしました。信徒の目から見た率直なご意見、提言に期待しています。

▽「自由席」は、読者の皆さまの席です。信仰の喜びの体験、ちょっといい話などをお寄せ下さい。文章に自信がないとおっしゃる方は、そのように書いてお送りください。なお字数は、六百字程度でお願いいたします。

▽教区報が相互交通となりますように、情報の提供をお待ちしています。

（W）

テレフォンサービスのご案内

主日の説教が電話で聞けます。

函館　0138-54-5881
東京　03-565-2197
〃　03-359-1880
広島　082-221-0628
（除　月～金　PM1:00～4:00
除　土　PM1:00～6:00）
鹿児島　0992-25-7600

＝お詫びと訂正＝ 当社の'89年度「AV総合カタログ」掲載のテレフォンサービス案内に誤りがありました。お詫びして、訂正致します。
正＝0992-25-7600　誤＝0992-58-3010

お問合せ　中央出版社　ポールメディア
160 新宿区若葉1-5　☎03-359-0451

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

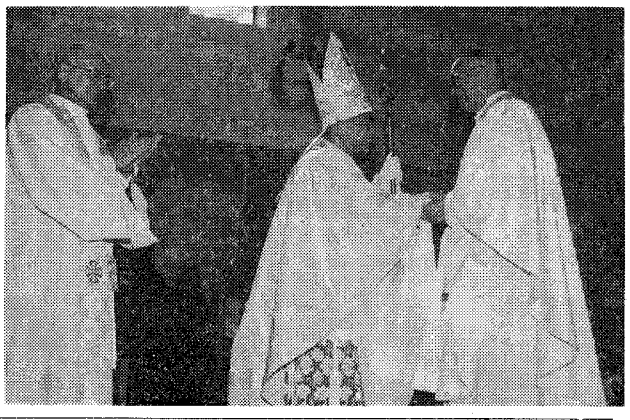
カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—522—5138
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

松永久次郎司教着座

福岡教区の新時代始まる

新しい牧者に〝尊敬と従順〟を表明



牧杖は平田司教から松永司教へ

福岡教区の新しい牧者となった松永久次郎司教の『着座式』は、晴天の一月十五日午前十一時から、福岡カテドラルで盛大に挙行された。

この日を待ちわびたように午前九時には、参列者も集まりはじめていた。

第五代目の福岡教区長となる松永司教は、長崎県平戸の出身。このため式には、長崎教区から約四十名の司祭たちと百名にのぼる信徒、修道者たちも駆け付け、聖堂内は、超満員。四階ホールと駐車場大テントに設置されたモニターをみての参列者も多数にのぼった。またプロテスタント教会の教役者や仏教の僧侶も特別に招待され、最前列で敬けんに式を見守っていた。

着座式ミサは定刻の午前十一時、教皇庁大使W・A・カルー大司教を主司式として全国の十七名の司教、百四十名の司祭団の入堂行列によって始まった。説教を担当した平山高明司教（大分教区）は、「福岡教区にはユーモアのセンスに溢れた素晴らしい牧者が与えられました」「深い信仰と学識に恵まれた、使徒たちの後継者である松永司教様のよき協力者になってほしい」と語った。

続いて、教区事務局長の渡辺隆義師が教皇ヨハネ・パウロ二世から送られてきた任命書を朗読。引き続き、前教区長の平田三郎司教が牧杖を松永司教に手渡した後、カルー大使が牧杖を手にした松永司教を司教座に導き、第五代福岡教区長を宣した。

着座したばかりの新教区長に対して、司祭、修道者、信徒の順で、尊敬と従順の約束を表明した。

子供たちも歌と贈物で歓迎のセレモニー

ミサの後の祝賀式典で、カルー大使は、「平田司教様は人々が完全に一つになるようにとのご自分のモットーを立派に果たされた」と前任者を称賛した後、教区民に対して、アンティオケのイグナチオの言葉を引用して、「イエスがおん父に対して従順であったように司教に従順でありなさい」と呼び掛けた。

また司教協議会会長の白柳誠一大司教は、「松永司教様には〝おめでとう〟という言葉を言うのを躊躇します。というのは司教職のご苦労を知っているからです」とユーモアを交えての祝辞と共に、戦争の危機に遭遇している湾岸地域に言及し、「世の中の苦しみ、悲しみは、教会の苦しみ、悲しみです。平和のために働くようにとの呼び掛けが今なされている」と語った。

教区民を代表して歓迎の辞で青木保師は「歴代の教区長のもと確固とした礎を築いた福岡教区に松永司教様をお迎えできることは望外の喜びです。今、司教様と心を合わせて神の国の建設のために邁進していくことを決心しています」と述べた。

司祭たちに協力を要請する松永司教

着任に暖かい歓迎

松永久次郎司教の福岡教区長着任式が十二月二十七日（木）午後四時から福岡カテドラルで行われ、約七十名の教区の司祭たちをはじめ信徒等多数が出席した。

着任式は、聖体賛美式の典礼をもって行われ、まず教区事務局長の渡辺隆義師が駐日教皇庁大使W・A・カルー大司教の手紙を読み上げ、教区民に新しい教区長を告げた。

聖書の朗読に続いて松永司教が説教。「神の教会の発展のために私を道具として使っていただきたい」と語り、「まず父なる神に心を開き、愛の集いである教会を証ししよう」と呼びかけた。

また司祭たちとの会食で司教は、「神父様方のお手伝いをしたい」と語った。

祝宴でカルー大使と乾杯、右側は平田司教

牧杖の賜り物に思わず微笑

挨拶の後は、子供たちによる歓迎セレモニー。松永司教に教えていただくために聖書を、祭壇から祈っていただくためにストラを、迷っている時に探し導いていただくために羊飼いの杖を聖歌隊の歌と一緒にプレゼントした。また参列の司教全員には一輪の花が贈られ喜ばれた。

最後に松永司教は、「あつい祈りの中で、着座を挙行していただき感謝で一杯です」と感謝の意を表し、教区長としての働きの中心に「司祭の召命の増加」と「信者であってよかったと思える信者の養成」を考えていると語った。

諸宗教者を代表して古川泰龍住職が祝辞

祝賀会場となった西鉄グランドホテルには、教区内外から約五百名が出席。安田久雄大司教（大阪教区）の開会の祈りの後、信徒と修道者の代表がそれぞれ歓迎の挨拶。来賓の島本要大司教（長崎教区）は「福岡は九州の政治、経済、文化の中心でもあり、カトリック教会の役割はことのほか重大である」と福岡教区に対する期待を表明した。また、熊本県玉名にあるシュバイツアー寺の住職古川泰龍師は「今回仏教者である私が招かれたことは仏教界にとっても大きな意味を持っている」「世界の平和のために働くカトリックにいろいろ教えていただきたい」と述べ、盛んな拍手を受けていた。

祝宴は、深堀敏司教（高松教区）の乾杯によって始まり、S・オチョア師（イエズス会）のピアノの演奏もあるなど、和やかな雰囲気の内に喜びを分かち合った。

英会話（LL教室）の授業風景

明治学園　創立80周年の式典　高校も男女共学へ

北九州市戸畑の明治学園（コングレガシオン・ド・ノートルダム）が創立八十周年を迎え、去る十一月一日、二日、記念行事を行った。

一日目は約千三百名の父兄を集め、先ず小・中・高の学校公開授業。続いてみことばの祭儀を用いての記念式典、そして小学三年生百二十名によるダンス、中学生の吹奏楽演奏、高校生の英語のスピーチなどがアトラクションとして行われた。

二日は同校卒業生による講演会として、小学生には京都大学教授の伊藤稔氏が、中・高生、同窓生にはコミック作家のわたせせいぞう氏が夢と勇気を与える話をした。

学園関係者は「八十周年を迎え多くの方々のご協力、ご援助に感謝したい。そして何よりも神のみ摂理を思う時、今後も建学の精神に立ち戻りながら頑張ってゆきたい。平成四年度からは、高校にも男子生徒を受け入れ、小・中・高一貫教育を目指してゆくつもりです」と語っている。

時の話題

鈴木明郎

心の鎖国をなくそう

大やけどをしたソ連のコンスタンチン君が入国のためのビザもないまま日本での治療を終え、みんなの祝福を受けて故郷に帰りました。一方、観光ビザは持っているが、働く許可のないまま日本で働いていたイラン人が十三歳の子供をアルバイト先での事故で亡くしました。一人は多くの人々に暖かく送られて、一人は入管法という法律の前に冷たく突き放されて、帰国しました。

国境というのは、何とも不思議なものです。アメリカとカナダはナイアガラ川に架かる橋で直接結ばれ、その中央に二本の線があり、それぞれ線の内側にアメリカ、カナダと書いてあるだけで、これが国境です。日本は海に囲まれていますから、海の上が国境です。ヨーロッパを汽車で旅行しますと、国境を意識することもなく幾つかの国を通ることができます。この様に物理的な国境線は曖昧なものです。

旅行している時にはそれほど意識もしない国境が、あのイラン人の場合の様にある時には厳しい現実として立ちはだかってきます。

特に、アジアの人達には、日本への国境は硬い扉の様に感じられているのではないかと思います。日本人と結婚しているアジアの人からよく相談を受けます。親兄弟を観光で日本に呼びたいのだけど、日本政府の許可が得られない。何とかならないのかと。ましてや、働くために日本に入国することは大変困難なことです。それでも、政治的・経済的理由から日本に来なければならない人は多くいます。しかし、日本はこれらの人を受け入れる寛容な心を必ずしも持っていません。その意味で、日本は依然として精神的にも閉鎖的な国と言えます。

A・ジャークは、その著「寄留者」の中でキリスト者への挑戦として、難民、移民、寄留する人等外国の人とどう関わるかが問われている、と述べています。それは、イエス様が、善きサマリア人のたとえで、私達のなすべきことを語られたからです。

外国人の存在は私達の心にある国境を暴き、人を人として受け入れるかどうかを問いかけます。「兄弟愛を続けなさい。旅人をもてなすことを忘れてはならない」（ヘブル書第十三章）。

（熊本大学教養部教授　手取教会）

みちくさ

ある修道院で、鐘が鐘楼から取り除かれることになったそうです。それほど芸術的音色とは言えないし、新しい建物にもマッチしないという理由からでした。それを聞きつけた地域の人たちが「そんなことは絶対にしないで欲しい」と頼みに来たそうです。地域の人たちの言い分はこうでした▼「終戦後、まだ日本が貧しかった頃、私たちは、この鐘がなると修道院の門の前に集まりました。食べ物をもらうためでした。今、たしかに食べ物に事欠くことはなくなりました。でも鐘の音を毎日聞く度に私たちは、あの貧しかった頃を思い出し、感謝と同時に自分たちの生き方を考えるのです」▼この住民たちの願いに応えて、鐘は同じ修道会の他の修道院の鐘楼に取付けられ、今も新しい住民に時を告げ知らせています。もちろん、多くの人はこの鐘の由来を知りません。だから「もっと音色のいいのにしたら」とか「今どき、鐘なんてはやらない」といって、修道女たちを悲しませるのです▼このように、人々の心を伝える物は私たちの回りにいっぱいあります。たとえば、小教区の教会の敷地の中には、一人の主任司祭の趣味を超えて、信徒たちが心を込め、汗水流して造った建物、木や草花があります。一見、取るに足りないと思われる〝物〟に対する配慮が、とりもなおさず、信徒たちの心情に対する思いやりなのです▼自分の趣味を押しつけるのでなく、共同体の心が十分に活かされるような配慮が求められます。そのためにも十分過ぎるほどの対話が必要です。共同体全体が真に活気を帯びるためには、古いものを情け容赦なく切り捨てず、それにかかわった人々の純粋な心にまず思いを馳せ、その心を活かすための創造的働きが大切だと思うのです。一つの鐘のエピソードは、物の奥に隠された人々の心のぬくもりに私を導きました。

新春インタビュー

松永司教様に聞く

着座式を目前にした一月五日、編集部では松永司教様にインタビューを行った。司教館広報室できさくにインタビューに応じられた司教様は、評判どおりの頭脳の明晰さとユーモアのセンスを駆使して応答され、楽しい対談のひと時となった。

ユーモアを交えながら
質問に答える松永司教

――司教様、お忙しいところを教区報のインタビューのために時間をさいていただきありがとうございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

自分の家族のなかに帰ってきた気持です

司教　こちらこそ宜しく。

――これまでにも何回か福岡にお見えになられていたわけですが、今回、新しい教区長としてお出でになられてのご心境はいかがでしょうか…。

司教　そうですね。教区長として赴任するとは夢にも思っていなかったので、何か、遠い国に来るような気持もありましたし、幾らか違和感といいますか、こだわりのような感じも正直ありました。

でも、赴任した暮れの二十七日に福岡教区の神父様方をはじめ信徒の皆さんから、暖かく迎えて頂いて何となく心のほぐれるような気持になりました。

それから、大名町教会で元旦の朝にミサをして、信者さんたちと一緒にしばらく時を過ごして、いろんな方とお話をしたんですが、その時、自分の家族の中に来たんだなぁという気分になりましたね。

もちろん、福岡教区の歴史的な事など未だよく分からないし、ここでの活動、事業なども分からないのですが、ま、自分のふるさとにいるんだというような気持でやっていっていいんじゃないかと思っています。

日本マンガ昔話などを楽しくみてますよ

――皆さんもお知りになりたいと思うのですが、司教様はどんな趣味を持っておられるのですか……。

司教　特別な趣味とかないので、無芸大食というところじゃないかと思いますね。強いて言うと、かるい読物、昔話とか落語とかの読書でしょうか。それに、いろんな国の面白い表現なんかを調べたりするのも好きですね。

子供の頃からスポーツが下手で、とにかく鈍感な方だったので、一種のコンプレックスを持っていたんじゃないかと思いますね。

――テレビの番組ではどんなものをご覧になりますか。

司教　そうですね。時代劇なども前はちょっと面白かったんですけど、近ごろはほとんど見なくなりましたし、歌謡番組などは全然見ませんし……。年末にドラえもんを見たくらいです。実を言いますと、長崎にいた時は「日本マンガ昔話」を必ず見るようにしていたのですが

子供たちと親しく握手（着任式で）

福岡ではまだ一度も見ていないんです。

使徒聖アンドレアの生き方にひかれます

――司教様が最も尊敬しておられる聖人を教えていただけますか。

司教　ウーン、最も尊敬するといえるかどうか分かりませんが、例えば、十二使徒の一人聖アンドレアに心ひかれますね。何故かというと、アンドレアは目立った活動はしなかったのでしょう、共観福音書には余り出て来ません。だけど、たまたまヨハネが友達だったので、ヨハネが年をとってから福音書を書いたときに書き残してくれました。ヨハネ福音書に三回ほど出てきます。

一つは、兄さんのペトロをイエズス様に紹介したことです。

二つ目は、パンの奇跡のとき、五つのパンと二匹の魚を持っている少年を探し出してきたことです。仲間のフィリポは計算が上手だったのでしょう。「二百デナリオ分のパンでも足りないでしょう」と言いました。ところが、アンドレアは計算はうまく出来なかったけれども、一つ、二つでもパンを持っている人はいないかと探しに行って、五つのパンと二匹の魚を持っていた少年を探してきて、イエズス様と引き合わせました。

それからもう一つは、イエズス様の公生活も終りごろのエピソードです。あのときアンドレアは、異邦人をイエズス様に引き合わせることに協力しました。この時イエズス様はあの美しいことば「一粒の麦が地に落ちて死ねば多くの実を結ぶ」と言われたのでした。このようにアンドレアは、自分が主役じゃないけど人をイエズス様に引き合わせるという役をつとめたようです。

アンドレアはペトロの弟でありながら、福音書をみてもわかるように一番大事な三人仲間つまり、ペトロとヤコブとヨハネの三人の中には入れられませんでした。でも、人をイエズス様に引き合わせた役割を若き日の友達のヨハネが憶えていてくれた。

そんなアンドレアの姿にひかれますね。

司祭の召命の増加に努力
信者には信仰の〝喜び〟を

歴史上の人物では一般民衆に関心

――最も尊敬する歴史上の人物ではどうでしょうか。

司教　それがね、考えてみたのですけどね、あんまりいないんですよ。というのは、聖者とか偉人とか知識人とかいわれる人達にも何となく悪い一面もあるような気がしましてね。孔子だって、シュバイツァーだって。何かこう、英雄とか豪傑と言われている類いの人は大抵、他の人を押し潰して名を残したわけでしょう。強いて私が一番心を打たれるといえば、その時代時代を生きた一般民衆ということでしょうか。

教会の歩みについても、似たことが言えるのではないでしょうか。答えにならないかもしれませんが……。

――そうかも知れませんね。聖書以外で、司教様に非常に影響を与えた書物というとどんなものがありますでしょうか。

司教　幼きイエズスの聖テレジアの「小さき花」と「イミタチオ・クリスティ」くらいでしょうか。他に「鮮血遺書」ビリヨン神父様の書だったと思いますけど、古い本です。子供の頃読んで……。子供が読むには難しい本だったと思うんですけど、それがなぜか印象に残っていますよ。

ロザリオは私の霊性
十五玄義を歩みます

――司教様ご自身いろんな本をこれまで書いておられますが、これからもお時間があれば……。

司教　いやー、私は、なんと言いますか、あまり内容の深いものは書けないので。幸いにも「祈りと秘跡」などは、新しく洗礼を受ける人には必ず読んでもらいますから、というような手紙をもらったことがあります。

私の取りえはやさしいことにあるんじゃないかと思っています。私が話すと難しいことも、やさしくなってしまって誰かが話すとやさしいことも難しくなってかえってありがたく聞えるんですけども…。だから、私が話すとなーんだ、これ位のことかとなるような感じですね。（一同笑い）

私の本は、大抵話したことを書きとめて頂いたものに手を入れたぐらいでして。書こうと思って書いた本ではないのです。

まあー、ただこの年になって、少し歴史のことに興味が出てきましたし、折角福岡にこうしてお世話になることになったのですから、福岡の教会の歴史を少し勉強させて頂いてその中から何か、今の若い人達の心に刻みつけておきたいものを探してみたいなとも思ったりします。

――司教様の書かれた本「ロザリオのこころ」を読まれた方で、司教様が来られると分かってもういっぺん読みなおしました、という方がありましたけど……。

司教　「福岡に行って、あんた何するか」と、尋ねられて、「いやー別に何て計画ないですよ。まぁコンタツ（ロザリオ）ぐらい誦えるでしょう」と言ったところです。私の霊性のレベルは、コンタツを平凡に誦えるぐらい。できれば一本だけでなくて二本でも。

幸い、ロザリオは丁度十五玄義ありますから、十五年後の司教定年まで、最初は喜びの五年間、次は苦しみの五年間、最後はもう少しよくなるかな…と思っていますけどね。（笑い）。

時の流れ水の流れ
自然体が基本です

――それでは、教区長として司教様の抱負をお聞かせ頂きたいと思いますが。

司教　特別にないんですけどね。

時の流れ、水の流れのままに、といったようなことですけども……。

そんな中で、まず、やっぱり司祭の召し出しを何とか増やしたい、育てたいと考えています。確かに、教会において神の民の共通祭司職が基本ですけれども、しかしそれを活性化する働きは、叙階の秘跡による祭司たち、いわゆる神父様たちですから、立派な神父様が育つようにと……。

でも、質の良い神父様が育つためには、どうしても数が必要だと思います。私はいつも言うのですが。数がなければカスになる、カスがずーっと続いていったならば、あとではガスになって消えてしまう……。（一同笑い）。

もう一つは、信者であって良かった、としみじみと思えるような信者にしたいと。信仰の喜び、とか何とか、言っていますけれども、やっぱり信者であって良かった、と身に沁みて感じる時が、本当に信者のしあわせな時じゃないかと思います。そういう方向にいくような教育というか、養成ができたらなぁーと、そんなことを思っています。

皆さんもアイデアと汗を出してください

――なるほどですね。最後に教区の皆様方へのお願いというか、ご希望みたいなものがありましたら……。

司教　そうですねー。いろんなご意見を出して頂いて、お互いの交流の中で、お互いの交わりの中で、すべてを進めていきたいと思っていますので、率直に意見を述べて欲しいし、いろいろ手伝って欲しいということです。

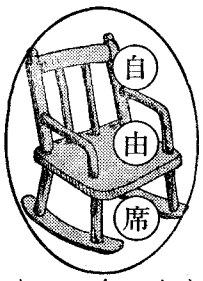
教区をよくするために、何か自分のできることを見つけて積極的に協力していただきたいと思います。アイデアを出す事も、実際に汗を流す事もですね。

もう一つは、あんまり急がないで、ある程度「時」を下さい、ということでしょうか。大事なことはゆっくりしかできないのですから。急激な改革、変化ではなくて。昔の人達のした事の中には隠された知恵があります。それを大事にしながら、少しずつ育てていくようにしなければいけないと思います。そのためには「時」が必要と思います。ある意味では忍耐をもっていただきたいという事が私の願いです。

――どうもありがとうございました。これからどうぞ宜しくお願いいたします。

四旬節、黙想会に参加してみませんか

マテオ神父



主イエスを信じる人は、だれでも、心の奥底に、この主をもっと深く愛したい近づきたい、親しく知りたいと憧れを抱いています。

一方、主ご自身も、このような親しさをお望みになっています。「私よりも父や母を愛する人は、私にふさわしくない」（マタイ10・37）ここまでにおっしゃるほど、主イエスは私たち一人ひとりと深い結びつきをお望みになっています。

今の世の中、あまりにも忙しすぎます。信者の皆さんも例外ではありません。毎日の仕事に追われて、忙しい忙しい、ああ忙しい…あなたと。イエス様があなたとの出会いを待ちかまえていますのに。

黙想会は、イエス様と出会い、神様とゆっくりと深い交わりを結ぶ素晴らしいひとときです。静かな森の中の黙想の家で過ごす恵みの時です。

もっと深く祈って、神様をあなたの心の中にお迎えできれば、大きな力が湧いてきます。あなたが毎日の生活で負う重荷を軽く感じるほど、大きな力を感じて元気になります。黙想の間に、心が和やかになり、落ち着いて、体いっぱいに平和を感じることもできるはずです。

黙想を通じて、神様に祈り、深い交わりを結ぶことができたら、あなたは周りの人をもっと大切に豊かに愛せるようになります。広い心で、人を許し受け入れることができるようになります。このように神様と親しくなれば、心に喜びが溢れます。

黙想会こそ、イエス様と出会うよい機会です。今年の四旬節こそ、一度、土曜日の夜から日曜いっぱい、たっぷり神様とサシで語り合って、ほんとうに親しい交わりに入る……そんなひとときを、あなた、真剣に持ってみませんか。

神様は、今も愛に溢れて待っています。

（福岡黙想の家）

四旬節黙想会のお知らせ（土、日1泊）

① 2月16～17日（マテオ師）　② 2月23～24日（畠師）
③ 3月2～3日（鈴木師）　④ 3月9～10日（ガブリエル師）

☆ 四旬節中毎日曜日午後2時より十字架の道行を行います

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話 096―352―3306
096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

熊本市民クリスマス盛会

募金の収益はネパールへ

熊本市

昨年十二月十九日（水）熊本市民会館大ホールにおいてカトリック、プロテスタント合同の熊本市民クリスマスが行われた。第二十一回を迎えた今回も約八百人の聴衆を集め、盛況のうちに終了した。

第一部でに、クリスマスメッセージと祈りを熊本草葉町教会の矢崎牧師が、またミッションスクールの生徒たちによる合同演奏や久しく途絶えていた聖劇も行われた。

第二部では、海外青年協力隊で活躍する東京教区の粕谷甲一神父が『関わりの痛みと喜び』と題して講演し、好評であった。そして最後に全員で「きよしこの夜」を合唱して閉会した。

今回もチャリティーとして入場料と募金の収益金約四十万円をADRA（国際救援機構）を通じて、ネパールのハンセン病の患者のホーム建設資金の一部として送る予定である。

準備スタッフのメンバーとして参加した手取教会の伊藤達也さんは、今回の集いを振り返り「今年は久し振りに聖劇が復活し、耳と目でクリスマスの本来のメッセージを伝えることが出来てとてもよかった」と語っていた。

クリスマス聖劇と円内は講師の粕谷甲一師

宣教百周年行事に初の殉教者慰霊祭

八代教会

八代教会（主任＝中浜一男師）では、同地のキリシタン殉教者を慰霊するミサを昨年十二月九日盛大にささげた。

当日は、沖田八代市長をはじめ地元民も多数参列。殉教者たちに思いを馳せた。

中浜師は、「十一名の殉教者たちの信仰と愛の宣教の精神に倣う決意を今、新たにしよう」と呼び掛けた。

信者たちは、列福の準備がすすめられている殉教者たちが、一日も早く公けに尊崇される日を祈りながら待っている。（写真は〝殉教者の碑〟に献香する中浜師）

家庭

第2回 全国会議に向けて

心の通じ合いにも努力

第一回福音宣教推進全国会議は「生活から遊離した信仰」「社会から隔絶された教会」を反省点とし、社会の福音化、教会自体の福音化をめざし「開かれた教会」づくりの課題に取り組んできた。第二回全国会議はさらに一歩進めて、その社会・教会の基盤は家庭にあるので、その家庭に焦点をあて、家庭の福音化はどうすればよいか、即ち現代社会における家庭の在り方を探っていこうとするものである。

現在の家庭は社会のめまぐるしい変化によってたえず影響を受け、五十年前の家庭像とは大きく違ってきた。物資、機械文明の開発・浸透で家庭は崩壊寸前にあるといっても過言ではないように思われる。この中で育っている若い世代の人達に、信仰をどう伝えていけばいいのか、いや若い世代ではなく家庭の責任者である両親の信仰さえも危うい状況が存在しているのである。

ほとんどの家庭が共働きで、朝の出勤時間が違い、帰宅時間が一定ではなく、父・母・子供がそれぞれバラバラで食事をしている例も数多くあるのではないだろうか。食事だけでなく、生活様式そのものが家庭としてのまとまりを欠く場合も見受けられる。家庭の信仰、家庭の一致を阻害する要因は数多く存在し、例をあげれば限りがないであろう。

さて、その中にあって両親、子供がいかに家庭を大切にし、よい家庭を築いていくかは夫婦、子供の努力・協力・創意・工夫によると思われる。特に親・夫婦の在り方が問題となってくる。神の恵みを信じ、信仰の力で楽しい家庭、暖かい家庭、疲れを癒すことのできる家庭、力が蓄えられる家庭、生命を育む家庭、召し出しのある家庭、思いやりのある家庭、奉仕のある家庭等、家庭像もいろいろあるが、夫・親子の心が通じ合う家庭をお互いの努力で築いていくことが今一番大事なことであり、この機会に家庭をもう一度振り返るチャンスとしたいものである。

小笠原勝己（第一回ナイス推進委員）

コニリー師にお別れ

「秘跡に近づいて」と遺言

十二月十七日、手取教会のM・コニリー師（聖コロンバン会）が帰天。（既報）

大きな体に黒のソフト帽、物静かで熊本地区の信徒を問わず親しまれていたコニリー師の葬儀ミサ（二十日）で手取教会の聖堂は立錐の余地もないほどの人々で埋った。

祭壇の前に安置されたひつぎの横には十三人兄弟の長男であるコニリー師の二人の妹、甥、従弟さんがアイルランドから駆け付け同じ司祭職の道を歩む甥のグリフィン師が平田三郎司教を始め司祭三十名の共同司式に加わった。

平田司教は「四十三年の長きに渡って、司祭職を見事に果たして下さいました。本当にありがとうございました」とその宣教活動に感謝と哀悼の言葉をおくった。

ミサに引き続き行われた告別式の弔辞で手取教会の高木清己信徒会長は「ご自分が病気になられた後も、病人や老人にご聖体を持ってまわる神父さまのお姿をよく拝見いたしました。感謝で一杯です」と語った。

ジョー神父の話　コニリー神父さまの遺言は、「皆さんたびたび〝ゆるしの秘跡〟を受けてくださいということでした」と信徒に話したら、次の週からたくさんの人が秘跡を受けに来るようになりました。

葬儀ミサを見守る甥のグリフィン師（左）

カルメル会の野菜でペルーの青年を支援

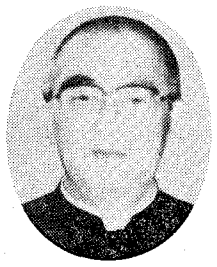
大名町教会

ペルーで宣教活動をしている福岡市出身の大橋美智子さんが十二月三十日（日）、大名町教会を訪問した。

大橋さんは「貧困にあえぐペルーの特に青年たちに自活のためのTシャツ工場を作りたいので援助して頂きたい」と呼び掛けた。

ミサ後「貧しい方々のために役立てて下さい」とカルメル会から頂いた正月野菜を支援のために即売したところ。おせち料理にぴったりと主婦が殺到。助任の森山信三師の「一本二百円の大根が今日は特別に五百円だよ。安いよ」の掛け声にあっという間に完売した。「こんなにスピーディーに応えて下さって感謝します」という大橋さんに、早速、売上金が手渡された。彼女は、福岡に継続的な支援のグループができればと話している。

聖心病院で療養の岩永六郎師帰天



二十九年間半身不随のため、熊本市にある効きイエズス会の聖心病院に入院加療中だったミカエル岩永六郎師（長崎教区）は、一月五日帰天。享年七十六歳。

葬儀ミサ告別式が郷里の浦上教会で、島本要大司教他約百名の司祭たちによって盛大に執り行われ、遺体は長崎の聖職者墓地に埋葬された。

イエズス会

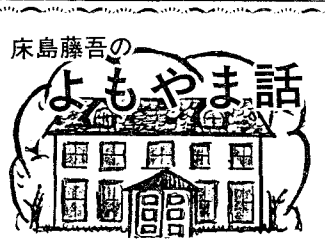
ザビエルの祝日に平田司教迎え集い

昨年の十二月五日、イエズス会福岡修道院で聖フランシスコ・ザビエルを祝う集いがもたれた。

聖体賛美式には、前教区長の平田三郎司教をはじめ県内外から三十名余りの司祭、修道者が与ったが、院長のS・オチョア師は「ザビエルの日本宣教の成功は、彼の人格によるものだ」と紹介。「宣教者としてのザビエルの一途な心に倣おう」と語った。

式の後、参加者は会員たちの手作りの料理とサービスをいただきながら遅くまで歓談していた。

床島藤吾の よもやま話



ヨゼフ会員のこころ

今回は、「ヨゼフ会」のことをお話ししましょう。

私は大神学生をやめてからも教会のために働きたいと思い、糸永一神父様に相談したところ司教館にいくように勧められたのが会員になるきっかけでした。

一九四九年三月十九日の聖ヨゼフの祝日に、深堀仙右衛門司教様によって、他の三名の仲間と一緒に着衣式を行いました。進駐軍の古い背広を祝福してもらっての着衣式でした。

そのうち、会としての形を整えるために会長選挙がありました。当時の会員四名の中には、大分教区長として頑張っておられる平山司教様が司祭を目指す会員となっておられましたが、深堀司教様の「古い者が長となる」との言葉で、不肖私が会長となったのです。まだ三十代が始まったばかりの若き頃でした。

ところで私たちは、四畳半の部屋に雑魚寝していましたが、私は眠っていると私の大きな笑い声でみんなが起こされるというハプニングもありました。

また当時は、ブドー酒は樽で輸入されていましたが、そのブドー酒をみんなで少しばかり失敬して顔が赤くなっているところを司教様に見つかったことがありました。私たちヨゼフ会員の酒とタバコ禁止はこの頃から始まったようです。

会の精神は、「聖ヨゼフの隠れた労働者の精神にならって主に仕え、もって、われらの目的たる永遠の生命を得るため」です。

BOOK 読みま専科

☆聖書を読む ―マタイによる福音書―

高柳　俊一著

マタイ福音書の中で、イエスがどの様な人物として理解されているのかを考え、イエスが真の義を追求し、本当の人間の生き方がどのようなものであるか教え、実行した人であったと理解し、その観点に立って、イエスの生涯と教えを物語形式にまとめている。本書は、マタイ書を教理的にではなく文学的に見ている。

筑摩書房　一、二〇〇円

☆宣教者を育てるイエス

C・M・マルティーニ著　今道　瑤子訳

ミラノ教区の司祭のために霊操の説教集。彼が語るとき、ミラノの大聖堂は若者でいっぱいになると言われるほど、マルティーニ枢機卿の説教は魅力あるものとして知られている。

ペトロがどのようにして、ほんとうの宣教者に育っていったか、イエスは受難のさなかにどのような宣教者であられたか、エマオの弟子たちの心を開いてどのようにケリグマを信じさせたか……。

読者を新鮮な驚きで満たしてくれる。

女子パウロ会　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―761―8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092―711―0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2―21
TEL096―352―2417

会合と催し

二月の行事

※ゴチックは司教日程

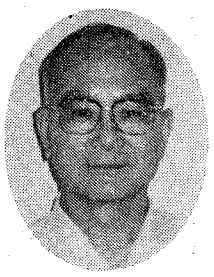
3日　日本カトリック研修センター落成式（名古屋）
10日　教区信徒使徒職協議会（司教館）午後3時
10～11日　「聖週間の典礼」福岡研修会（カテドラル・センター）
16～17日　日本カトリック研修センター開所記念研修会（名古屋）
17日　カトリック医師会福岡支部懇談会　午後4時
20日　福岡地区婦人会委員会（司教館）午前10時30分
24日　老司教会創立十五周年記念ミサ

福岡黙想の家

18～22日　広島教区司祭黙想会
16～17日　四旬節黙想会（マテオ神父指導）
23～24日　四旬節黙想会（畠神父指導）
24～3月2日　聖アウグスチノ会黙想会
3月2～3日　四旬節黙想会（鈴木神父指導）

教区人事

司教総代理に青木保師



松永司教は、司教総代理に青木保師（大名町教会）を一月一日付で任命した。

また、その他の役職については、一月十六日付の司祭たちへの書簡の中で、教会法上の制約を受けないものについては特別の任命があるまでは従来のままである、としている。

第二回福音宣教推進全国会議教区担当に渡辺師

第二回福音宣教推進全国会議の教区担当司祭として渡辺隆義師（司教館）が任命された。

長崎管区司祭会議や教区公聴会などの準備にあたるなど、第二回全国会議へ向けての意識の高揚や教区民の声の吸い上げなどを主な任務としている。

日本カトリック研修センター

各種コースご案内

このほど完成なった日本カトリック研修センターからコースの案内が届いたのでご紹介します。

一、コース名

基礎コース

1『信仰のよろこびをめざして』

2『福音宣教者となるために』

3『開かれた小教区となるために』

サブコース

1『祝福された出発のために』

2『アジアと近くなるために』

3『老いを若く生きるために』

二、ことわりがき

基礎コースは『開かれた教会づくり』をめざしてNICEI『（第一回福音宣教推進全国会議）の柱となった課題を受けついで組み立てられたコースです。

サブコースは『基礎コース』の各論として、分野、年齢などを加味して組み立てられたものです。

三、方法論

・それぞれのコースの流れは『議論中心』や『天下り』方式ではなく、『参加者』と『世話人』がそれぞれに『対話』と『わかちあい』を通して、体験的に学んでいくようになっています。

・それだけではありません。研修センターで行われる各コースは単なる『体験学習』ではなく、体験したことを『福音』と『教会の教え』に照らし合せる習慣を身につけることも目指しています。

それによって参加者一人ひとりと共同体が、ともに神のご計画を『識別』できるようになるためです。何にもましてこのことを大切にしたいと思います。

ふるってご参加下さい。

詳しいことは真接左記までお問い合わせ下さい。

名古屋市昭和区広路町隼人30
日本カトリック研修センター
TEL　052-831-5037
FAX　052-831-5317

「聖週間の典礼」福岡研修会

聖週間の典礼を、講義、実習、聖歌練習によって学ぶ集いです。

場　所：福岡カテドラル大名町教会
日　時：2月10日（日）と2月11日（祝）
講　師：土屋　吉正師
（上智大学神学部教授・典礼学）
小田　賢二師
（国立音大講師・教会音楽家）
その他現代典礼研究会スタッフ

プログラム等詳細は、各小教区、修道院にご案内致しております。

問合せ先：
松井神父（福岡小神学校）092-531-6821
深堀　純（大名町教会）　092-801-5351
主　催：福岡教区典礼委員会

研究会

私の生きる道は……
結婚、独身、修道生活

日　時：5月3日(金)15時～5日(日)
昼食後解散
場　所：男子カルメル会大分黙想の家
〒870-11大分市上宗方1800-3
℡0975-41-4012
指　導：宣教クララ会修道女
対　象：35歳までの未婚の女性信徒
会　費：10,000円
＊申込み、問合せは
4月30日（火）までに下記へ
〒876　大分県佐伯市中村東町7-11
℡　0972-23-8659（夜間）
0972-22-2182（日中）
宣教クララ会大分修道院　担当：Sr.柳内
主　催：御聖体の宣教クララ修道会

二月命日の司祭

＊ガストン・オーブリ師（聖スルピス会）一九八五年二月二十六日元大神学院院長

＊フランソワ・ドルエ師（パリ外国宣教会）一九八三年二月二十四日元荒尾教会主任

＊ジョゼフ・ボア師（パリ外国宣教会）一九五七年二月十七日元黒崎教会主任

＊ジョン・オマラ師（コロンバン会）一九七四年二月十四日元荒尾教会主任

＊フランソワ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）一九四〇年二月二十二日元門司港教会主任

編集室から

▽編集の最中、イラクと多国籍軍が戦争に突入。ソ連でもバルト三国への軍事介入が。人類は平和を求めながらいつまでたっても平和を実現できない。戦争の悲劇は罪もない人々の血が流されること。あとに残るのは、憎しみと懐疑だけ。湾岸戦争を第二次世界大戦時の日本の心理と同じだ、といった解説者がいたが、同感である。また、たくさんの戦争孤児が生まれる。

▽湾岸危機の最中、松永司教様の着座式が行われた。来賓祝辞のなかでも「平和」について言及されていたが、ことが起こった時だけ、戦争反対と声を上げるのでなく、日常生活での平和のための地道な活動が、しかも世界的広がりをもった運動が必要だと思うのですが。（W）

死神に見はなされたか老の春

上田　秋成

かのときのことのは

森山　敬三

『俳調義論』に所収。父は不明。四歳のとき母を亡くし、翌年、悪性の痘瘡（とうそう）のため、右手中指と左手人指しるところから、剪枝（鋏）畸人または無腸と号した。現在では、雨月・春雨の二つの物語の故に、我国最高の怪奇文学者として著名であるが、在世当時は、歌人・古学者として知られていた。本居宣長との論争は有名で、日の神はわが国だけにおられるのではなく、中国や他の諸外国にもまします、などと合理的立場から批判した。蜀山人・応挙・呉春・蕪村とも交った。六十四歳のとき、妻に先立たれ、一時は両眼失明の危機に会ったが、左眼だけはとりとめた。七十六歳で死神にとりつかれる前『胆大小心録』に「もうの何もできぬ故、煎茶の人で死をきわめている事じや」と言った。

神さまかげ

計算違いをしないで

徳山　登

昔インドに一人の行者がいました。彼の苦行は、インドの中に知れ渡っていました。

ある日、その行者が《シープ》の神の像の前に立って祈っていました。「神よ私はあなたのためにどんな苦しいことでも、甘んじて受けます。どうぞ何でもお命じください」。その時、銅の唇が動き、神は語られました。「鉢に油をいっぱい満たしなさい。そして、それを頭に載せて、街中を歩きなさい。その間一滴の油もこぼさないように」。

早速、その行者は言われた通りにしました。鉢いっぱいの油を頭に載せ、両腕で平均をとり、町から町へ歩いていきます。

ついに完全に命令を果たして、誇らしげに像の前に立ち神の祝福の言葉を期待していました。しかし、神からは何の答えもありません。行者は泣きそうになって、《油を一滴もこぼさなかったのに》と神を恨むように呟きました。その時です。銅像が大声で叫びました。「神である私に油がいると思っているのか！馬鹿な！いったいお前は私の命令を行っているとき、一度でも私のことを考えたか」。

行者は何も答えられませんでした。油のことで、頭がいっぱいで、神のことを一度も考えなかったことを認めざるを得なかったからです。

神は行者に言われました。「私に油など要るものか。お前が、私のことを思ったために、油を全部こぼしてしまったほうが、私にとっても、お前にとってもどんなによかったかしれない。お前を有名にした数々の苦行を捨て、お前が私を愛することを望む。おろかものよ！」

キリスト様の教えには人間の常識では理解しにくいところがあります。ブドウ畑のたとえの中で午後五時から雇われて、一時間しか、働かず、朝早くから、働いた人と、同じ賃金を頂いた労働者がいます。（マタイ20・61）

この世でよく評価されている人は、徳や才能を持っている人たちです。彼らは役に立ち、当てにされるわけです。

キリストの弟子にとって、大切なことは、何かを身につけ、人より秀でることでも、あの行者のように記録を作ることでもありません。キリストについて行くこと、これこそ大切なのです。海を歩くペトロのように、自分の命を委ね冒険生活に入ることです。息の詰るような、絶望の時もあります。それは恵みの時です。私たちは皆、心に傷を持っています。その傷を私たちの向上のために、神はよく使ってくださいます。

私たちは、一方ではやりすぎることがあったり、他方ではやるべきことをやってないことがあります。神しか、お出来にならないことを自分一人でやろうとしたり、私たちしか出来ない大切なこと、すなわち、主の御手に私のみじめさ、弱さを捧げること、それをなかなかしません。自分の欠点、自分の失敗、自分の罪、よいことなんか一つもなかった一日を主の御手にお渡しするのです。私の生活のわずか一粒だけでも、主の御手によって、変容させてくださるのです。大切な条件は自分の生活のありのままを捧げるということです。神様は私たちの惨めさにそっぽを向くものでなく、むしろ、貴重な真珠のように求めておられます。

《医者を心要とするのは、健康な人でなく、病人である。私が来たのは罪人を招くためである》。

私たちが愛の霊に生かされるならば、イエズスが私たちの弱さを暖かいまなざしで、眺めていらっしゃるのを喜ぶことができるでしょう。物語の行者のように「私のことを考えて、油をすっかりこぼしたほうがよかった！」と言われないように謙遜なる愛をもって、主に対する信頼の道を進みたいものです。

（パリ外国宣教会八王寺教会）

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17—10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195　Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1—4—24
TEL　093—771—3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株) メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ——安心を創る
FUJKI 藤木工務店
福岡支店　〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092—521—0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

復活祭メッセージ

復活は愛の勝利

松永久次郎司教はこのほど復活祭メッセージ『キリストの復活を生きる』を発表した。司教は、キリストの復活を「愛の勝利」として示し、「愛のあかしである十字架の死を通して愛の勝利である栄光の生命へ」と語りかけている。

今年の復活祭は、三月三十一日。四旬節の日々の務めを通して、主の復活の喜びの祝いを準備したいものです。（メッセージの全文は2面に掲載）

ヨゼフ松永久次郎司教

「信仰の根本を考えてみよう」との呼びかけで始まるメッセージは、私たちキリスト者の信仰の基礎に、Ⅰコリント書15章14節のパウロの言葉を引用して、それがキリストの復活であることを思い出させる。

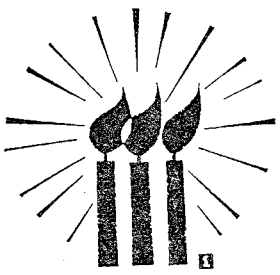
そして、キリストの復活を「愛の勝利」であり「生命の祭典」として位置づけ、人間は愛の聞柄の中で育つもので、愛がないところには「死」があるといっている。

人間は愛されて人間となり、正しく愛することで人間となる。愛は「生命」を生み、育むものであるから。

復活が「愛の勝利」であるといえるのは、「キリストが父なる神の無限の愛の力によって、また御父の無限の愛にご自分の生命を捧げたこたえとして、死を克服し、永遠の栄光の生命に復活されたからである」ともいっている。

よく言われるように、キリストの復活の栄光の生命に入るためには、その前に、人にはまず十字架の愛の死の体験が必要である。なぜなら、私たちは皆罪人であり、神の愛を心を開いて受け入れることができるために十字架を体験する。たしかに十字架は、苦しみと死を意味するが、同じ十字架が、キリストにおいて絶えることのない喜びの泉となるのである。

私たちキリスト者の「信仰の喜び」も十字架の道を通してはじめて真のものとなるとメッセージは結んでいる。



今月のみことば

道、真理、命である師イエズス
（ヨハネ14・6）
聖パウロ会　永富久雄

第二回福音宣教推進全国会議

10月に長崎管区司祭会議

全司祭に参加の呼びかけ

一九九三年秋に長崎で開催される予定の第二回福音宣教推進全国会議に向けた『長崎教会管区司祭会議』が今年の十月に開催されることになった。場所は未定。

長崎教会管区は、長崎、福岡、大分、鹿児島、那覇の五教区から成り、参加を呼びかけられる司祭たちの総数は約三百八十名。

司祭会議のための準備委員会発足を兼ねた初めての会合は、去る一月二十九日長崎カトリックセンターで行われ、島本要大司教をはじめ各教区の担当司祭全員が出席。第二回全国会議の事務局長小田武彦師を交えて、それぞれの教区の現状報告と長崎管区司祭会議の日程、内容などを話し合った。

会議に先だち島本大司教は、昨年十一月にサン・スルピス大神学院で行われた九州地区司教会議での申し合わせ事項として、「司祭会議が全ての司祭への参加呼びかけになること」「第二回全国会議に向けて、その方向性やテーマの視点を探ることなどである」などと語った。

島本大司教の話を受けた準備委員会は日程を二泊三日とすること、第二回全国会議のテーマである「家庭」についての研修を盛り込むことなどを申し合わせた。

さらに司祭会議では、第一回会議と第二回会議のつながりやテーマの取り上げ方など各地の司祭たちから出ている疑問や提案についても率直な意見の交換を行うことになる模様である。

九州の司祭たちが一堂に会して、対話と交流を深める催しは近年にないものであり、成果が期待されている。

一方、これに並行する形で教区公聴会も各教区で開かれる予定で、福岡教区では教区信徒使徒職協議会を中心に司祭、修道者、信徒の声を「聴き・吸い上げ・活かす」という全国会議の精神が具体化されていくことになる。

「家族の日を」と語る松永司教

松永司教と教区信徒協　初会合

家庭の使徒職について

具体的な提案を示す

今年初めての教区信徒使徒職協議会（小笠原勝己会長）の会合が司教館で、松永久次郎司教を迎えて行われた。

会議に先だって司教は、着座式での信徒協の尽力にお礼を述べた後、「福岡教区の神の民としてのこれまでの歩みを継承、発展させていきたいので、宜しくお願いします」と協力を要請した。

また、一九九三年秋に長崎で開催される予定の第二回福音宣教推進全国会議について言及。その中で、「テーマが〝家庭〟となったことは〝時のしるし〟です」と語り、「信徒協の集まりなどでも家庭の使徒職について多角的に考えてもらいたい」との意向を示した。一方、第二回全国会議を準備するための具体的な提案として「家庭（家族）教会を実現するために、それぞれの家庭で、週一回は家族皆が集うように努力すること」。

さらに、位階的祭司職と区別された信徒の共通祭司職を具体的に生きるために「家族が共に祈る集まりの中で、親が祭司的役割を果たすこと」などを提唱した。

司教の話の後、引き続いて予定された議案を審議した。

まず、第二回福音宣教推進全国会議教区担当の渡辺隆義師が、十月までに教区公聴会を開いてほしいとの要望が全国会議事務局よりあるので検討してほしい旨、報告。これを受けて討議した結果、教区信徒協としては、一か所ではなく、各地区で開くことを了承した。また同全国会議の準備のために、司祭、修道者、信徒からなる委員会を設置する必要性を認めた。

これらの議決は、司祭評議会を経て実行に移されることになっている。

その他、第三十回教区クルシリョが五月三日から六日まで黙想の家で開催されることなどが報告された。

初の合同成人式で17名が祝福受ける

筑後ブロック青年会

筑後ブロックの合同成人式が一月二十日、久留米教会で行われた。久留米、小郡、大牟田、本郷、今村それに鳥栖、二日市の各教会を含めた合同成人式に参加した新成人は十七名。緊張の面持ちの中にも喜び一杯であった。

祝福のミサは五名の司祭の共同司式。仲間の青年会のメンバーや保護者ら約百名も加わって、これからの活躍と折からの湾岸戦争終結を求めた世界の平和のための祈りを共に捧げた。

ミサの後に幼稚園のホールで行われた祝賀会では、ブロック青年担当の下町豊重師（小郡教会主任）が「イエズス様が御父のみ旨を大切にされたように、皆さんもそれにならって欲しい」と励ました。また青年会長の山内隆寛さん（久留米教会）は、「教会の教えを正しく学び、子供たちに伝えていこう」と呼びかけていた。

立食形式の会食ではテーブルの上に、青年会の女性陣が腕によりをかけた手造りのスシ、サラダ、フルーツなどのごちそうが並べられ、平田敬師（久留米教会主任）の乾杯の音頭のあと皆で舌つづみを打った。

新成人は一人ひとり抱負を交えて自己紹介。「これを機に青年会で活躍したい」という意欲的な声もあり、盛んな拍手を浴びていた。

救援機チャーター

司教団の声明に福岡教区も協力

湾岸戦争による避難民を移送するための救援機チャーターの拠金要請が日本司教団からなされていたが、松永司教は早速、教区内の全小教区の主任司祭と学校関係宛に手紙で協力を呼びかけた。

これに応える献金は、二月十八日現在、約六百三十万円に達している。

「新聞で知った。貧者の一灯ですが」「子供たちのお年玉の一部です」「テレビの買い替えに予定していたお金です」「学校の生徒会で集めたものです」など、平和への願いが込められている。

大水助祭が司祭叙階

中村彰さんは助祭に

三月二十一日（木）

大水幸一（新田原）、中村彰（鳥栖）の両神学生は、それぞれ司祭、助祭に叙階されることになった。

叙階式は三月二十一日の午前十一時からカテドラルで行われる。

（2面に関連記事）

時の話題

今、福岡教区を思う

谷川二郎

昨年の秋から新春にかけて、福岡教区挙げての大きな催し物と喜びの儀式があった。言うまでもなく昨年十一月十一日のカトリック・フェスティバルと一月十五日の松永久次郎司教様の着座式である。幸いに私はこの両方に参加することができた。

カトリック・フェスティバルは、平田司教様を頂点に、福岡教区の司祭・修道者、そして信徒が一堂に会する最初の感動の場となった。日頃、日曜日のミサを中心とする数々の共同体が、一挙にひとつの巨大な輪となって花開いた感があった。たとえば、熊本地区の踊りの輪の中にあって、私はかつてない大きな連帯感を味わった。仮設祭壇の上には、司教様を中心に、かつて私が見たことのない数の司祭が居並び、会場で見かけるシスターの修道服も、今まで見たことのないものが少なくなかった。多くの人々が総て同じ信仰の持主であるといった意識も初めての経験であった。天国とはこういうところなのだろうかという思いが、何度か私の脳裏をかすめた。フェスティバル参加の感想を一言で言えば、毎日曜のミサでは味わえない感動とでも言えようか。

現在、日本の教会に必要なものの一つとは、このフェスティバルが与えてくれた大きな連帯感ではなかろうか。

松永司教様の着座式も、フェスティバルの感動に勝るとも劣らないものがあった。私共の教会からは、婦人部長と私だけの寂しい参加であったが、式場となったカテドラルでは、入れない参列者のために、モニターが二か所に用意された。祭壇の上に、ローマ教皇庁大使と白柳大司教様を始めとする全国の司教様を目のあたりにするのは初めてのことであった。「司教のいるところに教会はある」という言葉には、揺るぎない信念が込められており、司教様の司牧の理念にも大いに同感するところがあって、嬉しかった。とはいえ高速バスでも二時間余、という福岡と熊本間の隔たりを考えると、これから先、新しい司教様にどれ程接する機会があるだろうかという一抹の不安が残った。

二月十一日には熊本地区で、平田司教様の送別ミサとパーティが行われた。

今、福岡教区は、平田司教様の築かれた礎の上に、松永司教様の新しい発展の時を迎えようとしている。

（熊本大学教授（武蔵ケ丘教会））

みちくさ

一月十七日、ついに中東湾岸戦争が始まった。その日は朝から深夜まで、テレビとラジオから流される情報に聞き入っていた。あれから一か月が過ぎたが、いまだ和平への道は見えない。「正義の為の戦い」「聖戦」という錦の御旗を振りかざし、ハイテク兵器を駆使した武力と武力が衝突している。しかもイラクの武器の多くが西側製という皮肉な巡り合わせ。「戦わなければならない時がある」「生命を賭してまで守らなければならないものもある」と言う人がいる▼だが、今回の戦争は、情報戦によって、一般民衆が適当に踊らされているという感が否めない。どこに真実があるのか見分けるのが難しいのである。「イラクによるクウェート侵攻」とはいっても、もともとクウェートはイラクの領土だったと言われる。だが、そのまた前はとなると、もはや「誰のもの」といった論議がばかばかしくなる。地位にしても、物にしても一旦所有してしまうと手放すのはなかなか難しい▼ところで、日本の社会にも戦争に懲りない面々が結構いる。この機会に一儲けしようとたくらむ人間がてぐすね引いて待っている。「人道的な見地から」とか何とか言って、日の丸つけた自衛隊機を飛ばすことに執心する人の本音はどこにあるのだろうかと勘ぐりたくもなってしまう▼そんな折日本の司教団が、他の団体と協力して避難民移送のための民間航空機チャーターを実現できたことは喜ばしい。もちろん、どの団体が一番機を飛ばしたのか、何機飛ばしたのかという手柄の先陣争いに落ち込んではならない。教会の任務は、次なるものへ、すなわち停戦から恒久的和平、さらには戦災にあった方々への具体的援助へと向かいたい。そのための福音的英知を結集すべきときではないだろうか。読者のもとにこの感慨が届く前に和平が実現していることを切に祈る。

《復活祭メッセージ》

キリストの復活を生きる

福岡教区長　司教　松永久次郎

キリストの復活祭を待つこの季節・わたしたちの信仰の根本について、少し考えてみることにいたしましょう。

一　復活～愛の勝利

カトリックの信仰はキリストの復活に基礎をおいています。「キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です」（Ⅰコリント15・14）と聖パウロが言っている通りです。ところでキリストの復活とはどういうことでしょうか。それは、「愛の勝利」「生命の祭典」とも言えると思います。

もともと人間の生命は、「愛され、愛すること」にあります。神がわたしを見出し愛してくださったので、わたしは生きる者となりました。この神の愛に与かる両親と多くの人の愛の間柄の中でわたしは育ち、いま人間として生き続けています。そして、もし誰もわたしのことを心にかけてくれず、愛してくれなくなったとしたら、わたしは人間の間では死んだも同然です。

他方、人間を愛することを知って自分の生命を生きるようになります。「愛の重さがわたしの重さ」なのです。幼な子が親の愛に笑顔でこたえることができるようになったとき、人間らしく成長したことになります。隣人に奉仕する愛を持てるようになったとき、また夫婦愛・親の愛を正しく生きることができるようになったとき、一人前の人間になります。そして根本的には、神の愛を認めてこれを受けいれ、この神の愛に隣人愛の実践を通してこたえるとき、人間は本当に生きているのです。このように人間は愛されて人間となり、正しく愛することで人間となるのです。

ところでキリストの復活はまことに愛の勝利でした。キリストは父なる神の無限の愛の力により、またその愛に生命を捧げておこたえして、死を克服し、永遠の栄光の生命に復活されたのでした。復活は、「愛され、愛すること」の勝利であり、ここから生命が輝き出たのでした。

わたしたちの信仰はこのキリストの生命に与って生きることにあります。「人間が生き生きとしていること、これが神の栄光です」と教父聖イレネオは言っていますが、わたしたちの信仰の美しい表現の一つだと思います。

二　十字架を通しての愛

キリストは栄光の復活の前に十字架の死を体験されました。キリストは十字架の愛の死を通して栄光の生命に入られたのです。「愛のあかしである十字架の死を通して愛の勝利である栄光の生命へ」。ここに復活の深い意味合いがあります。

人間はすべて原罪の汚れをもってこの世に生れ、原罪の傷あとを身におびて生きていますので、神の愛を心を開いて受け入れるために、十字架を体験いたします。まことに神は「思い上がる者を打ち散らし、……低い者を高く上げ」（ルカ1・51～52参）られます。神は「打ち砕かれて、へりくだる霊の人と共にあり……打ち砕かれた心の人に生命を得させ」（イザヤ57・15参）られるのです。人間はまた、神の愛にこたえて隣人愛を実践するにあたって十字架を体験します。「自分を捨て日々自分の十字架を背負って」（ルカ9・23参）でなければ、キリストに従いその愛を実践することはできません。自分の殻を破って外に出、自分が痛みを受け入れてでなければ、真の隣人愛は実行できないのです。

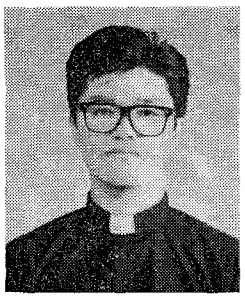
父なる神は、罪なき御子キリストを十字架の死に渡されることで、わたしたちに対する愛を示され（ロマ8・32、Ⅱコリント5・21参）、またキリストは十字架を甘受して、わたしたちのために、父なる神に対する愛を証しされました。これがキリストの十字架です。この十字架の道を通ってキリストは栄光の生命に復活されました。こうして真の愛の道、真の生命の道が切り拓かれ、わたしたちに救いの道として示されたのでした。

「十字架を通して生命に至る」　これがわたしたちの道です。わたしたちは洗礼の秘跡によって、キリストの死と復活に結ばれました。従ってキリスト者はすべて、十字架の苦しみと死を体験致します。しかしこれは愛の道、愛によって引き受ける苦しみです。生命につながる死です。だから苦しみにおいても喜びを保つことができ、肉体の死においても希望に喜ぶことができるのです。十字架は苦しみと死を意味しますが、同じ十字架が、キリストにおいて絶えることのない喜びの泉、もっとも確かな生命の樹となったのです。

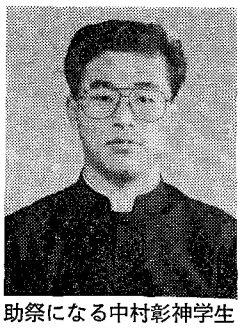
○　○　○　○　○　○

「信仰の喜び」について多く語られるようになりました。正しく相応しいことです。しかし信仰の道、愛の道にはいつも十字架があること、十字架を通してこそ、真の復活の喜びがあることを正しく理解せねばなりません。

叙階式は3月21日です



司祭になる大水幸一助祭



助祭になる中村彰神学生

皆さまのお祈りと励ましによって、司祭に叙階されることになり心から感謝申しあげます。

これからも多くの方々に支えられ、司祭職を生きることになります。この関わりを大切にし、皆さまと心を一つにして、いつもイエズス様を求め続ける司祭でありたいと思います。引続きお祈りとご指導をお願いいたします。

助祭職を受けての抱負は、できるだけ自然体で頑張ることです。具体的には、みことばに親しんで、分かりやすい説教ができればと思います。英語ミサができるように英語をマスターしようと思っています。教区の皆さまにはまだ、直接ご奉仕はできませんが、これからもご指導と、お祈りを宜しくお願いいたします。

ディア　マイ　Fr　コニリー

斉藤　道江

皆様「こんにちは」！手取教会のコニリー神父様を御存知ですか。

私が初めて神父様にお会いしたのは、二十数年前未だ高校生の時でした。身長一九〇㎝、体重一〇〇㎏位のとても大きな方で、口数が少なく、のっそりのっそり歩かれていた事を思い出します。

数年前からいろんな病気をされ、最近では前よりももっともっとゆっくり歩かれていました。「〇〇先生お元気ですか　貴婦人方さようなら」、神父様の前ではみんなが先生、貴婦人、美人になってしまいます。「寒かごたる　そうでござる…」変な日本語を使っては、私たちを愉快にさせて下さいます。ある日、神父様に「私は声もわるいし、音程もはずれるし…」とグチをこぼしました。「私は歌えません」神父様は一言淋しそうに言われました。そういえば神父様が歌われたのを聞いた事がないのに気が付き、胸がしめつけられる思いでした。ドラ声でも音程がはずれていようとも声の出る事を神様に感謝し一生懸命聖歌を歌おうと決心しました。（回りの方ごめんなさい！）

昨年十一月二十六日の夕方、神父様は急に心臓を押さえ倒れられました。三週間の短い入院の後、十二月十七日神父様は意識不明のまま神様に召されました。六十八歳……（神父様をお呼びになるのはまだまだ早すぎますよ。もう少し一緒にいさせて下さったら…）神様にちょっとだけ文句を言いました。

神様　コニリー神父様とお会いできた事を心から深く感謝致します。

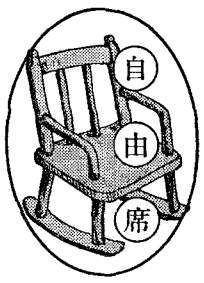
神様を愛し、私たちを愛し、そしてゴミサを愛された神父様、いまは天国でゆっくりお休みしていらっしゃいますか？……いいえ、ゆっくりはできませんよ！だって、みんなが神父様にお祈りを取り次いで頂こうと願っているんですもの。

皆様、手取教会にお出での節は、ぜひ隣りにあるカトリック案内所にお立寄り下さいませんか。コニリー神父様愛用の黒いハットが置いてあります。

（手取教会）

少しずつ大人になっていきます

小浦　孝利



今年はいつもの年明けとはちょっと違いました。回りの人から「今年、成人式だね」とか「成人おめでとう」とか声をかけられるようになって「そういやもう二十歳なんだな」と、ただ漠然としか思っていませんでした。成人と言っても私はまだ学生なので、はっきりとした実感がありません。とは言っても、これからの自分が発する「言葉」「行動」には、責任と言うものがついてきます。

今までは、やりたい事を優先してきました。でもこれでは少年で、やらねばならない事を優先できるのが大人だと思います。

今年の一月十五日は、一つの人生の転換期として、忘れられないものになると思います。そして、世界でも平和と戦争の分かれ目として忘れられない日となると思います。湾岸危機が湾岸戦争へとなりました。「遠い国の事だから自分らは知らん」では、おさまらないと思います。イラクで「今、何が一番欲しいですか」という質問に十二、三の男の子が「マシンガン」と答えたという記事を読んだ事があります。日本で同じ質問をしたら「ドラクエ」とかいった答えが返ってくると思います。

この答えの違いがどのような事かを考えて見るきっかけにして、これから先、社会の事などいろいろと自分なりに考えていきたいと思います。

（久留米教会）

成人式を迎えて決意したこと

川口　博昭

今日一月二十日は自分にとって三回目の成人式でした。地元の長崎の五島と今住んでいる久留米市で成人式に行ったからです。前の成人式は友達に会いたかったり、遊び感覚で行ったというのが本音です。今日の成人式は突然昨日聞いたばかりで、今日が偶然空いていたから、遊びに行ってみようと思ったのです。

そして今日になり、御ミサが始まり神父様の説教を聞いて感じるものがありました。その内容はある町でイエズス様の像が戦争で壊され、修復しようとしたが右手がなくあきらめようとした次の日、イエズス様の像の前に「今まで、私はあなたたちのために手をさしのべてきました。今度はあなたたちが私に手をさしのべて下さい」と書いてあったそうです。

今まで二十年間多くの人の手を借りて育ってきました。自分のわがままを聞いてくれたり何の不自由なく育ててくれた両親、困った時に話し相手になってくれる友人、その他親類の人、先輩、後輩、神父様、多くの人に温かく見守られて今の自分があるんだと思いました。そのお返しとして、困っている人や苦しんでいる人に自分の手を貸すつもりです。いや手を貸す義務があると思います。

この成人式を機会に他人のために役立てる人間になろうと思います。また自分の行動には責任を持ち、人に迷惑をかけないように心がけます。今までの自分の考え方ではなく、一人前の大人として考え、行動していきます。

（久留米教会）

四旬節黙想会のお知らせ　いのちの春、復活祭を迎えるために……

3月9日（土）～10日（日）　光の中へ　ガブリエル師　Br. 梅田
16日（土）～17日（日）　イエズスさまとの親しさ　マテオ師　Br. 梅田
23日（土）～24日（日）　十字架の死に至るまで　ガブリエル師　Br. 梅田
土曜日夕食（午後6時）～日曜日午後3時半頃まで　会費 六千円（一泊三食）

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096—352—3306
096—352—8622

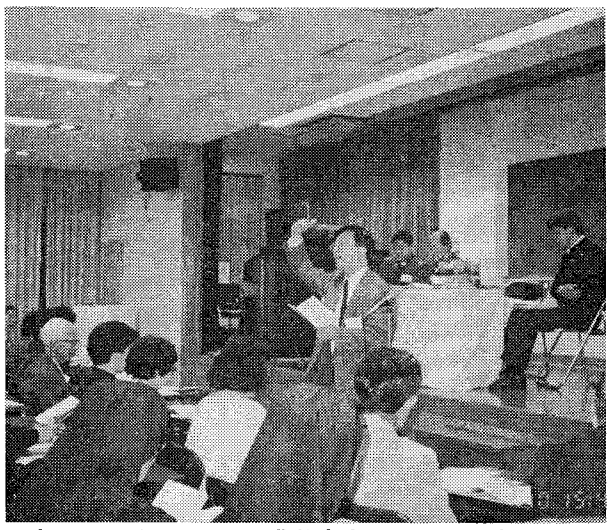
別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

典礼研修会

聖週間は典礼暦年の頂点

各分野の専門家が講義を分担

四旬節の開始を間近かにした二月十・十一日の両日、カテドラル・センターを会場に「『聖週間の典礼』福岡研修会」（主催＝福岡教区典礼委員会）が開かれ、九州一円および中国、四国から司祭、修道者、神学生、信徒、約二百五十名が参加。「現代典礼研究会」のメンバーを講師に典礼暦年の頂点である聖週間の典礼について、いろいろな角度から研修が行われた。



小田賢二氏のタクトで典礼内容にそった聖歌の練習

研修会は、山本量太郎師「導入、土屋吉正師（上智大教授・典礼学）が現在の典礼を歴史的背景を、そして、小田賢二氏（国立音大講師）が聖歌をそれぞれ担当する形で進められた。

四旬節の入祭の歌「神を求めよ」を歌ったあと、まずキリストの生涯に及ぶ完全な神への奉仕を一年の周期として記念する典礼暦年の頂点が聖週間であり、中でも受難と死を通して復活の栄光に移られた主の過越しを祝う聖なる三日間であると位置づけた。

つづいて、受難（枝）の主日から始まって、いわゆる聖なる三日間の聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、復活の主日まで順を追って、特にその日の特異な式について、典礼書の注記にのっとって解説が行われた。

各聖日の説明に先立ち、四宮越俊光氏（上智短大講師）が、エゲリア巡礼記を使って歴史的背景を、そして、小田賢二氏（国立音大講師）が聖歌をそれぞれ担当する形で進められた。

四旬節の入祭の歌「神を求めよ」を歌ったあと、まずキリストの生涯に及ぶ完全な神への奉仕を一年の周期として記念する典礼暦年の頂点が聖週間であり、中でも受難と死を通して復活の栄光に移られた主の過越しを祝う聖なる三日間であると位置づけた。

つづいて、受難（枝）の主日から始まって、いわゆる聖なる三日間の聖木曜日、聖金曜日、復活徹夜祭、復活の主日まで順を追って、特にその日の特異な式について、典礼書の注記にのっとって解説が行われた。

各聖日の説明に先立ち、四世紀の貴重な資料「エゲリアの巡礼」よりエルサレムでの聖週間の典礼の有様が紹介され、現在の典礼のことばとしるしが遠く主の生きた時代近くにまでさかのぼるものであることが示された。

聖歌練習は典礼の内容に添って適宜挿入され、ことばを深く味わいながら歌うことが繰返し強調され参加者は聖歌が「音楽の衣をつけたみことば」であることを実感した。

この研究会は、主催者の予想をはるかにこえる参加者があり、典礼に関する関心の深さを示したものであった。

参加者の声

＊さらに深めるために毎年開いてほしい。

＊講師の方々が、それぞれの専門分野から解説し、チョット疲れてきた頃、聖歌の練習が入るといった具合で「みんなで捧げるミサ典礼」という実感を持てました。

家庭

第2回全国会議に向けて

語り合える家庭に

幾人かに「あなたにとって家庭とは？」と聞いてみた。様々な答が返ってきた。「安らぎの場・帰る所・わがままができる所・忙しいが充実できる場・夢が語れる所・必要とされている所・等々」

私は、それらの情景をイメージしてみて久しぶりに深い想いにうたれた。間違った者を許さないルールで管理されている社会と、家庭は全く異なった本質をもっていることに気づいた。たとえ未熟でも、間違っても、落ち込んでも、そこに不都合な何事かが起こっても、家族の一人ひとりが関わり合い支え合っていて誰ひとり除外されることがない、それが家庭である。「愛とはぐくみの体験を通して神の業を見る場なのだ」と気づかされた。

今日、家庭の諸問題は、もしかしたら私たちが理想的な家庭をつくるため、社会のメカニズムを家庭に持ち込もうとして、いや、すでに持ち込んでいて、最も善きもの、祝福に満ちた生活から遠ざけられて混乱しているのではないだろうか。今、私たちに必要なことは、家庭の中に愛と、はぐくみの心を取り戻し、真実を分かち合える姿を回復することではないだろうか。

まず手始めに幾組かの夫婦・家族が月に一回でも集まって家庭の生活を語り合い、見直すところから出発してもよいのではないか。共通な理解ができ、体験を共有できることの喜びが相互の家庭生活を更に豊かにしてくれるものと思う。是非家庭会のようなグループ作りを推進し、共に祈り合い支え合う仲間作りを広げてゆきたいものだ。

私の家庭イメージは、ロザリオの環である。百五十個の珠を差し通している芯のように、家族の様々な立場・出来事・想いをつなぎ合せて一人ひとりが関わり合いの環をつくり、キリストに結ばれているロザリオこそ家庭のシンボルである。私たちの理想はマリアである。マリアと共に一歩ふみだそう。

追立季治（教区家庭委員会委員）

青年たちと若手司祭交流会

今年は独自の行事

谷口委員長方針を語る

青年リーダーたちと若手司祭たちの交流を促進しようと一月二十七日、「福岡教区青年委員会」と青少年担当司祭たちとの合同の新年会が司教館で行われ、青年二十数名と若手の司祭八名が集った。

青年委員会の方は、三月の各ブロック委員の交代、それに伴う役員改選をひかえ現ブロック委員（福岡、北九州、筑後、佐賀、熊本の各ブロック委員二名）に新しい顔ぶれを加えての参加となった。

まず、青年委員会の谷口和則会長（新田原教会）が昨年一年間の振り返りと今年の豊富について、「昨年は、カトリックフェスティバルに協力する形になったが、今年は独自の活動をしていきたい」と抱負語った。

その後、大名町教会の青年達の手作りのサンドイッチとお寿司を食べながら、しばし歓談し、みんなでビンゴゲームをするなど、和気あいあいのうちに親睦のひとときを過ごしていた。

青木悟師（教区青年担当）**の話**　この集いを通して、青年達と司祭達との交わりが深まりました。これからも、互いに一致協力して教区の青年のために頑張っていこうというお互いの心を感じ合うことができたのではないかと思います。

青年たちと歓談する青木悟師（中央）

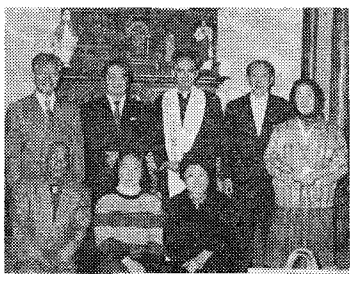
鵜野神父の聖母像

無人の野首教会に信仰の灯をともす

鵜野泰年神父（大楠教会）とその協力者七名が去る一月十七日、マリア像二体とイエズスの御心像をたずさえて上五島の野崎島にむかった。ご像は、小値賀（おじか）町出身の長崎県会議員北村誠吾氏の依頼を受け、野崎島の中腹にある野首教会に納めることになったもの。

明治四十年ドロ神父の指導を受けたという鉄川与助（今村教会製作者）の初期の作品である野首教会も、昭和四十年に信者がいなくなり、教会堂だけが取り残されていた。荒れ果て朽ち果てるのを見かねた小値賀町と長崎県民の尽力で県の文化財に指定され、煉瓦作りの見事な教会堂がきれいに修復された。

鵜野泰年師の話　小値賀町教育委員長江口弘志氏の言葉が忘れられません。「教会とマリア様は私達が守りますからどうぞご安心ください」。



野首教会の祭壇の前で

平田三郎司教への感謝と慰労の集い

熊本地区

前教区長平田三郎司教の送別会が二月十一日、手取教会で行われた。

熊本地区の十六名の司祭と共に約四百名の信徒が見守る中、司教は荘厳にミサを挙行。「自分が教会に住むようになり司祭の苦労がわかってきた」という司教の説教には実感がこもっていた。

ミサの終わりに新しい牧杖として老人用の杖が渡され暖かい爆笑を誘った。その後は信徒会館で立食パーティー。

送別会には平田司教への暖かいねぎらいの心が満ちていた。

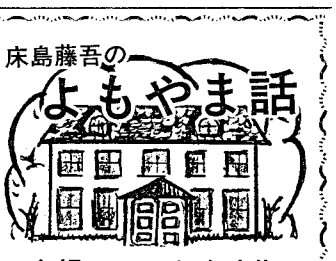
三十四年ぶりの新築園舎が完成

聖クララ幼稚園

宮崎カリタス修道女会経営の聖クララ幼稚園園舎（福岡市）が一月二十三日、三十四年ぶりに新築落成し、関係者約五十名が見守る中、松永司教他近隣の数名の司祭たちにより厳粛な雰囲気のうちに祝福式が執り行われた。

シスターたちは、「子供を主体とした教育」「遊びによってゆたかにされる場」を目指すと喜びを語っている。

床島藤吾の



食糧にこと欠く時代

隠れたかたちで福岡教区のお手伝いをさせていただく私たちヨゼフ会の創立者深堀仙右衛門司教様はご自分で翻訳されたドン・マルミオンの「霊魂の生命なるキリスト」をテキストに週に二回ほど霊的講話をしてくださいました。

「報いなど考えないで仕えなさい」と諭される司教様のお話も、時には霊性の深さゆえに私たちを深い眠りへと誘うこともありました。

深堀司教様は、戦時中も国民服ではなくいつも背広を着ておられました。大変質素な生活で、お客様からいただいたお土産をご自分のタンスにしまっていることをしばしば忘れておられました。このため司教様の身の回りの世話をしていました杉山昇さんが「あれはまだ大丈夫ですか」と謎めいた言葉を申し上げると、そのお土産が私たちのところにも回ってくるという具合でした。

終戦直後の物資が不足していた時代、司教館には、英国製のプリフェクトという車がありました。後で国産のトヨペットを購入したのですが、戦後初の車でお粗末でした。

その頃、三輪車も手に入れ、当時ララ物資とよばれていた救援物資を運んだり小神学生のための食料をもらいに、今村教会や本郷教会などを往復するのに大いに役立ちました。救援物資の名目で配給のガソリンを手に入れていましたが、このガソリンが時には食料に化けることもありました。

BOOK 読みま専科

☆うれしいはつせいたい

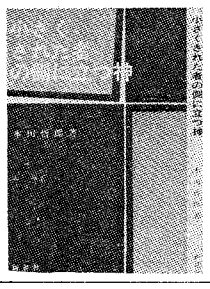
文・景山あき子　絵・天野　誠

子供と大人で準備するワーク付初聖体テキストです。子供の頁、両親と教会学校リーダーの為の頁に分れており、前半の子供の頁は、かわいいカット付で初聖体に必要な学習。後半はその学習の項目毎に、指導のポイントが詳しく説明されています。著者は、子供たちが家族や友達や回りの人々と、祈り支え合って初聖体の日を楽しく待ちながら準備することを願って書いています。「ゆるしの秘跡」の準備、告白場での祈り、記念の頁もありますから、テキストとして使用した後も、記念にとっておけます。

女子パウロ会　六八〇円

☆小さくされた者の側に立つ神

本田　哲郎著



「貧しい人々を優先する」「弱い立場に置かれた人を優先する」ということを日本の教会は、採択して歩み始めました。これは時代の要請からという理由ではなく、救いの歴史における神の働きと、私たちの「道」であるイエス・キリストの宣教姿勢に一層近いものである事が聖書から確認できることを、著者は丁寧に説明しています。

新世社　一、三五〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4－9－4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

三月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　茶山教会堅信式
福岡地区信徒協（大名町教会）
4日　青少年担当司祭集会（司教館）
8日～11～12日　聖母訪問会
教区事務局長全国会議（東京）
16日　選任式（サン・スルピス大神学院）
午前10時30分
17日　小倉教会センター落成式
19日　ヨゼフ松永司教霊名の祝日
21日　司祭・助祭叙階式（カテドラル）
午前11時
24日　受難の主日（枝の主日）
25日　ウルスラ会誓願式
28日　聖香油ミサ（浄水通教会）
午前11時
主の晩餐のミサ（カテドラル）
午後8時
29日　聖金曜日の典礼（カテドラル）
午後8時
30日　復活徹夜祭ミサ（カテドラル）
午後8時
31日　復活祭ミサ（カテドラル）
午前10時

福岡黙想の家

2月24日～3月2日　聖アウグスチノ会
2～3日　四句節黙想会（鈴木神父指導）
9～10日　四句節黙想会（ガブリエル神父・Br梅田指導）
16～17日　四句節黙想会（マテオ神父・Br梅田指導）
16～18日　泰星卒業生黙想会
23～24日　四句節黙想会（ガブリエル神父・Br梅田指導）
25～26日　大名中学生黙想会
28日　泰星職員研修会

ごあんない

マリッジ・エンカウンター
夫婦の集い

例年行われていますマリッジ・エンカウンターの集いです。司教団は第2回ナイスのテーマを「家庭」となさいました。家庭の原点である夫婦の生き方を見直す集いです。お二人での参加をお待ちしています。

場所　福岡黙想の家
日時　4月27・28・29日
詳細は左記へご連絡下さい
鈴木忠一神父
☎0940-32-3222
深堀純・邦枝
☎092-801-5351

一九九一年度 第二回 結婚準備セミナー

福岡会場　4月4日（木）
6日（土）
11日（木）
熊本会場　4月
1日（月）
3日（水）
7日（日）
8日（月）
10日（水）
15日（月）
17日（水）
22日（月）
13日（土）
14日（日）
18日（木）
20日（土）
21日（日）

問い合わせ
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎ 092-541-6207

高田三郎氏を招いて 典礼聖歌研修会

春の一日を、高田先生を北九州にお招きして「典礼聖歌」を学ぶことになりました。関心のある方はどなたでも参加できます。

講　師：高田　三郎 氏
場　所：小倉カトリック教会
日　時：1991年4月29日（みどりの日）
9:00 受付（9:30～16:40まで）
費　用：2,000円
申込み先：宮崎（小倉カトリック教会）
TEL 093-921-0093

研究会

私の生きる道は……
結婚、独身、修道生活

日　時：5月3日(金)15時～5日(日)
昼食後解散
場　所：男子カルメル会大分黙想の家
〒870-11大分市上宗方1800-3
℡0975-41-4012
指　導：宣教クララ会修道女
対　象：35歳までの未婚の女性信徒
会　費：10,000円
＊申込み、問合せは
4月30日（火）までに下記へ
〒876　大分県佐伯市中村東町7-11
℡　0972-23-8659（夜間）
0972-22-2182（日中）
宣教クララ会大分修道院　担当：Sr.柳内
主　催：御聖体の宣教クララ修道会

神の優しさ

徳山　登

スペインのある教会に木彫りの不思議な十字架があるそうです。その十字架はキリスト像の右手が十字架から、外されたように下がっています。これには次のような伝説があります。

この十字架も昔は、普通のようにキリストの両手が木の上に伸ばされたものでした。告白場の上に掛けられていたのです。

さて、ある日、一人の罪人が司祭に罪の赦しを授かりました。そして、司祭に「二度と罪を犯さないように」と言われました。ところが、一週間立つと、彼が同じ罪の許しを求めにきました。この心の堅い司祭は「今日は赦しを与えますがこれが最後ですよ」と。

しかし、何日かすると彼はまた同じ罪の赦しを求めてやってきました。「どうかお赦し下さい」司祭は「もう駄目だ駄目だ！」と断りました。その時、塾の十字架から、声がしたのです。「あなたが罪人のために、血を流したのではない。私はこの人の罪をもう赦している」。そして、十字架のイエズスは右手を伸ばして、罪人の頭に按手されました。

≪私は罪人を招くためにきた。≫（ルカ5・32）

神様は、すべての人に対して慈しみの心をお持ちです。特に小さく弱い人、人生の失敗者、搾敗された人、打ち負かされた人、そして罪人達に愛をお示しになります。福音書によりますと、彼らは最も謙遜で神の恵みを受け入れやすい人々でした。イエズスから、霊能が出るので、単純にイエズスにすがったのです。

聖パウロは不思議なことを言っています。≪神様はすべての人を不従順の状態にとじ込められましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです（ロマ11・32）≫

聖アウグスチヌスはご自分の体験から、次のように告白されています。『主よ、私の心はあなたに対する感謝と愛でいっぱいです。私の大きなあんなにも淫らな罪の生活をお赦しくださったことにあなたの愛を知りました。また弱い私が、あなたの恩寵によって、犯さずにすんだ数々の罪の恐ろしさを考えます。そして私が実際に行った悪だけでなく、あなたの御保護により犯さずにすんだ罪の赦しのためにも感謝いたします』。聖アウグスチヌスの著書にキリスト様とご一緒に十字架に上げられたよい盗賊について、対話の形で書かれています。まず盗賊に質問します。「弟子達がキリストを捨て、信じなくなったその時に、なぜあなただけキリストを信じることができましたか。聖書の研究をしたのですか」盗賊は答えました。「聖書研究などしていません。ただ、イエズスが私に目を留めてくださった。そして、そのまなざしの中にすべてを悟りました」。

一人の未婚の女性が赤ん坊を産み人々の軽べつのまなざしに耐え、一生懸命に生きていました。一人のキリスト者の奥さんは「多くの人は、子供をおろしてしまうようですが、あなたはがんばって産みました！ほんとうによかった。私も協力しますから、この子をしっかり育てましょう」と励ましました。

この婦人のように、人の悩みをわが悩みとして、相手を理解し、希望に導くことこそ神様の優しい心を証しするのではないでしょうか。キリストのまなざしに見つめられ、ありのままの自分が無限に愛されているのを知っているものがキリスト者です。イエズスは私たち一人ひとりが無条件に自分を主に委ねることを待っておられます。

いつも赦され、慈しみを注がれている私たちは落ちこんでいる人々に神の優しいみ心を証しすることができるはずです。≪あなた方の父が慈悲深いようにあなた方も慈悲深いものとなりなさい。≫（ルカ6・36）

（パリ外国宣教会司祭　門司港教会）

三月命日の司祭

＊ルッチ・ミケレ師（ミラノ外国宣教会）一九八七年三月二日元鹿島教会主任
＊ルイ・マリ・ベリボ師（聖ドミニコ修道会）一九七七年三月十六日元箱崎教会主任
＊フランソワ・マリ・ヴェイヨン師（パリ外国宣教会）一九七三年三月十二日元唐津教会主任
＊ユゼーヌ・ジョリ師（パリ外国宣教会）一九六六年三月六日元久留米教会主任
＊ジェームス・ドイル師（聖コロンバン会）一九六二年三月二十六日元荒尾教会主任
＊マキシム・ボア師（パリ外国宣教会）一九五九年三月十九日元新田原教会主任
＊ヨゼフ・オブライエン師（聖コロンバン会）一九九〇年三月二日元手取教会主任
＊ジョージ・ベラス師（聖コロンバン会）一九九〇年三月十九日熊本少年の町創立者

住所変更

古賀カトリック教会の住所名称が左記のように変更になりました。

新　福岡県粕屋郡古賀町花見東二丁目二十三番一号
旧　福岡県粕屋郡古賀町大字久保一九二〇―四

香典返しを小神学校へ

◎ステファノ床島菅刀様の香典返しとして床島ハルカ様より、神学校基金のため金一封をいただきました。

故人の永遠の安息をお祈りしご報告申し上げます。

福岡小神学校
松井忠之神父

編集室から

▽その昔、四句節にはさまざまな犠牲が要求されていたといいます。もちろんそれらを忠実に守れば守るほど復活祭の喜びも大きいものでした。でもそのうち、守らなければ「罪」だとなってきて、なんとなくおかしくなってきたように思います。

▽やがて犠牲も各自の自主性が重んじられるようになりました。でも規則がゆるやかになると、復活祭の喜びもそれに比例して小さくなったようです。

▽だから四句節の犠牲は、みんなで相談して〝楽しく〟実行できるものもあればいいなと思うようになりました。とくに家族で相談して決めてはどうでしょう。もちろん復活祭をどれだけ盛大にお祝いするかもお忘れなく…。（W）

かのときのことのは

森山　敬三

あなたの方から見たらずゐぶんさんたん
たるけしきでせうが
わたくしから見えるのは
やっぱりきれいな青ぞらと
すきとほった風ばかりです

宮沢　賢治

『疾中』の「眼にて云ふ」の一節。喀血中、だめでせう　とまりませんな　というようないまわのときでさえ、きれいな青空とすきとほった風とを感ずる賢治の透明な心境を憶う。三十七歳で亡くなるまで「――おれは、たまらなくなったら野原に飛び出すよ。雲にだって女性はいるよ。……」といって、終生めとらず、法華経の熱心な行者として、また農業技士として、岩手の村の人たちとともになって苦楽をわかった。すぐれた詩人として、宇宙と交感するかのような、かずかずの名品を残した。人に見せるためではなく覚え書きとして書かれた「雨ニモマケズ」の一節、サウイフモノニワタシハナッタ。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎ 092-552-8195 Ⓕ 092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL 093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱ メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI 藤木工務店
福岡支店 〒812 福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長 藤木鐵三　福岡支店長 藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL 092―521―0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　渡辺隆義
TEL　092—522—5139
FAX　092—523—2152
振替口座　福岡6—20729
定価一部60円

大水幸一神父様誕生

中村彰神学生は助祭に

奉納を受け取る大水司祭（左）と中村助祭

三月二十一日、福岡教区は三年ぶりの新司祭と助祭の誕生を祝った。大水幸一師の司祭叙階と中村彰神学生の助祭叙階式である。

大水師は新田原教会の出身、福岡小神学校からサン・スルピス大神学院を卒業したばかり。中村助祭は鳥栖教会の出身。

式場のカテドラル大名町教会の大聖堂は、受階者の出身教会はもとより教区各地から多数の司祭、信徒らがかけ付けあつい祈りの中、式を見守った。

司祭職・助祭職の受諾の表明、司教に対する尊敬と従順の約束、諸聖人の取り次ぎを願う祈りと続き、聖霊を願う祈りと按手。助祭にはダルマチカと聖書が、新司祭には祭服や着衣の後、塗油。カリスなど司祭の任務を果たすために必要な聖器具が授与された。

司教は「司祭の誕生は、本人と家族、神の民の捧げ物を神が受け入れてくださった印」と語り、信徒に対しては「司祭にしかできないことを司祭に求めて、司祭に生き甲斐を与えてください」と要望し、特に信徒が司祭を通して秘跡に与るように勧めた。

祝賀式典では、信徒代表の小笠原勝己氏が「新司祭を心から歓迎します。私たちにみことばを語ってください」と祝辞。司祭団を代表して、松井忠之師は「教区に新しい息吹をおくってください」と歓迎の言葉を述べた。

これに対して、大水新司祭は「食べられて味のある司祭になりたい」、中村助祭は「イエズス様と二人三脚でいきます」と応えていた。

式典後は、一階ホールでヨゼフ松永司教の霊名のお祝いも兼ねたパーティー。前教区長の平田三郎司教も「引退後の教区の動きをみて、嬉しく思います」と祝辞を述べた。

今月のみことば

すべての国の人々を弟子にしなさい
（マタイ28・19）
飯塚　J・ノーリス

司祭評議会

新評議員が初会合

年間行事計画など審議

三月一日付で任命された新しい司祭評議会の評議員による総会が三月五日司教館で行われた。

松永司教は「司祭評議会規約に述べられている任務を遂行していただきたい」「評議会で決定される教区や地区の行事を考慮して小教区の行事を企画し、積極的に参加してほしい」などと語った。

今年の年間行事計画では、毎年春に行われている「全司祭の一日研修会」を五月二十八日に、長崎管区司祭会議は十月十四日から十六日まで開催されることを了承した。

また、第二回福音宣教推進全国会議（ナイス）に向けた長崎管区司祭会議や教区公聴会の準備をする教区の準備委員会（仮称）に、新しく第二回ナイスの教区担当となった山元真師を中心に委員会を設けることが承認された。この委員会は、司祭、修道者、信徒から成り、司祭委員には他にS・ライル師（教区家庭委員会委員長）と竹森勇師（老司教会）が加わることになった。

第二回ナイスに向けた教区公聴会は、福岡、北九州、熊本、佐賀の四か所で開催されるが、具体的な日時や場所については、各地区の信徒協、修女連と司祭団との話し合いによって決定される。

教区司牧評議会は、昨年任期満了になった評議員の後任問題について、選出の方法、その他について検討の必要があり、司祭たちの意見を幅広く聞いた上で対応していくことになった。

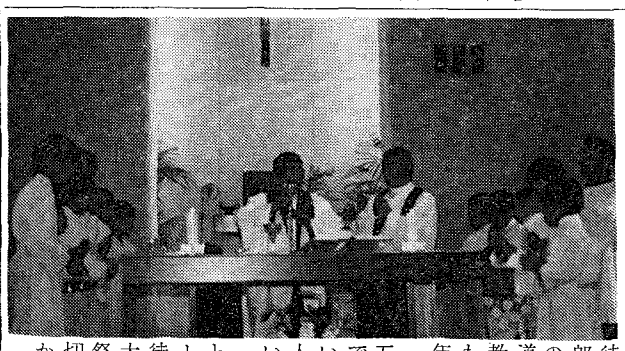
新しい司祭評議員

＊は常任委員

＊松永久次郎司教、＊青木保、平田正喜、山田成章、＊堤要吉、高木善行、中浜一男、畠基幸、春山勝美、竹森勇、山元真、松井忠之、森山信三、J・ブロデリック、＊S・ライル、＊A・ディベロ、C・ピーノ、J・バイヨ、＊H・キニュの諸師（四月一日現在）

老司教会創立15周年

若さみなぎる共同体



福岡市にある老司教会（主任竹森勇神父）が二月二十四日（日）、教会創立十五周年を祝った。

当日はなごり雪に見舞われるほどの寒さであったが、信徒一同は盛大に松永久次郎司教を出迎え、マリアの宣教者フランシスコ修道会や聖心のウルスラ宣教女修道会のシスター達も参列して「創立十五周年記念ミサ」を捧げた。

司教は説教の中で「十五というのは一つの節目です。今後ともすばらしい発展を目指して信徒一人一人の努力と協力を願います」と語った。

ミサ後の松永司教歓迎と十五周年記念セレモニーの中で司教は、まず信徒たちに対して「司祭を大切にして下さい」。司祭に対しては「信徒を大切にして下さい」と語りかけた。

このセレモニーの中で司教は、司祭たちの意見を聞くなどの司祭の任務を果たすために必要な聖器具が授与された。

司教は「司祭の誕生は、本人と家族、神の民の捧げ物を神が受け入れてくださった印」と語り、信徒に対しては「司祭にしかできないことを司祭に求めて、司祭に生き甲斐を与えてください」と要望し、特に信徒が司祭を通して秘跡に与るように勧めた。

祝賀式典では、信徒代表の小笠原勝己氏が「新司祭を心から歓迎します。私たちにみことばを語ってください」と祝辞。司祭団を代表して、松井忠之師は「教区に新しい息吹をおくってください」と歓迎の言葉を述べた。

これに対して、大水新司祭は「食べられて味のある司祭になりたい」、中村助祭は

時の話題

湾岸戦争で感じたこと

渡辺孝之

湾岸戦争が終わり、クウェートはやっと解放されました。この間に、私のしたことといえばミサの共同祈願で戦争の早期終結を願い、恒久平和の到来を一緒に祈ったこと、日本司教団の呼びかけに応じ、避難民移送のチャーター機派遣募金をした位で、あとは専らテレビで推移を見守るばかりでした。

戦争が終わり、まずはほっとした思いです。しかしこれからが大変だと心が痛みます。戦争による二十万近い死者の遺族の悲しみや苦しみは、今始まったばかりです。

傷ついた多くの人々のこれからの生涯は、困難な、辛いものとなるでしょう。戦場で生命を奪われ、危険にさらされるのはいつも無名の兵士や罪なき市民たちです。そして今も、内乱や暴動が続き、平和にはほど遠い状況です。

人間は旧約の時代からどれほど進歩したと言えるでしょうか。荒地と砂漠の中近東は旧約の昔から部族間の争いや異邦人との戦争が頻発しており、中世もそして近世に至ってもこの愚かさは繰り返されています。湾岸戦争もこの延長線上にあると言えるでしょう。悲惨な、人間の罪の営みを長々と記し救世主の出現を暗示する歴史と預言の書、旧約聖書は、時代をこえ人種をこえ、今も人類にその愚かさを語りかけているようです。

人類を罪から救うためにつかわされた御子キリストの愛と平和の福音を、人々が受け入れ、回心しない限り、恒久的平和は訪れないであろうことを、湾岸戦争を通じ主は教え続けておられます。

終戦処理、賠償や戦犯問題、復興、環境回復なども、福音的愛に基づくものでない限り、これからも利権、欲、力が支配する中近東であり、国際社会の秩序も保たれないと思います。

「憎しみのあるところに愛をもたらしめたまえ。争いあるところにゆるしを、分裂あるところに一致を、疑いあるところに信仰を、誤りあるところに真理を、絶望あるところに希望を、悲しみあるところに喜びを、闇あるところに光をもたらしめたまえ」

アッシジの聖フランシスコの平和の祈りが、湾岸戦争の今、ずっしりと重みをもって、心に沁みます。私にできることは祈ることだけのようです。

（熊本短期キリスト教講座実行委員会　手取教会）

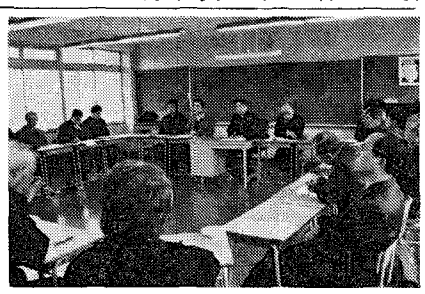
教区の活性化へ

活発な意見交換

教区邦人司祭の集まり

教区邦人司祭と松永司教の初会合が二月十九日、福岡小神学校で行われ、病気療養以外のほとんどの司祭が出席した。

松永司教はあいさつの中で司祭の召し出しについて言及し、「召し出しのための働きは、なにより自分の後継者を必要とする司祭自身の責務である」「青少年、特に高校生以上の若者への働きかけを大切にしよう」と述べた。



教区事務所からは、全国の教勢調査では省かれている世帯数の調査について、教区として世帯数の調査をしたいとの意向が示されたが、「世帯数がそのまま分担金につながる」という危惧が強く出された。これに対して事務局長の渡辺隆義師は「世帯数の調査の目的は、信徒実数の中身を知るためである」と答え、世帯数の概念や項目についてさらに検討してみることとなった。

自由討議では、司教館や教区事務所の充実を図ること。教区の財政、人事、宣教などのビジョンづくりのために、全司祭が本音を出し合い、意見を集約していく場をつくっていこう、などの提案が出された。

司教は、司祭たちの意見を熱心にメモし、「今後の教区の運営のために大いに役立てたい」と話していた。

カトリック研修センター

養成への活用を期待されオープン

名古屋にオープンしたばかりの「日本カトリック研修センター」で、二月十六日と十七日の一泊二日、開所記念研修会が全司教区の司祭、修道者、信徒の代表者各一名を集めて行われた。

第一回福音宣教推進全国会議の実りでもある同研修センター所長の野下千年師は「共に養成し合う場として、さまざまなコースが用意されています」と利用を呼びかけた。

参加者からは「センターならではの企画を」「これまでの自分たちの体験を整理する方法を学び、喜びと希望を持てるように」など多様な期待が寄せられていた。

新編集長に

深堀勝人師

本紙「カトリック福岡教区報」の編集長にこのほど深堀勝人師が任命された。

深堀師の話　教区の皆さまに親しまれている教区報を読者の皆さまと一緒に育てていきたいと思っています。非力ではございますが宜しくお願いいたします。

みちくさ

もう「みちくさ」をくえなくなりました。この日まで、四季折々に人の心の温もり、やさしさに触れながら、旅をしてきました。きままな旅でした。それは喜んで「みちくさ」に付き合ってくださった善意の方々に支えられた楽しい旅でした▼人に偉そうに説教しようなどとは夢にも思いませんでした。そんな柄ではないし、第一みんなこちらよりはるかに素晴らしい人たちばかりだったからです。ちょっとばかり怒りの気持が起きたとすれば、それは、より弱い立場にある人々を軽蔑したり、苦しめたりしている人に出会った時でした▼でもそんな時はいつも自分も同じことをしているのに気付き胸が痛むのでした。人を裁きたくありませんでした。自分が同じ秤で裁かれるのに耐えられないからです。だから恐れおののきつつ語りました。こちらの思いが通じず、字面だけで判断され、お叱りをいただくこともありました。それもありがたいことだと思うようになりました▼「みちくさ」のおかげでたくさんの友だちができました。こちらの心を純粋に受け止めることができた方々です。神さまからいただいた慰めでした。いつもナザレのイエズスの発想にこだわりました。そのため教会の伝統にチョット逆らう印象を与えてしまい、伝統に忠実な方は危惧の念を抱かれることもおありだったことでしょう▼でもこれが、主イエズスに対する私の信仰です。イエズスはどのような人々との関わりを優先されたのでしょう。それは、自分の学識を振り回す人々ではなく、むしろ聖書や神学あるいは律法に疎い人人であり、社会的にも宗教的にも弱い立場に置かれてしまった人々であったことを知りえた今、もはや後戻りはできないのです。主において一緒に旅をしてくださった皆さま、またいつかお互いの旅の途中で出会いましょう。その日までさようなら。

有意義な司牧体験
福岡教区は素晴らしい

台湾のカトリック台中教区で主任司祭をしておられる劉徴祥（リュウ・チュン・シャン）神父様が司牧体験のため来福されている。滞在予定は三か月間。

編集部では、二日市教会（主任堤敏雄師）に滞在中の劉神父様と司教館で対談し、台湾の教会の現状や福岡教区の印象などをうかがった。目覚ましい経済発展を遂げている台湾の教会は、日本の教会と同種の問題を抱えているようだ。「日本の教会から何かを得て帰国したい」と言われる神父様の眼は輝いていた。

劉　徴祥師

――教区報のインタビューに応じていただき、ありがとうございます。これから神父様の国台湾の教会の状況についていろいろお話を伺いたいと思います。宜しくお願いいたします。まず、日本に来られた目的は何でしょうか。

私の父は昔福岡の神学校で勉強しました

劉　福岡は私には、とても近い感じがします。と言いますのも、私の父が今から約五十年前に、福岡の神学校で勉強したことがあるからです。平田司教様が父の先生だったこともあり、こうしてここに来ることができました。

私がこちらに来た大きな目的は、日本の教会特に小教区の事情を学ぶためです。

こちらの教会の信者の方々の信仰やいろいろな活動の良い点をたくさん学び、自分の教区に持ち帰って活かしたいと考えています。

――いつこちらに着かれたのですか。

劉　二月五日です。これから三か月ほど滞在いたします。私の教区の司教がこちらに来れるように配慮してくれたからです。今、いろいろな体験をさせていただいており、とても嬉しく思っています。

――台湾のカトリック人口はどれくらいですか。

劉　約三十万人です。台湾の人口に比べると小さいグループです。二パーセントぐらいです。

台湾の教会には八つの教区があり、十四人の司教がいます。その中の三名は大司教です。ただ高雄教区では昨年司教様が亡くなりましたので、今は新しい司教を待っているところです。

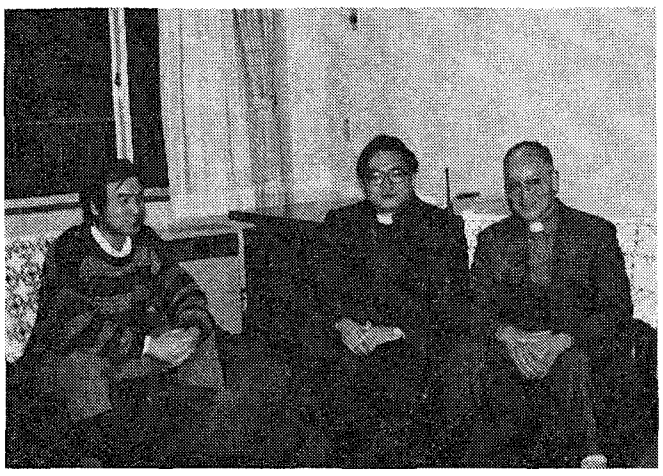
――神父様の教区はどうでしょうか。

劉　そうですね。教区民は約四万人です。司祭の数をいいますと、中国人が二十名、それに修道会・宣教会の司祭が三十名ほどです。

――これまでの滞在で何か台湾の教会と日本の教会の違いみたいなものを感じられましたか。

日本の教会にはよい習慣が残っています

劉　そうですね。小さなことかもしれませんが、台湾では、教会に入るのに靴を脱ぎませんが、私が今お世話になっている小教区では靴を脱いでいます。私はいいことだと思いますね。



「福岡で多くのことを学んでいます」と語る劉師(中央)。右端は二日市教会主任の堤師

それと、こちらの教会では、女の人たちはミサのときなどまだベールをかぶっているようですね。台湾では二十五年前までは、ベールを使っていましたが、今はもう使っていません。

でも私はベールをかぶるという習慣はいいことだと思っていますよ。

――台湾の教会は、活発だとお考えですか。

日曜日にミサに与ることに大きな困難も

劉　台湾と日本の教会では置かれている事情が違いますので簡単には比較できないのですが、台湾でも最近は、信徒が毎日曜日のミサに与ることは非常に難しくなっていますよ。

例えば、私どもの小教区は約三百人の信徒ですが、日曜日にミサに与る人は七十名くらいととても少ないのです。老人と子供たちといった感じです。ところが土曜日の夕のミサにはたくさんの方が見えます。

日曜日は信徒の皆さんも大変忙しいようですね。

――台湾の一般の人たちの宗教心はいかがでしょうか。

劉　台湾では、仏教徒が多数です。もちろんそれは仏教が盛んだということではありません……。むしろ多くの人は無宗教といったほうがいい状況だと思います。

――中国本土と台湾の間には何か問題がありますか。

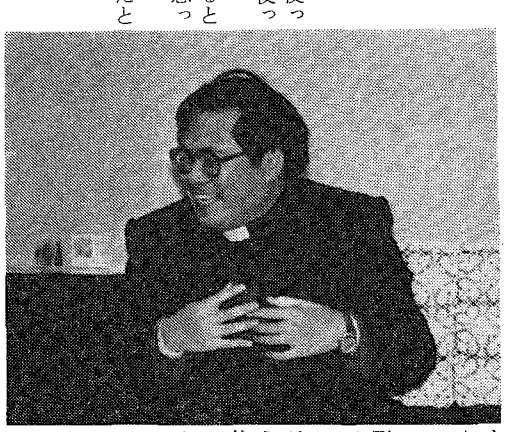
劉　たくさんの人が中国から台湾にやってきました。ずっと前に、私の親や親戚も中国本土から台湾にやってきました。

今は政府もだいぶオープンになり、たくさんの人が中国大陸から台湾に来るなど交流も盛んになってきたように思えます。

――神父様の小教区では、家庭集会は盛んですか。

5月と10月には家庭ロザリオをしてます

劉　そうですね。例えば、私たちの小教区では、五月と十月には、毎日曜日の夕方にいくつかの家族が集まって、家庭でロザリオの祈りの集いをします。私もそこに行って一緒にロザリオの祈りをしたり参加者に短い話などをしています。



――小教区の信者の集いはどうでしょうか。

劉　毎月第一日曜日に集まりを持っています。参加者は十パーセントぐらいというのが現状です。

残念ながら、台湾では教会が一杯になるのはクリスマスと復活祭くらいです。

――教会学校について話していただけませんでしょうか。

劉　日曜日のミサのあと、シスターが子供たちのクラスを受け持っています。一時間の授業ですが、二十名ほどが参加しています。

教会学校に参加する子供がとても少ないのは、子供たちが学校の勉強に忙しいからです。それで夏休みに二週間ほど教会で夏季学校を行っています。子供たちが毎日やってきて学ぶわけです。その時は大学生などが子供たちに教えるために手伝います。子供たちは勉強に追いまくられて大変忙しいのです。

――日本と同じですね。

劉　日本のことはよく分かりませんが、問題ですね。

――台湾の教会は社会的に力をもっていますか。

劉　政府の力は強いかもしれませんが、教会の力はそれほどでもありません。

――言葉はどうでしょうか。

劉　台湾の言葉は、マンダリン（北京語）と福建語です。聖書は北京語の聖書を使いますが、ミサ典書は福建語を用いています。

――福岡教区についての印象はどうでしょうか。

劉　そうですね。さき頃、福岡教区の日本人の神父様方の集まりに参加させていただきましたが、その時の印象を申しますと、神父様方が司教様と一致している姿は素晴らしいと思いました。

――神父様が福岡教区でこれからも素晴らしい司牧体験をされますように心からお祈りしています。

今日は、どうもありがとうございました。

日本カトリック研修センターを活かそう

Sr. 富山　憲子

先ごろ名古屋で行われた日本カトリック研修センター『開所記念行事』に参加させて頂きましたので、私がそこで頂いたことを分かち合いたい。「自分が受けた養成で良かったこと」というテーマで小グループで話し合った時のこと、〝お手上げの状態〟になって自分が変革せざるを得なかった、アジアの貧しい人々との共存関係によって教えられた、異質な環境にある人人の出会い、学んだことを実践の場で体験し自分が回心していた、等の体験を分かち合い、それらに福音の光をあててながめ、神の現存を発見し、お互いの魂が響き合っていた。

『今、必要な養成の課題と方法』というテーマのパネルディスカッションでは、長崎教区の「私おばさんしています、専業主婦です」というパネラーの方が印象に残った。彼女は、苦しみ悩んでいる隣人を見たら黙っておれず、手を差し出していると、日常生活の中でいと小さき人々の隣人としての体験を淡々と素朴に分かち合って下さった。福音宣教とは、キリストによって私が救われ、赦され愛されている喜びを他の人にも分かち合う、そのあたたかい人間関係をキリストに倣ってつくるものだと思う。

この現代社会の中にすでに蒔かれている福音の種を見つけて、それを一緒に育てていく、それが、今の日本の教会の中で必要ではないかという方向に参加者の心は向いていた。

神の呼びかけに耳を傾け、共に喜びをもって歩み続けるうちに、信仰と生活の統一、祈りと活動の統一がなされていくという希望が湧いてきた。

それらの養成の家としての機能を日本カトリック研修センターが果たしてくれると期待している。

（聖心のウルスラ宣教女修道会）

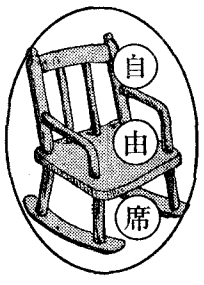
豊かさの陰に生きる人を知った炊き出し

西野　智子

ただ、ただ、呆然となってしまった――これが炊き出しを終えての私の状態だった。

なぜおじさんたちはあんな生活におしやられてしまったのか。また、それに対して何もできなかった私。そして、この寒い中、私たちが出会わなかった他の数多くのおじさんたちはどうしているのだろう。地下街にいたおじさんたちは、十一時半頃になると追い出される、と言っていたが今頃どうしているのだろう。

おじさんたちに対して、ろくに話相手にもなれず、戸惑うばかり、何かしたいけれどどうしてよいか分からない。自分はこんな人間だっただろうか、複雑な思いでいっぱいになった。



一度、この現実を見てしまった私にとって、天神の繁華街を飾る洋服も、靴も帽子も何もかもが色あせてみえる。もっともっと自分の生き方を見直さなくてはと思った。というより、そうしなければならないと思った。

炊き出しは私にとって、ただ単に「よかった」とか「よい体験をした」「感動した」ではすまされないようなものとなった。もちろん、ひょうきんなおじさん、おばさんもいらっしゃって、楽しかった面もあった。彼らのやさしい目を思い出すと今でも心が和む。けれど、それだけではすまされない現実の世界があった。

私たちの豊か過ぎる生活の影にいるおじさんたちは、いわば私たちがつくってしまったと言ってもいいと思う。私たちはこの方たちを下敷にして生きているような気がしてならないのです。

また炊き出しがあれば、是非参加したい。まだ高校生で、ちっぽけな存在の私に出来ることはこれくらいしかない。けれど、この小さなことで誰かが喜んでくれるなら、幸いだと思う。

私は、今もなお、寒さと貧しさにふるえる人たちを思うと、いても立ってもいられないのです。

（明光学園高等学校二年）

自分の持てるものを分かち合うことこそ

大内田徳子

午後九時近く、出発地点の大名町教会を数人のグループで出かけました。コートの襟を立てても冷たい夜気が体に沁み込んできます。暗闇に目を慣らすと、軒下のコンクリートの上に布団を敷いてその人たちは寝ておられました。この寒空に毛布と布団にくるまって寝ておられる姿を前にして、ただ涙が流れてきました。〝さあ、おにぎりと暖かいみそ汁をどうぞ。これで少しでも温まって下さい〟〝寒くないですか、お体は大丈夫ですか〟とかける声は、自分でもびっくりする位の優しさです。〝ありがとう。大変ですね。風邪をひかないでください〟と反対に労いの言葉をかけて頂きました。

私は少しの方としか接することはできませんでしたが、今までの考え方が変りました。週に二回僅かのおにぎりとみそ汁でこの方たちの生活は救えない、行政がしっかり対策を立てて救済すべきではないかと思っていました。でもそれを待つのではなく、心からの思いやりと共に、自分の持てる力や健康や時間をこの方たちに分け与えるこの行動が大切なんだと。

誰でも一月のうち何日かを、いや一年の一日でもいいボランティアに参加を。〝ボランティアとは自分の予定を変えることです〟とある方がおっしゃっていた言葉を思い出しました。

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※ 簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎ 0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096―352―3306　096―352―8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

パプアニューギニアの子供たち
貧しさの中で光るもの

御受難会志願者の柴田智成さんが、このほどパプアニューギニアから帰国。数か月にわたる現地での体験レポートをいただいた。

レポートは、厳しい生活環境の中でもたくましく生きるパプアニューギニアの人びと特に子どもたちと日本の生活を比較しながら、今私たちに問われているものを鋭く指摘するものになっている。

ここはオシマ伝道区内にある、ある小さな村。私と現地人修練者のベンは、ランプの明りだけを頼りに、家の表で食事をしていた。この国では料理らしい料理を、殆ど口にしていない。特にジャングルの中の村では。例によって塩でゆでただけの、タロイモとある種の葉っぱだ。命があるから食物を必要とする。それだけの事だ。

子供たちに人気者の柴田さん

暗がりの中で、小さい子供が弓矢を使って遊んでいる。パパイアの身を転がして、それを素早く射るのだが、ほぼ百発百中と言っていい。

ここの子供達には、娯楽品は弓矢かダーツぐらいだ。電気も、ガスも、水道も来ていないのだが、彼らは、物心ついた頃からこうやって遊び、そして狩人になってゆく。子供でも猪などを狩るのだ。

彼らの腕は細く、腹は少し膨れている。神父さんから、思考力も少し鈍いと聞かされた。慢性の栄養不良に陥っているためだ。

だが、日本の子供よりはるかに逞しく生きている。彼らの遊びは、日本の子供のそれとは全く次元が違い、食べる為という生活に根ざしたもので、娯楽のためではない。

ファーストフードの脂肪過多の食事で肥り、病気になる日本の小学生と、栄養不良でやせ細った肉体を張って狩りをしなければならない、ここの子供達……。

「物がある事が良い生活ではないのです」の言葉を実感できる場所がここにもある。

家庭
第2回 全国会議に向けて

親の祈る姿をみて

主の食卓を囲み、生命のパンをいただき……とごミサが主の最後の晩餐を記念して行われていることは分かっていても、私たちの家庭が小さな教会と言われ、そこにも食卓を囲む時がある事を、主の食卓と重ねて考える事はできないのでしょうか。

昔、チャブ台を家族が皆で囲み、一つのお鍋をつついて食べていたことを思う時、現代の核家族にはそれがなくバラバラの食卓、父親は仕事で帰りが遅く、子供は塾に慌ただしく出かけ、揃って祈る時間もないと嘆いています。兄弟は少なく、わがままで思いやりがないと。「私、姉さんがほしい」「僕、妹がほしい」と言っています。

あふれるモノの中で子供たちは、何が本当に欲しいのか、何が大切なのかさえ探しあぐねています。家の中では役割を失って、それぞれの思いを胸にソッポを向いている気配がします。そんな時、隣の部屋から両親の祈りの声を聞いて何かを感じてくれるのではないでしょうか。

かつて祖母が家庭祭壇の前で祈っていた姿を今でも忘れられません。どんな事にも感謝して、「ありがとう」と言っていた姿、言葉ではなく、行いで教えてくれた幼い日の信仰教育は、祖母や両親の祈る後ろ姿であったと思います。

高齢者が多くなってくるこれからの社会で、年老いた方々や病める方々のお祈りがどんな大きな力となってくる事でしょう。

お年寄りを訪問すると、早くお迎えが来ないかしら等申されます。もう肉親も知人もいなくなって淋しいと言われます。でもお年寄りの方々のお祈りを願っている人がたくさんいることなど、生きる喜びを与えて差上げる事も大切なことだと思っています。

今日も夕食の食卓は一人で、と淋しく思っている私でも、主とともに家庭教会の使命をかみしめながら、みんなの努力によって、暖かなチャブ台を囲める家庭を築くことが出来ると思っています。

鬼木　久美（高宮教会）

結婚式と宣教
教会と社会の接点
式後の関わりにも配慮を

全国的に教会での結婚式が増え、教会を初めて訪れる人も増えている一方、これらの人々に対して、教会はこれまで特別な計画もなく小教区や司祭が個々に対応しているのが現状。だが、これが日本社会と教会が出合う重要な接点であると考えるならば、宣教の場としてもっと研究する必要があるのではないか。

このような問題設定の中、三月四・五・六日の三日間にわたって名古屋の研修センターで宣教司教委員会主催による第二回「宣教の場としての結婚式を考える」研修会が行われた。

福岡教区からは結婚セミナーなどを実施している家庭委員会のライル師と吉永シスターが参加した。

研修に先立ち小笠原優師（東京教区）は『私たち教会は『神の国の福音』を世界へ知らせ、証しする責任と義務があります。その中にあって教会での挙式を願う未洗者はまさに今、祝福を求めて教会に来た人々です。この人たちを受け入れることは当然のことです」と語った。

参加司祭からは「信徒夫婦の宣教の場として最適と思うのでその養成の場がほしい」「挙式について、現在の信徒用儀式書の応用でなく、未洗者用の儀式書を」という要望が出された。

参加信徒からは「土・日に結婚式が集中し、信徒の行事と重なることが多くなり、不満が多くなっている」という状況が報告された。

また信徒奉仕者からは「主任と助任、あるいは司祭が代わる度に対応が代わるのでトラブルのもとになっている」という声も聞かれた。

アフターケアについて、挙式後の一年間カトリック雑誌を送ったり、バザーに招待したりと、どこの教会も一番心をくだき、様々な模索がなされているようである。

最後に参加者は、何か結論やマニュアルを出すのでなく毎年集まりを繰り返しながら研修し合う必要があることを確認した。

召命を祈る
福岡ウォーカソン

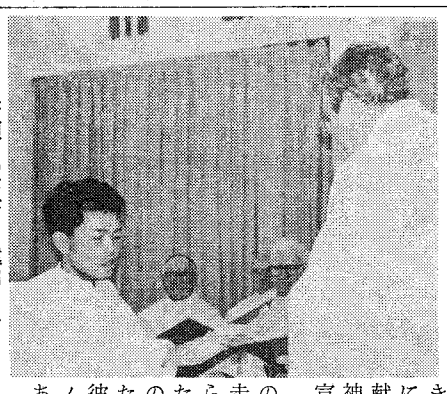
4月28日（日）に開催

世界平和と召命を祈る福岡市内教会巡礼《第二回福岡ウォーカソン》は四月二十八日に開催される。「市内の教会を巡礼し、快い汗を流そう」と主催者の『召命をともに祈る会』（代表松井忠之小神学校長）は呼びかけている。

参加希望の方は、正午に小神学校中庭に集合のこと。

アウグスチノ会士
遠山満さんが初誓願を宣立
笹丘教会

春の訪れを感じさせる好天に恵まれた三月二日、笹丘教会で聖アウグスチノ修道会の誓願を宣立する遠山さん



誓願を宣立する遠山さん

ペトロ・フランシスコ遠山満神学生の初誓願式が、日本地区長M・ヒルデン師司式によって荘厳に行われた。

同修道会の司祭九名や六年前に遠山さんに洗礼を授けたJ・ノーリス師（現飯塚教会主任）らが共同司式。家族、友人をはじめ信徒ら約六十名が参列した。

ヒルデン師は説教で「奉献の道は根本的に愛の道であること」を強調。説教後、会衆の祈りの中、誓願者は聖アウグスチノの会則の上に手を置き誓願を宣立し、主にすべてを委ねて奉献の道を歩む決意を神と教会の前で公に宣言した。

祝賀会では婦人部の心のこもったご馳走に舌鼓を打ちながら喜びを分かちあったが、圧巻は誓願者の誠実さがにじみ出た感謝のあいさつと彼の〝おやじ〟ことノーリス師の祝辞であった。

同師は、八年前友人に連れられて健軍教会を訪れた遠山さんのその後の歩みを振り返り、人の思いをはるかに超えた神のみ摂理の不思議を賛美した。

遠山さんは八代の出身で家族では唯一人の信者。大学在学中からボランティア活動に取り組み、卒業後青年海外協力隊の一員として中米ホンジュラスの大学で二年間電気工学を教えた経験をもつ。

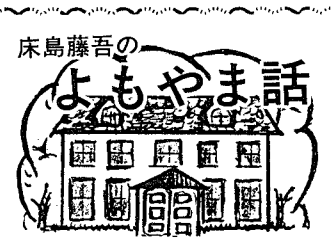
伊東成晃神学生
教会奉仕者に

教会奉仕者、宣教奉仕者の選任式が三月十六日、サン・スルピス大神学院聖堂で、松永次郎司教の司式により行われ、福岡教区の伊東成晃神学生（古賀教会）は教会奉仕者に選任された。

松永司教は「みことばを深く理解し正しく伝えることができるように、また感謝の祭儀の食卓に仕える者として、司祭職へ向けて一層の精進を」と述べた。

伊東神学生は「皆さまに支えられてここまできました。これからもお祈りください」と喜びと抱負を語った。

床島藤吾の よもやま話



地行教会のこと

昭和二十三年頃、聖コロンバン会のノーリス神父様（現飯塚教会主任）とハンター神父様（在オーストラリア）が日本語の勉強のため司教館に来られました。日本語の先生は当時泰星の教頭をしていました伊東先生（伊東誠二神父様の兄）でした。

司館館では、今の本館図書室が司祭たちの集まる場所でした。

後に熊本県の地区長になられたハンター神父様は司教館におられた頃は、山口県の呉に同郷のオーストラリアの兵隊さんたちがいましたので、食料を仕入れにいっていました。司教館の住人はおかげでだいぶ助かったものです。

さて、現在、礼拝会が経営しています聖家族寮はその昔は地行教会があったところです。地行教会はもとのもとある人の屋敷で、教区に寄付されたものです。でもその時は、まだ間借りの家族がいまして、私たちは強引に立ちのいてもらいました。今にして思えば気の毒なことをしたと少しばかり自責の念があります。

司祭館は二階建ての屋敷を使い、しばらくして〝かまぼこ兵舎〟を利用して聖堂が造られました。今から九年前に閉鎖になってから信者さんは西新教会と大名町教会に分かれました。

ちなみに、地行教会の歴代の主任司祭には、オーストラリア教区司祭デヴィ神父様、ウィルキンソン神父様、平田正喜神父様、日置孝三郎神父様、黒川博神父様などおられます。

BOOK 読みま専科

☆昭和を生きて
澤地久枝　本島等　著

一九九〇年八月三日から九十四日間開かれた長崎「旅」博覧会（愛と平和のゾーン）が主催した対談「昭和を生きて」を収録したものです。

対談者はドキュメンタリー作家の澤地久枝氏と長崎市長の本島等氏。

むごい時代としての昭和、戦争の暗さ、自然の豊かさ、歴史が教えてくれること、抵抗博物館が語るもの、戦争の反省にたって、言論の自由と民主々義、世界的視野で考える内容になっています

岩波書店　三五〇円

☆木馬のぼうけん
U・M・ウイリアムズ作
訳　岡　多佳子
絵　河井　ノア

「ちい木馬」は木でできたおとなしい小馬、おもちゃ作りのうまいペーダおじさんの傑作です。

ペーダおじさんは大好きな子どもたちのために、心をこめておもちゃを作ります。

ちい木馬は、おじさんのやさしい「まごころ」から生まれました。苦しいことや悲しいことはたくさんあるけれど、いつでもかわらない「まごころ」を持って前進するちいさな木馬の大きな冒険のお話です。

対象は小学校中学年です。女子パウロ会　一二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産/管理・仲介・売買・建設/一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—761—8800
代表取締役マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計/企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092—711—0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大御そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2—21
TEL096—352—2417

会合と催し

四・五月の行事

※ゴチックは司教日程

2日　神学校援助姉妹会創立五十周年感謝の集い（福岡小神学校）午前11時
3日　カトリック学校連盟
8日　雙葉学園高校入学式
15日　北九州地区カテキスタの集い（小倉教会）
17日　福岡地区婦人会総会（カテドラル）
18日　国内移動信徒委員会（東京）
21日　八代教会墓地落成式
22日　北九州地区マリッジエンカウンター
23日　教区顧問会
24日　カナの会例会（司教館）午後1時30分より
28日　糸島教会落成祝別式
福岡ウォーカソン≪世界平和と召命を祈る≫市内教会巡礼
5月3～6日　教区クルシリヨ（福岡黙想の家）
9日　佐賀人生講座
12日　行橋教会堅信式
16日　教会行政法制委員会（東京）
19日　黒崎教会堅信式
26日　手取教会堅信式
28日　福岡教区全司祭の集い（司教館）
6月4日　司祭評議会（司教館）午前10時30分

福岡黙想の家

1日～2日　福岡雙葉学園生
2～3日　笹丘教会学校教師研修会
8～10日　御受難会共同体研修
20～21日　コーロピエノ合唱団研信
27～29日　九州ME福岡
5月2～5日　クルシリヨ
11～12日　兄弟会の黙想会
13～15日　聖公会九州教役者会
15日　聖公会福岡教会婦人会
18～19日　小さい星伝道所集会
29～30日　池田教会黙想会

教区人事

山元真師　教区書記長（小倉）
深堀勝人師　教区会計（行橋）
浦口　均師　戸畑（直方）
浦　俊雄師　行橋（戸畑）
平田三好師　直方（小倉）
山下正師　司教秘書（新田原）
森山信三師　小倉（大名町）
大水幸一師　大名町（新司祭）
渡辺隆義師　カトリック中央協議会（司教館）
C・ガッザルディ師　伊万里
A・スカットロン師　多久

・第二回福音宣教推進全国会議教区担当＝山元真師
・教区報編集長＝深堀勝人師
・国際協力委員会担当及び滞日外国人と連帯する会担当＝G・ブレシュト師（御受難会）

第30回 福岡教区クルシリヨ

松永司教様の力強い励ましのもと、今年は、30回目を迎えることになりました。ふるってご参加ください。

日時　5月3日（金）19時～6日（月）16時まで
場所　福岡黙想の家
☎0940-32-3222
宗像名残立山一〇五六
参加費　一二、〇〇〇円（宿泊食事、用品代として当日受け付け）
携行品　ロザリオ、着替え、寝巻、洗面用具
連絡先　福岡教区クルシリヨ事務局
☎093-582-1654

佐々木　信幸

申し込み締め切り　4月25日まで

パイプオルガン チャリティーコンサート

日時　5月18日（土）15時30分（開場）16時（開演）
場所　大名町教会　大聖堂
料金　前売　八百円（小学生以上）
当日　千円（〃）
チケット取扱い先　聖パウロ書院
問合せ先　☎671-3978（津田）

国際生命尊重連盟会長 ウィルキー博士夫妻講演会

≪性といのちのメッセージ≫

久留米　4月20日　午後1時～3時30分
会場　聖マリア学院短期大学
福岡　4月20日　午後7時～9時
会場　福岡雙葉学園高等学校
熊本　4月22日　午後2時～4時
午後7時～9時
会場　市民会館（大会議室）
参加費　500円、入場整理券あり
対象　どなたでも参加できます
連絡先　C・ファミリーセンター
☎092-541-6207
☎092-524-4387（野川）

☎851-9467（高木）
主催　ぶどうの樹の会
後援　大名町教会信徒会

聖母月の召命黙想会 ―みことばに心を開いて―

日時　5月4日～6日
場所　師イエズス修道女会　福岡修道院
講師　杉原寛信師（聖パウロ会司祭）
対象　18歳～35歳未婚の女性信徒
会費　九、八〇〇円
申込み　4月末日までにハガキか電話で
福岡市中央区4―11―35　師イエズス修道女会

信仰と健康

徳山　登

魅力的な聖人、サレジオのフランシスコ！彼は四百年前にこの世で生活されましたが、深い霊性と人間的才能に恵まれ、現代にも通じる大切な教えを残してくださいました。

まず聖フランシスコにとって、体はたいへん大切な道具で、よく育て大事に扱わなければなりません。人びとに仕えるためにも健康な体を必要とします。また克己心を養い、自制するためにも心身共に健全でなければなりません。

「体に無理をすれば、精神にも無理が出ます。精神力が低下します。皆さんもよく休みを取って下さい。ちょっとしたことで体の調子が狂って、役に立たない人間になってしまいます。特に婦人方は注意が必要です。夜遅くまで、仕事をすることは翌日の生活にこたえます。脳には非常に悪い影響があります。誘惑に負ける時はどんな時でしょうか。体を甘やかし過ぎて太り、ひ弱になった時、逆に体を粗末に扱い疲れ果てた時のどちらかです。太った体を運びにくいと同様にあまり痩せた体も何も運ぶ力があり ません。極端を避けてバランスの取れた生活こそが聖徳の険しい上り坂において、手すりのように大切なものです」。サレジオのフランシスコの霊性は聖アウグスチヌスの次のお言葉でまとめられます。「愛をもって生きよう！そうすればどんな行動でもかまわない。」

当時、聖フランシスコはあらゆる地位や環境の婦人たちを指導されました。そして、いつも例えをもって、わかりやすく話されました。二つほど参考にして述べましょう。

「二人の婦人がいます。一人はいつもあちこち出かけておしゃべりで時間を費やします。他の一人の婦人は病人のお世話や子供達の指導を熱心に行っています。この二人の婦人のうち、後の婦人の方が称賛に値すると多くの人が思われるでしょう。しかし、私は先の婦人の方が聖人で、後の婦人は白く塗った墓であると思います」。もう一つの例えは「ある婦人はダンス パーティや世間の娯楽場に通いながらも≪主人を喜ばせなければ、……主人に忠実でなければ……≫という心で生きています。そして娯楽の中で主イエズスの御心を思い、主の方に心を向けながら、踊っています。帰宅してから、隠れて、犠牲を捧げています」。修道院の中でなまぬるい生活をしている修道女もいることを聖フランシスコはよく知っていました。そして次のように結論します。「愛のない苦行より愛をもってダンスするほうがはるかに実を結ぶ生き方です。また傲慢な気持で断食するより、感謝をもって、おいしいものを食べたほうがはるかに神の御心をお喜ばせします」。

人の立場をよく理解していたフランシスコは温かい心をもって、すべての人を迎えています。

ある朝早く、一人のプロテスタントの牧師が現れ、フランシスコにおいしそうなケーキを差し出し「どうぞこのケーキを召し上がって下さい。ミサのあとで」フランシスコは答えます。「とんでもありません。二人でこのケーキを食べながら、ゆっくりお話しましょう。今日はミサはいたしません」。

こうして、カトリックでない人との親しさを生きるために大切なミサを犠牲にしたのです。これこそ恩寵と人間味が見事に調和した生き方です。愛のために霊的な宝にも執着せずに、それも犠牲にすることがあると諭してくださいました。

サレジオのフランシスコはすべてを愛をもって、行います。何に束縛される事なく、自由に、逞しく愛の心で生きていこう。その時小さな平凡なことにも無限の価値を受けしあわせを生むのです。純粋な愛だけが値打があるのです。

（パリ外国宣教会司祭　門司港教会）

かのときのことのは

森山　敬三

人を頼めば、身、他の有なり。

鴨長明

『方丈記』に所収。『枕草子』『徒然草』とともに三大随筆と称されるが、その中でも最も軽視される。慶滋保胤（よししげのやすたね）の『池亭記』を粉本としているといわれるが、その心的態度は遥かに凌駕し、総数八一四五字の小文にもかかわらず、内実は堂々としている。五大災厄を叙して、閑居の楽しみをのべるかと思えば、最後にはそれをも否定する。八百年も前でありながら、最も自我に目覚めた近代人である。日野に閑居した後も、将軍実朝に会うため、しばしば鎌倉に下向する。好奇心旺盛で、平知盛の「見るべき程の事は見つ」ということを経験した人であるが、この書は愚直なまでに誠実な、求道の記録である。この隠者の系譜は、兼好、心敬、宗祇、芭蕉にうけつがれる。彼が亡くなって六年後に、日野に親鸞が誕生する。

編集室から

▽一九八五年九月号から本紙の編集長をつとめてまいりましたが、この度、深堀勝人神父様に交代となりました。

▽本紙の編集にご奉仕いただきました深堀邦枝さんと田町節子さん、それに女子パウロ会のシスター方や聖パウロ会の神父様方にあつく御礼申し上げます。紙面の拡充ができたのもこのような方々のお力添えによるものです。

▽また、スタッフ一同は読者の皆さまのあたたかい励ましに支えられてまいりました。予算の関係もありほとんど無料の原稿を喜んで書いていただきました歴代の執筆者の皆さまに感謝申し上げます。

▽新しい編集長のもと、本紙のますますの発展をお祈りいたします。

（渡辺隆義）

5月号休刊のお知らせ

準備の都合により5月号は休刊にさせていただきます。

（深堀勝人）

神学校基金へご寄付

係　Sr徳野
☎092-531-0486

◎待労院の井手隆士様より金一封いただきました。
◎ベルナデッタ柳淑子様の香典返しとして柳愛子様より金一封を神学校基金としていただきました。
◎ミカエル鵜野昭彦様の香典返しとして鵜野泰年神父様より金一封を神学校基金としていただきました。

故人の永遠の安息をお祈りしご報告申し上げます。

福岡小神学校　松井忠之神父

四・五月命日の司祭

*大野正恒師（イエズス会）一九八五年四月十二日元泰星学園校長
*ジョゼフ・ドレル師（パリ外国宣教会）一九八四年四月十五日元直方教会主任
*フランソワ・ブレンゲ師（パリ外国宣教会）一九四六年四月五日元佐賀教会主任
*アンリ・レウトル（パリ外国宣教会）一九四四年四月二十五日元新田原教会主任
*カール・シュミッツ（御受難修道会）一九八八年四月七日元黙想の家院長
*ヨハネ棚町正刀師一九六八年五月十五日元茶山教会主任
*フランソワ・ルマリエ師（パリ外国宣教会）一九四五年五月五日元八代教会主任
*フェルナンド・チリ司教（パリ外国宣教会）一九三〇年五月十日初代福岡教区長

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17―10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1―4―24
TEL　093―771―3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
(株)メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKI 藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585（代表）
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ツ角　TEL　092―521―0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀　勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

糸島カトリック教会　祝別・落成式

同時に準小教区として誕生

糸島カトリック教会全景

糸島カトリック教会の祝別・落成式が四月二十八日(日)行わた。教区長松永久次郎司教、前教区長平田三郎司教はじめ司祭十余名の共同司式により、聖堂内外の約三百名にものぼる参列者のもと盛大に挙行された。

祝別式ミサは、水の祝別の後、松永司教により聖堂内外の祝別が行われた。また、新教会で司牧活動にあたる平田司教が新しい祭壇に水を注ぎ、聖祭壇の祝別が行われた。

みことばの朗読の後、松永司教は新しい教会の誕生を祝い「この教会が糸島のいのちのみなもととなり、魂となるように、あたたかい神と人との出会いの場・慰めと平和に満ちた人と人との出会いの場となるように、糸島の全住民に開かれた教会となるように」と説教した。

ミサ聖祭の後、落成式が行われ、松永司教は、新教会建設のために尽力したすべての関係者の労をねぎらい、特に西新教会の惜しみない協力に謝辞を述べた。また平田司教の糸島教会建設への努力と司牧活動への熱意に謝意を表明した。

落成式の後、今後発展の可能性が多分にある糸島地区の新教会誕生を祝い、和やかな祝賀会が盛大に行われた。

※準小教区とは、特別の事情でまだ小教区として設立されてはいないが、その固有の司牧者として司祭に委託された部分教会のなかの一定のキリスト信者共同体は、法律上別段の定めがないかぎり、小教区と同等とみなされる。(教会法518)

今月のみことば

喜ぶ人とともに喜び
泣く人とともに泣きなさい
(ローマ12・15)
大名町　大水幸一神父

サン・スルピス大神学院

ヨゼフ高見三明師新院長に

高見三明師

任期に伴ない前高木善行院長を引き継ぎ四月から新院長に高見三明師が就任した。

新院長の高見師は、一九四六年三月二十一日生まれ、長崎市三ッ山教会出身、一九七二年三月長崎教区司祭として叙階後、スルピス会に入会。一九七六年神学修士号、一九八四年聖書学修士号を取得、今年四月に院長に。同師は「現代の日本社会は、お金と便利さで成り立っている観がありますが、一方では本物志向も見られる。これからの社会の中で『キリストに似た本物の司祭』とは何か、どのような生き方をすべきなのか、神学生と共に求めて行きたい。それとともに、司祭召命という神様の尊い恵みの実りのために、司教様をはじめ神父様、修道者、信徒の方々の祈りと援助、理解と励ましをお願いします。」と語っている。

司祭の質と量が叫ばれている今、よき指導のもと神学生が、神の呼びかけに応えることができるように祈ろう。

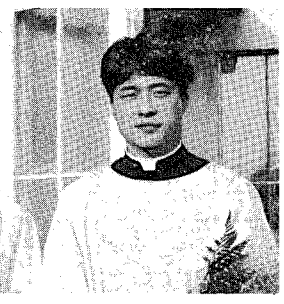
＝糸島教会の歩み＝

西新教会から唐津教会までの間に教会がなかったのは、長い間の教区の懸案事項であった。その解決の糸口は、七～八年前からマホニー神父(当時笹丘教会)の指導のもと月一回の生熊来吉先生宅での家庭ミサからだった。そうして、糸島地区に教会をとの信者の熱心な願いは、西新教会(主任司祭山川辰幸神父)を母体として、四年ほど前、糸島対策委員の選出とともに具体化され、まず土地の購入が、平田司教、山川神父、教区財務委員、そして、西新教会委員の協力のもと実現した。さらに教会建設のため、西新教会信徒一同、建設準備委員会とともに協力し、積立献金、バザーなどを通して実現へ向けて歩んだ。昨年五月には、建設決定、七月十五日には、起工式、十二月には、竣工、今年四月二十八日には、祝別、落成の運びとなった。糸島地区は、総勢一八九名、五十三世帯、前教区長、平田三郎司教を司牧者として迎えた。

教区長、松永久次郎司教は、この分教会を教会法上、四月二十九日付をもって、準小教区として設立、名称は、カトリック糸島教会、初代司牧者は、平田三郎司教、管轄範囲は、福岡市西区今宿全地域、及び、その以西の地区(糸島郡志摩町、前原町、二丈町)とした。西新教会を母体として誕生した糸島教会が、今は西新教会とともに歩む共同体ではあるが、これから、神の家族、神の民として大きく成長するように祈りと期待が寄せられている。

大神学院で認可式

ヨハネ平野　禎神学生
ヨゼフ谷口雅春神学生
助祭・司祭候補者に



五月二十二日、サン・スルピス大神学院聖堂にて六名の助祭・司祭候補者認可式が、ヨゼフ松永久次郎司教司式のもと候補者関係の司祭、修道者、信徒が集い、感謝と喜びのうちに行われた。うち二名、ヨハネ平野禎(大名町・写真左)ヨゼフ谷口雅次(新田原・写真右)両神学生が福岡教区、助祭、司祭候補者として認可された。

司祭を志す小神学校新入生

今年四月司祭職を目指して福岡小神学校は三名の新入生を迎えた。福岡小神学校には鳥栖教会出身中村慶光君が、聖パウロ小神学校には、加古川教会出身戸村真手男君、吹田教会出身出口剛君、三国教会出身田中深君らが、それぞれ中学一年で入学した。

新しい共同生活を迎えた小神学生が、初心を忘れず、主の招きに応えることができるよう、祈りのうちに暖かく見守ってゆこう。

中村君

左から戸村君、出口君、田中君

時の話題

鈴木　明郎

〈がしかし〉のない世界

一般には〈でも〉とか〈しかし〉が同じ意味で使われています。広辞苑によりますと、〈でも〉は、事実をあげて、それから当然予想されることと逆の事柄を述べるのに用い、〈しかし〉は、既に述べた事、或いは普通に予測される事と両立し難いような事を両立するとして述べるのに使う、とあります。何れにしても、真実や理念を弱めたり、原則を保留したりするのに用いています。唐突に国語の勉強を始めるつもりはありません。最近、この事で少し気になる事があるからです。

私達は、建前(理念・原則)を弱め過ぎてはいないでしょうか。現実の社会に妥協し過ぎているのかも知れません。戦争は絶対に良くない、〈しかし〉、フセインの様な人間がいるから仕方が無い、人権の大切さは良く判っている、差別が良くない事も判っている。しかし、〈あの人達は自分達とは違うから、悪い人達だから別だ〉と容易に建前を捨て、排除することが出来ます。あなたの言っている事は確かに正しい、〈しかし、現実は簡単ではありません〉私達の社会が建前の無い本音(現実・世俗)だけの社会になりつつある様で、大変気がかりです。本音だけで生きることは容易ですが、理念を通し、原則を守る事は、ある時には戦いを必要とします。

建前を飾りとして、本音を優先するあり方は、私の信仰生活にも影響を与えている様に思います。主は言われる、「神のみを神とし持ち物をすべて売り払い、貧しい人々に施しなさい」。私は答えます、「私は主を信じます。〈しかし〉、日曜日も仕事があります。私にも家族があり、生活があります」。この四旬節にこの事を頭に置いて福音書を読みました。厳格に神のみに従う原則に生きられたイエズス。そのイエズスはガリラヤの漁師に「私についてきなさい」と言われた。しかし、〈忙しいだろうから、後でよい〉とは言われなかった。イエズスの御言葉に〈しかし〉を見いだすのは困難です。

「……、この杯をわたしから取り除いて下さい。しかし、あなたの御心のままになさって下さい」。これがイエズスの〈しかし〉です。私にもこの世に妥協しないで生きる恵みが与えられるのだろうか。

(熊本大学教養部教授　手取教会)

みちくさ

編集長の人事に伴い、この欄を書くこととなった。

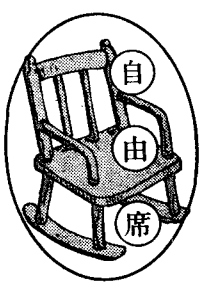
数字の0から9の組み合わせは得意なものの、五十音の組み合わせになると、どうなるものかとの不安の中、安易に後任を引き受けたこと、読者の皆様に申し訳なく思いつつ六月号の編集をはじめた。▼今、野球で言えば、九回裏二アウト満塁、一打逆転というところで、打てない打者がピンチヒッターに出た感じだ。そこで考えた。人の口から発されることばは、元に戻らない、まして、書き記されたことばはどうなるのだろうか。それで、教区報が一つの広報として人をつまずかせたり、裁いたりしないものであればと願った。でも、所詮打てない代打、そうなると守りについている読者の皆様に信頼しエラー(ゆるし)を願うしかない。それは、つまずきや裁きをさけるためだけではなく、神の家族としての歩みの一助となるために。▼このみちくさの欄は前任者によって始められ、六年目を迎えているがみちくさではなく、よりみちになったり、あともどりになったりするのではないかと懸念する中、カトリック福岡教区報が、教区民の情報交換であるばかりでなく、神の民の信仰生活の助け、励まし、支えとなるようにとの願いは絶えず心の奥にとめて。▼ところで六月はみ心の月と言われイエス・キリストの私たち人類への愛を黙想し生きる月として大切にされていた。今日あまり耳にしない「み心の月」だ。キリストの愛、それこそがキリスト教の真髄、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ15・1213)▼季節は梅雨を迎え、うっとうしく感じる。しかし、春に芽を出した植物の新しい生命は、いきよいづく。私たちもキリストの愛を注がれ、神の子としてのいのちを豊かに生きることができたらと思う。キリストの愛こそが私たちキリスト者のいのちの源となるように。▼いろんなものが価値をもつ時代であればこそ、このキリストの愛に心をとめてみ心の月を過そう。

福　岡　教　区　教　勢

(1990年1月1日～12月31日)

(注) 司祭・修道者・神学生は含まれていない

小教区名	信徒総数			洗礼		求道者	堅者	ミサ参加者			婚姻				転入			転出			死亡	不明
福岡地区	男	女	計	幼児	成人			主日	復活祭	降誕祭	信徒	信プ	混宗	他	教区内	教区外	他	教区内	教区外	他		
茶山	256	285	541	7	3			367	427	457			5	1	10	19		3	18		1	
大名町	535	808	1,343	21	54	25	1	700	1,200	2,600	3		44	92	29	57	75	26	30	13	9	371
二日市	174	230	404	4	3	5	26	200	260	300	1					3		3	6		4	11
箱崎	145	175	320	1	1	4		100	180	250	1				11	24		16	14		1	40
笹丘	315	392	707	16	14	10	14	320	535	800	2		11	15	3	19	4	8	9			3
光丘	481	561	1,042	6	3	2	3	240	404	602			5	5	35	43		14	25		2	13
本郷	330	324	654	8		2		380	500	540			4		4	2	1	1	1		5	32
今村	437	510	947	11	3	6		650	850	900	2		4		1			5	2		18	
浄水通	141	206	347	5	19	51	13	274	334	760	1		16	77	7	17			4		1	21
古賀	309	332	641	8	5	7		230	350	430	1		6	7	30	22		6	17		4	
久留米	498	582	1,080	6	11	6	8	400	600	1,300			9	10	25	15		13	13		3	15
美野島	60	72	132	1	1	1	1	33	60	70					1				6			40
西新	608	710	1,318	11		2		400	450	500	2		4		6	43	6	26	15		6	34
小郡	150	192	342	7	2	3	2	120	300	350	2		1	1	14	5		17	12		1	7
大楠	79	90	169	8	6		3	60	90	250	3		4		3	9			4			
大牟田	68	130	198	5	6	11	6	70	200	200	1		3	10				6	3			22
老司	273	306	579	3		7	16	200	300	950			7	3	13	7	1	19	3			5
高宮	219	338	557	9	11	6	11	110	200	300	3		3	16	6	18		13	28		3	45
吉塚	305	368	673	9	5	6	5	260	400	500	1		3		14	11		19	13		3	2
計	5,383	6,611	11,994	146	147	154	109	5,114	7,640	12,059	23		129	237	212	314	87	195	223	13	61	661
佐賀地区																						
伊万里	96	122	218	5	4	4	4	50	110	160	1					2		2				14
唐津	159	199	358	7	2			80	150	200	1		4		1			11	2		4	18
鹿島	23	26	49		1			10	20	40				1	3	3					3	
佐賀	273	410	683	6	17	7	65	160	300	400	3		5	18	6	10	4	6	11		4	6
武雄	31	42	73	1	1			15	60	80												8
鳥栖	125	182	307	5	4	3	2	100	235	250	1		2		1	4		2			3	
多久	30	82	112	2	1		1	25	50	65												7
呼子	197	180	377	12	2		20	330	400	600	3		2		8	16		4	3		5	
馬渡島	180	210	390	5			26	360	375	390			1					1			1	
計	1,114	1,453	2,567	43	32	14	118	1,130	1,700	2,185	9		14	19	19	35	4	26	16		20	53
北九州地区																						
八王寺	95	121	216	3	4	6	4	70	110	200			2	6	10			9	1		1	
飯塚	118	151	269	1	1	5	17	75	160	200			3	26	17	5		7			3	
小倉	1,098	1,412	2,510	11	21	12	51	600	800	1,500			16	17	6	27		20	27		8	28
黒崎	534	642	1,176	14	7	16	7	400	450	700			12	8	10	6		10	7		8	133
水巻	274	333	607	5	2	8	24	200	300	450			3	5	21	4		2	11		5	
門司	162	225	387	3	5	2	1	170	220	400			1		3	2		8	5			
門司港	75	93	168	3	2	2		65	110	120	1		2		2			1				10
直方	50	63	113	2		1		30	60	80			1						1		1	
新田原	882	954	1,836	21	12		28	780	1,200	1,200	2		11		9	18		5	11		17	
田川	65	104	169		1	2		66	100	200												26
天神町	125	184	309	3	2	2		80	140	200	1	1	1	1	12	2		8	1		4	7
戸畑	385	382	767	8	4	10	3	250	400	750			8	7	4	2		25	13		4	
若松	150	180	330	2		2		60	160	210	1		2			2					1	
湯川	522	602	1,124	13	11	6	3	400	600	750	1	1	10		13	13		8	10		4	123
行橋	303	333	636	13	1	5	1	250	420	600			5	2	7	5	23	2	3		5	41
計	4,838	5,779	10,617	102	73	79	139	3,496	5,230	7,560	6	2	77	72	114	86	23	105	90		61	368
熊本地区																						
荒尾	34	97	131		4	14	4	50	70	75	1				4			1			3	3
人吉	64	137	201	2	7	1		85	120	265	1		2	4	1	2		1	1		3	
本渡	38	60	98					20	40	60			1	3	3	1		1	2		1	35
健軍	231	283	514	1	1	3		200	350	500			4		5	24		9			2	
菊池	27	46	73	2	2	1		25	50	100			1	1	8	5						
水俣	36	69	105	2	1	1		30	48	58			1	2				1	3		1	
帯山	119	170	289	3	1	3		120	150	180			1		9	4		5			2	35
島崎	145	226	371	4	6	4		150	220	250			2	2	6	2		1	3		7	
大江	134	193	327	3	1	1		120	180	270	1		2	8				3	4		9	10
崎津	114	162	276	1	2		2	80	170	190	1		2	3	1						7	
玉名	46	67	113	2	1	2	1	52	136	120								1				2
手取	499	708	1,207	6	26	39		370	550	600	2		13	37	12	30		22	22	11	25	100
八代	39	93	132	1	4	4	3	90	110	400			1	4	4	6		7	2		1	26
武蔵ヶ丘	183	217	400		6	10	4	180	240	310			2	1	16	15		16	12		4	6
計	1,709	2,528	4,237	27	62	83	14	1,572	2,434	3,378	6		32	65	69	89		68	49	11	65	217



開かれた教会作りに献身している教区の『カナ』の会

信者の家庭から、或いは又、未信者の家庭から、相手方を捜して戴けないかとの問合せが、カナの会の特定の委員のもとにあると、その委員は、早速今日まで申込のあった名簿の中から、先ず職業、年齢、資格、特技等を調べた上で、これならばと思う方を申込まれた方に紹介する。双方都合よく話が整えば、見合いと言うことになるが、残念ながら都合よくいかなければ、申込を受けた委員は、申込者の身上書、写真を二十数枚コピーして、次回のカナの会定例委員会に計り改めて銓衡する。

(カナの会は、見合い成立させるのが目的で、それ以上立入って双方の御家庭並びに本人の調査までは行わない)

現在、福岡教区のカナの会は、東京教区カナの会、大阪教区結婚互助会と緊密なる連絡をとり、各教区で相手を見つけられない方のために、お互いに連絡しあうことにしている。

申込まれた双方の性格や価値観の相違、或いは対話の仕方等について色々と相談があるが、要は、双方勇気を以てあたれば案外と成立することが多く、産むは易しで、くよくよするのは禁物である。

※「自由席」は読者の皆様の席です。信仰の喜び体験、ちょっといい話、家庭のこと、教会のこと、信仰者として感じることなどお寄せください。なお、字数は六百字程度でお願いいたします。でも、あまり気にしないで(字数だけでなく)原稿をお送りください。

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

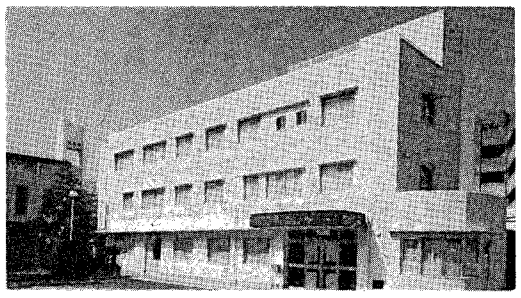
ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

小倉カトリック会館 祝別・落成式



三月十七日、老朽化した司祭館・信徒会館に代って小倉教会に小倉カトリック会館が完成した。北九州地区司祭、修道者、信徒が集う中、ヨゼフ松永久次郎司教司式によって、盛大に祝別・落成式が行われた。この工事期間中、主任司祭の交代などもあったが、司祭、信徒が一致協力し会館の竣工にあたり、神への賛美と感謝をささげ、ともに喜びが分かち合われた。この会館は、小倉教会のためだけでなく、北九州地区のセンター的役割をもって、神と人との出会いの場として期待されている。

北九州 教会学校リーダー 研修会

四月十五日（月）前月落成した小倉カトリック会館において北九州地区の教会学校のための研修会が催された。今回は教区長松永久次郎司教を講師に迎え、子供の信仰教育―教会学校のリーダーの立場と家庭の役割―というテーマのもと、司祭、シスター、信徒五十六名が集い、これからの子供の信仰教育のための糧を得た。午前中は、松永司教の講話。午後は、各教会学校の現状報告と質疑が行われた。参加者のひとりは、次のような感想を寄せてくれた。

『司教様というのは遠い存在のように思っていたのに、松永司教様のお話はむつかしい言葉でなくユーモアを交えて話され、あっという間に時間が過ぎてしまいました。

「子供の信仰教育について」小学校までに受けた教育で生き方が決まる。いざとなって立ち帰るのは小学校までの家庭教育であり、子供の時に受けた教育が基礎になる。いかに子供の教育が大切であるかと言うこと。そのための信仰教育への取り組み方、とりわけ司祭職、預言職、王職について説明されました。

研修会が終ってじっくりと司教様のお話を思い返しながら自分を振り帰ってみると、キリスト教との出会いは小学校時代になります。実際に勉強を始めたのは高校に入ってからでした。小学校時代はいろいろなことに興味を持ちながら、全てに中途半端で終りましたが、成長するにしたがって一つ一つのことがらが自分の中である形になって来たように思います。

小学校時代に受ける信仰の芽やいろいろな夢や生き方の種が子供達の中でいっぱいにふくらむようにと願っています。そんなお手伝いが出来たならばと、未熟ながら精一杯頑張ってゆきたいと思います。」

（湯川教会　不死原　登志子）

家庭 第2回 全国会議に向けて

いのちと性の尊さ

四年前のことである。

「お母さん、また出来たの、三か月目」

「えっ…」長女の体調の変化は、やはり妊娠の為であった。娘は、嫁ぎ先の同居している両親には、まだこの事を話していないとのこと。四人目だったからである。他宗教の家に嫁いでいる娘の気持が痛いほどわかった。しかしその後、子供は神からの賜りものとして受け入れられ大切に育てられている。

日本では「少子化現象」というのか、様々な事情から家族計画の手段として、避妊ということが当り前となっている。また、人工中絶もよった傾向さえある。信者にとって、良心と避妊の板ばさみになって苦しんでいる夫婦も少なくないのである。

今日では、聖書に基づいて福音が見直され、家庭が愛の共同体であり、性こそは家庭を支える夫と妻の人格的深い愛の表現であると理解されるようになった。

だが、女性が人格的に、男性と同等視されていないのが現実ではなかろうか。そのために起きる中絶、避妊の失敗も女性の責任に負わされてしまうこともある。

現在、日本においても自然家族計画、ビリングス・メソッド（排卵法）が取り入れられつつあるが、この方法のよさは女性の周期に応じていること、また、夫婦の対話、相互の尊敬、責任の共有と自制を意味し、夫婦の交わりが、精神的、肉体的なものであることを認め、互いに忠実に人格的な愛に生きることにある。

わが家の結婚前の次女には、ビリングス・メソッドを伝えた。このことを通して、娘は女性の体の神秘を知り、母娘との間で性の尊さについても語りあえるようになったのは、恵みである。性の尊さが認識されなければ、いのちの尊さもないのである。

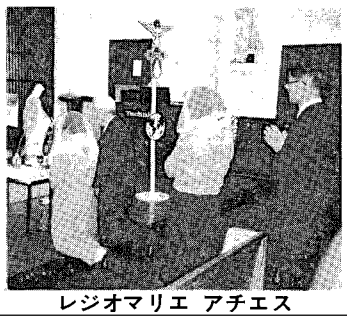
いのちと性の尊さが、女性だけでなく、男性にも、より深く認識されるようになった時、すべての人間の生命の初めである胎児の人権も、公にみとめられるのではなかろうか。

（教区家庭委員会委員　安部由子）

レジオマリエ アチエス

レジオマリエ福岡クリアでは4月14日マリア様への誓約式（アチエス）を、笹丘の教会で行った。

式はミサをもって始まり、その中で、レジオ会員はマリアへの約束を新たにし、来るべき一年の宣教への誓いを新たにした。



レジオマリエ アチエス

式後、懇談会を行い、日頃お互いに会うチャンスの少ない他の教会の会員と、交換するチャンスをもった。

第二回 福岡ウォーカソン

皆さん、ウォーカソンというのを御存知ですか。

どこかの国の村の名前ではありませんよ。これは、ウォークとマラソンの合成語で、まぁ「皆で歩こうや」というものです。

そしてこの福岡ウォーカソンは、皆で世界平和と召命を願い、祈りながら市内の各教会を巡礼して回ろうという目的で、昨年から始められたものです。そして今年も四月二十八日（日）二回目のウォーカソンが行われました。

当日はあいにくの雨模様でしたが、それでも二百人ぐらいの方々が参加され、基本コースと二つの短いコースとに分かれて歩きました。

基本コースは、約四時間、歩数にして二万歩強の道のりです。幼稚園児から、おじいちゃん、おばあちゃんまで、知らない人同志、でも、そこは信仰を同じくする者同志、すぐに親しくなり、皆元気にワイワイ、ガヤガヤ楽しく歩き通しました。それぞれの教会に着いたら、召命を願って皆心を一つにして、ロザリオを唱え、教会のスタンプを押してもらいます。子供達は途中、大楠教会で鵜野神父様お手製のマリアさまのご像をいただき、大喜び！

最後にはまた、集合場所である司教館に戻り、浄水通教会で聖体賛美式を行いました。その後、皆で温かいお汁粉をいただいて解散です。

このように福岡ウォーカソンは、友達もでき、お汁粉も食べられて、決してウォーク損（歩き損）ということはありませんので、まだ一度も参加されたことのない方は、ぜひ来年は参加してみてください。そしてこのウォーカソンで友達をつくり、また、目的である召命をご一緒に祈りましょう！

ところで、人生にはいくつかの節目がありますが、中でも誕生（洗礼）、結婚、そして葬儀などは、特に大切な出来事です。このすべてを司り、神と人とに仕える司祭という職務は重要です。この意義ある務めに、若者が召されるように祈りましょう！

なお、この召命を祈るための徹夜祈禱会が六月一日、二日、福岡黙想の家で行われますので、こちらにもぜひ御参加ください。

現代の病める日本、病める世界において、福音宣教を志す若者が召されることを、共に祈り求めましょう！

御受難会修練者　小口　勝

黒崎教会青年会 黙想会

黒崎教会青年会（担当司祭バイヨ神父）では、二月十一日から十二日にかけて下関の労働教育センターにて黙想会を行った。テーマは『現代の青年と福音』。指導司祭に日本カトリック研修センター（名古屋）の満留功次神父様を迎え、飯塚、小倉、水巻、戸畑、天神、鳥栖各教会の青年たちの参加を得、総勢二十二名が集まった。

黙想の個所として、①マルコ1章30－39節。②ヨハネ11章1－45節。③ヨハネ13章1－15節を取り上げた。

それぞれの黙想の中で、指導司祭の問いかけ、個人黙想、分かち合い、指導司祭のまとめが行われた。

主な内容は、「イエズス様はすべての人に対して関心を持っていらっしゃった。私はどうか」「私は周りの人に、自分の出来るどのようなことを行っているか」「共同体をつくるために、私は自分に与えられた才能（タラント）をどのように生かしているか」というもので、参加者各人が、各々の立場からこの問いかけに対して分かち合った。

黙想の終りにはゆるしの秘跡をさずかり、湾岸戦争の早期終結を願い、皆でロザリオの祈りを唱えた。

他教会の青年たちも多数参加したので、十一日夜には交流会も開き、大変な盛り上がりをみせ夜おそくまで歓談した。

今後は、この黙想会で得たものを大切にし、他の教会の青年との交わりを深めていきたいと参加者たちは口々に語っていた。

※床島藤吾のよもやま話は都合によりお休みです。

BOOK 読みは専科

★汝等きりしたんニ非ズ ―筑後今村キリシタン覚書

三原　誠著

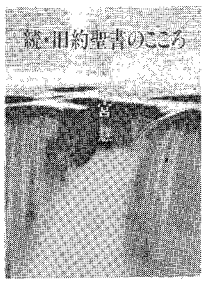
七代を経て、現われた黒衣のぱーてるがもたらした言葉は……

今村切支丹の歴史の劇的な発見を小説風に書かれています。書店では見られませんので左記へ申し込みください。

三井郡大刀洗町今七四〇
☎〇九四二-七七-〇二二八
平田　松雄
一、四〇〇円

★続・旧約聖書のこころ

雨宮　慧著



好評の「旧約聖書のこころ」の続編。

人間が生涯にぶつかる問題は今も昔もさほど変わりません。旧約聖書に登場する人々も、人生のさまざまな問題に直面しながら、神に答えを求めて苦悩しました。一方、神のほうも、執拗なほどに人に回心を呼びかけてその答えを待っています。

神と旧約の人々との、時には格闘ともいえる出会いとかかわりを見、私たち自身の、神との出会い、かかわりようを見つめさせます。

女子パウロ会
一、五〇〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 { 大理石 御影石 その他
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

六月の行事

※ゴチックは司教日程

3日　教区移動青年の集い
4日　司祭評議会
9日　若松教会堅信式
10日　青少年担当司祭集会
16日　光丘教会・召命の集い
教区修道女連盟ミサ
18日　NICEII準備会議
21日　九州地区カトリック学校理事長校長会議
23日　健軍教会堅信式
24～28日　司教総会
30日　教区修道女連盟総会

福岡黙想の家
1～2日　C・P・黙想会
召命をともに祈る
徹夜祈禱会
3～7日　コロンバン会研修会
8～9日　レジオ・マリエ福岡クリア
F・コープ生協運営委員会
15～17日　カテキスタ会
幼児教育センター
18～21日　八日間の黙想会
18～27日　小倉教会婦人会
30日　雙葉学園同窓会
7月6～7日
10日

教区人事

・クルシリオ指導司祭＝下町豊重師
・カトリック医師会指導司祭＝鈴木忠一師
・教区大神学生担当司祭＝松井忠之師
・湯川幼稚園園長＝山下正師

六月命日の司祭

※ドミニコ深堀仙右衛門司教
一九八五年六月二十一日第三代福岡教区長
※平田好師一九三八年六月二十一日元門司港教会主任

第四回生命尊重講演会

伝えよう！　いのちの尊さ　美しい生命を讃えて

共に福音を生き、歩む講話会
「福音のひろば」
交わりと分かち合いの中で
講師：発題者　畠　基幸神父
（御受難会・黙想の家）
場所：福岡カテドラルセンター４階
第３回　６月16日(日)　PM1:30～PM4:00
『神の民の交わり・カリスマとキリストの体』
第４回　７月21日(日)　PM1:30～PM4:00
『信仰の交わり・ミサの交わりと小教区共同体』
第５回　９月15日(日)　PM1:30～PM4:00
『福音と苦しみの交わり・貧しい人々と社会との連帯を生きる』
第６回　10月20日(日)　PM1:30～PM4:00
『生命の交わり・夫婦、子供、家庭、老人問題』
第７回　11月17日(日)　PM1:30～PM4:00
『福音宣教と交わり・東西霊性交流』
第８回　12月15日(日)　PM1:30～PM4:00
『キリスト信者の交わり・これからの教会の展望と可能性』
主催：福岡地区信徒・福音宣教推進部会
「福音のひろば」連絡先
青柳行信　☎092－621－6211
どなたでもお誘いの上、多数ご参加下さい

第四回生命尊重講演会

―いのちの不思議を　みつめた科学者の提言―
講演　村上　和雄氏
（筑波大学教授）
日時　平成三年六月十六日
13時30分～16時30分
会場　福岡県看護等研究研修センター（福岡市中央区赤坂1-14-5）
入場料　無料
主催　福岡いのちを尊重する会　代表　各務章
☎092-473-8235

神学校基金へのご寄附

◎安東ミドリ様と佐々木タエ様より金一封を神学校基金としていただきました。
◎マリア中本ハルエ様の香典返しとして中本岐余子様より金一封を神学校基金としていただきました。
故人の永遠の安息をお祈りしご報告申し上げます。
福岡小神学校　松井忠之神父

湾岸避難民救援

実行委員会　閉鎖

かのときのことのは

三森山　敬

かのときのことのは
堺の街のあきびとの
老舗（しにせ）を誇るあるじにて、
親の名を継ぐ君なれば、
君死にたまふことなかれ。

興謝野晶子

『晶子詩篇全集』に所収。君死にたまふことなかれのこの詩は、五連で一連が八行の長詩であるが、二十四歳の新婚の弟が、日露戦争の旅順攻撃にて戦死するのではないかと憂いて歌った詩。当時先輩の大町桂月は、第三連を取りあげて、乱臣・賊子とまで極言したが、晶子は動じなかった。老舗は羊羹の酸河屋。落合直文の弟子、鉄幹が編輯していた『明星』に歌を寄稿。これより、尊敬する詩歌の師鉄幹を識り、親の反対を押して結婚。晶子は、短歌、詩、文集、源氏物語の口語訳など、その名声は鉄幹を淩ぐ中で、五男六女の子供たちを、貧苦にも屈せず、立派に育てた。鷗外は言った。「晶子さんはえらいよ。」

本年一月末実行委員会が組織され、救援活動への呼びかけが行われましたが、四月末をもって閉鎖され、お礼と報告がありました。

編集室から

▼本紙の編集長を任じられ、ストレスを感じながら六月号が遅れながらも発行できました。前任者とちがい、まったく経験のないことをはじめましたのでご迷惑を多々おかけすると思いますが、よろしくお願いします。
▼本紙の編集に杉原寛信神父様（パウロ会）島義三様（浄水通）井久保雅美様（浄水通）のご協力を願うことになりました。前スタッフ同様よろしくお願いします。
▼スタッフのほとんどが、はじめての経験で何かと迷惑、失礼、また、教区報の中で誤字、脱字など生じて読みづらい点もあるかと思いますが、お許しください。
▼カトリック福岡教区報のこれからの充実のため、自由席の投稿、各地区、小教区、各種委員会、カトリック・アクション、修道会、各種事業などの行事がありましたら、記事と写真を積極的にお送りください。（なにしろ、取材記者がいないものですから）なお、紙面の都合上、割愛するときもあるかと思いますが、その節は、よろしくご了承ください。

栃木県の那須にあるトラピスチン修道院に滞在した時のことです。一人の青年が修道院の受付の壁にもたれて、何かを待っているようです。日が暮れると、野原の方へ入って、そこで夜を過ごすとのことです。翌日、また朝早くから、修道院の受付の近くに立っています。受付のシスターに青年の不思議な態度の正体を尋ねたところ、実は彼の好きな女性がこの修道院に入会したのです。しかし、彼は《彼女がきっと修道院を出て、私と結婚すると信じています。》という確信をもっています。それで連休の度にこうして修道院を訪れるのです。彼は大阪のある会社に勤めているとのことです。彼女から、「私は修道生活を選びましたから、もう来ないでください。」とはっきり言われましたが、聴きません。「私は彼女が必要です。」と主張します。人は愛のためには困難を承知の上、どんな無理でもして、頑張るものです。それも忠実の証拠の一つでしょうが残念なことに答えがなく、悲しい感じがします。

信仰生活においても、神から、選ばれ、洗礼によって、主キリストと結ばれた者は忠実に主について行くことを要求されます。

《悪がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで、耐え忍ぶものは救われる。》

マタイ　24・12～13

《最後まで、耐え忍ぶ》そこにこそ信仰の特徴があります。信仰の道を歩むキリスト者は誰でも問題なく、順調に進む時もあれば、誘惑の嵐に翻弄される時もあります。三十年前、中共におけるキリスト者迫害の熾烈な最中、一人のカトリック女子学生、ジャンヌが逮捕されました。彼女はカトリック学生連盟の副会長でした。活力に満ち、朗らかでみんなから愛されていました。また彼女は中国カトリック信者のレジスタンスの代表的人物の一人でもありました。ジャンヌが捕えられた時、友人達は彼女のロザリオの玉を互いに一つずつ分け合いました。

忠実とは

徳山　登

あたかも聖遺物のように。

ジャンヌは始め一か月は獄中、苦難の中に周りの仲間に洗礼を施し「我らの聖母」と言われて、慕われていました。

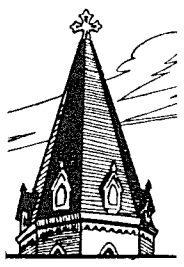
しかし、十六か月にわたる英雄的な抵抗の後に彼女は転んだ。大講堂の学生の前で、自分の過去を否定し、かつての友人を非難し、カトリック教会を侮辱したのです。そして、革命に共鳴するとおおやけに宣言したのです。

信者の学友達は驚き、悲しみ、恥ずかしさで泣くばかりでした。ロザリオの玉は一つずつジャンヌに返されました。これはジャンヌに対するもっとも、思慮深い叱責であり、祈りの内に助けを求めようとの暗示でもありました。

それから、二週間目にジャンヌは外出することを許されました。その時二人の学生の受洗に預かりました。九月八日の夜のミサのあいだでした。司祭はその時、キリストの慈悲深いみ心について、語りました。その翌日、ジャンヌは許しの秘跡を受けて、ご聖体をさずかりよき牧者イエズスのもとに返り、ふたたび立ち上がりました。途中、転ぶことがあっても、死ぬまで失望しないこと、これが忠実であります。大切なことは自分の忠実と言うより、神ご自信の忠実を信じることです。私たち、人間の忠実は壊されやすいものです。

イエズスの弟子でさえ、主を捨てて信じなくなった時があったではありませんか。弟子のヨハネだけは、イエズスの自分へのイエズスの愛を信じこんで、最後の晩餐の時にイエズスの胸に寄りかかっていたのです。

（ヨハネ十三ノ二三）そして、十字架のもとにマリアと共に、立っています。いくら、私が罪深いものであっても、私に対する主の愛はより深いものです。イエズスは私たちに無理な犠牲を求めません。ただ、「安心して、ついて来なさい。私の心にとって、いちばんの慰めはあなたの信頼です。」



マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川３丁目１－10 17
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木１－４－24
ＴＥＬ　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　ＴＥＬ 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　ＴＥＬ 092－521－0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀　勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

召命をより真剣に考える（その1）

司祭数の危機

福岡教区長、ヨゼフ松永久次郎司教着座式のときのあいさつを思い出し、カトリック福岡教区報編集室では、今月号から三回にわたって、〝召命をより真剣に考える〟をテーマに現状の理解と将来、召命のためになすべきこと、召命への道という視点から取りあげて行く。

今回は、その問題提起のために教区事務所（事務局長、山元真師）に、福岡教区に働く司祭の年令別、教区邦人司祭と修道会・宣教会司祭数、小教区（教会）付の司祭数、（表一）と、福岡教区全司祭所属別比率（表二）のグラフの作成を依頼した。

二つの表から次のような四点が見られる。一、司祭の老令化、二、召命の減少、三、将来的（十年後）司祭数の不足、四、修道会・宣教会への依存。

一、司祭の老令化

今、働く司祭の内、六十五才以上の司祭は四十五名を数える。現在、大神学校には、八名の教区神学生が在籍してはいるが、このままでは、司祭の平均年令は毎年高令化して行くと言える。

二、召命の減少

六十五才～六十九才の司祭数をピークに、教区司祭、修道会宣教会司祭の数も五年毎に見ると減少をたどっている。三十才～三十四才が少し増えているが、それは、十年前の召命への意識と祈りのあらわれと見ても、全体的に減少の一途にあると考えられる。

三、将来的司祭数の不足

もっとも現実的、将来的問題は司祭数の不足である。現在、司祭の定年は七十五才と言われるが、このまま進めば十年後には全体的に四十五名が七十五才以上となり、教会付司祭も三十三名が定年を迎える。これに対して、大神学生は八名だけである。教会付司祭だけで十年後は二十五名が不足する見通しとなる。

四、修道会・宣教会司祭への依存

教区の司牧・宣教のために協力を願っている修道会・宣教会の司祭数は全体の約六十%に及ぶ。今は大丈夫だと言っても、今の司祭数での協力はあと十年～二十年で厳しいものに見える。いつも、六十%にも近い司祭数の協力はたえず願うことができるだろうか。

以上は、一つの見方としても、今は危機を感じなくとも、これから現実のものとして避けることのできない問題ではないだろうか。教区民全体が召命を意識し、信仰に生きることの大切さの自覚が必要であろう。

※表一、二をご覧になって、教区民（司祭・信徒）は、どうあるべきか、ご意見などありましたら、編集室までお便りください。

また、召命に関してのこともありましたら合わせてお願いいたします。

なお、寄稿は月の十五日頃までにお送りいただければ幸いです。

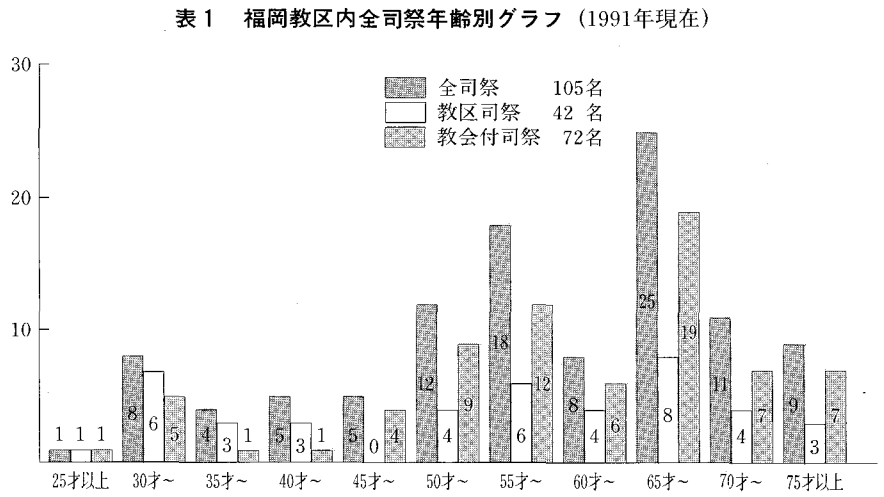


表1　福岡教区内全司祭年齢別グラフ（1991年現在）

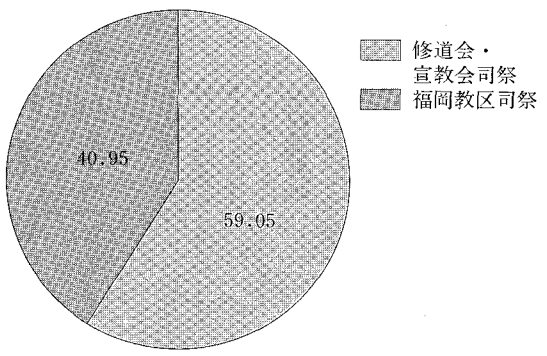
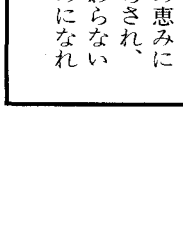


表2　福岡教区内全司祭所属別比率（1991年現在）



今月のみことば

いのちのある限り
恵みといつくしみは
いつも私をおう
（詩23・6）
鹿島教会　A・テンペリーニ

時の話題

谷川　二郎

ウイルキー博士夫妻講演中止にあたって

四月下旬に予定されていたウイルキー博士夫妻による「性といのちのメッセージ!!」という講演会が、博士の急病のため已む無く中止になったのは、大変残念なことでした。熊本での講演にあたっては、ファミリーセンター所長のライル神父様と熊本地区信徒協が合同で取り組んだ企画で、全国的組織を持つ「明るい家庭を築く会」の主催の元に、熊本日々新聞、RKK、そして、熊本市教育委員会等から広く後援を頂いていました。性の氾濫の時代と呼ばれる現代にあって、性についての正しい理解と実践は、思春期の青少年男女だけではなく、その両親及び学校教育にあたる先生方にとっても、非常に大事な且つ難しい課題であります。男女の体の構造の相異、性のしくみ、そして、妊娠や避妊といった事柄に対する知識は、以前よりは若い人々の間で豊かになって来ているのは確かな現実です。しかし、もっと大事なことは、性という問題を単なる好奇心と欲求の対象として捉えるのではなく、いのちの誕生と育成、否、もっと広い意味で、「生きる営み」の中で正しく性の機能と役割を位置付けることだと考えます。ただ、先程から使っている「正しい」という形容詞は、何を持って正しいとするか、その判断基準を示すのは難しいものです。先ず、医学的に科学的に矛盾しないことが大前提になりますが、それだけではなく、キリスト教の信仰に支えられていることが必要だと考えます。つまり、こういう意味の「正しい」理解によって、性が今までよりも意義深いものと実感されるものでなければなりません。実は、性は、思春期の青少年やその両親、そして学校の先生達の問題と限定することはできません。成人男女というか、老若男女の問題であり、両親とか先生という、いわば、教えるとか諭すとかいう立場に身を置く前に、我々自身が性の問題の当事者であるという認識を持つべきです。自らが、「正しい」性に対する理解を持たずに、どうして青少年に対して、性を語ることができましょうか。

ウイルキー博士夫妻の講演会は、「正しい」性の理解のためのまたとない機会だったので、その中止は大変残念な思いでした。しかしそれを一番残念に思われたのは他ならぬライル神父様だったでしょう。また次の機会を神父様とともに考えて行きたいと思います。

（熊本大学教授　武蔵ヶ丘教会）

小神学校　夏休みの計画

福岡教区に設立されている福岡小神学校（校長、松井忠之師）聖パウロ小神学校（院長、杉原寛信師）では、夏休みにそれぞれ召命のための行事を計画している。召命の減少が叫ばれて久しくなりますが、司祭職とは何か、小神学校とはどんなところか、その理解の一助と、召命促進のための機会として夏休みのひとときが生かされることが期待されている。信徒の皆様のご協力よろしくお願いします。

「召命学校」ご案内

この度、福岡小神学校では司祭職を希望している子供達に神学校生活を体験していただき司祭職について考えていただくために、「召命学校」を開催いたします。

日　時　8月20日(火)午後2時～22日(木)午後1時
場　所　福岡小神学校
対　象　小学校5・6年男子
（中学生の希望者も可）
参加費　¥2,000（交通費各自負担）
定　員　30名
申し込み〆切　8月7日まで
申込先　〒810 福岡市中央区浄水通り38
福岡小神学校
松井忠之神父宛　☎092(531)6821

召命錬成会

友達いっぱい楽しい夏の錬成会

対　象：小学3年生～6年生男子
日　時：7月22日(月)4時PM～
24日(水)10時AM
場　所：福岡聖パウロ小神学校
参加費：千円
（往復交通費も自己負担）
・申し込み締め切りは、7月18日です。

〒810 福岡市中央区小笹4－11－11
聖パウロ小神学校
☎092(531)0924

お詫びと訂正
福岡司教館教区事務所のＦＡＸは092-522-5138から092-523-2152に変更。
報告が遅くなりお詫び申し上げます。

みちくさ

『言うは易く行うは難し』ということわざがあるが、「愛」ということばほど、そのことわざを実感するものはないような気がする▼先日、電話でタクシーに財布を置き忘れて、旅先で困っているのでお金をお貸しくださいとのこと。またかと思いながら相談に乗って、その時の心の動きがいやになる。素直に信じたい、でも、しっかりと疑ってものを言う。そして、葛藤の末、だまされたつもりでお金を貸す。その心が、また、いやな思いにさせる。相手を知っているならそんなことはないのにと思う。愛には疑いがつきものだろうか▼今度は相手をよく知っているとする。すると、親しき中にも礼儀ありで、なれなれしいと角が立つ。人間とは難しい動物に思えてならない▼そこで、さらに、キリストの愛に心を向ける。確かに、喜怒哀楽のある人間キリストに出会う。でも、絶えず人類を、ひとりひとりを愛されたキリストの姿に神を見る。キリストにあこがれ、キリストのように愛せたらと思う。しかし、所詮、弱い人間、愛と憎しみの狭間に生きているような気がする。今日は愛があるといい、明日には愛がないという。今日は喜びで満たされ、明日は失望の中にいる。なぜ、絶えず愛し、絶えず喜びの中で生きることができないのだろうか▼キリストは、この弱い人間のために、聖霊を約束された。私たちが神の愛の中で生きるようにと▼これから季節は夏。太陽の輝きと暑さは一段と増す。少しは遠慮してくれと我ままを言いたくなるほど、その恵みは注がれる。この恵みに気づくどころか、迷惑がる。聖霊の恵みも同じように感じているのかもしれない。愛するに弱い私たちに、聖霊は惜しみなく恵みを注がれる。そのとき、有り難迷惑だと思うのだろうか。私たちが、聖霊の恵みに心を開き、聖霊に照らされ、キリストのように変わらない愛のうちに生きるものになれたらと思う。

第二回 福音宣教推進全国会議へ向けて

私たちのすべきことは

ナイスに向けて各管区の動き

第二回福音宣教推進全国会議テーマ「家庭」へ向けて、司教団が昨年十二月に出した声明「まず、ある時期を設けて、教区をはじめさまざまな教会共同体において、第一回全国会議の取り組みの分かち合いを行い、また第一回全国会議の精神と方向性を確認する必要がある」にしたがい、東京、大阪両管区ではそれぞれ会合を開いた。

東京管区

東京管区（札幌・仙台・新潟・浦和・東京・横浜各教区）では、二月十八日（月）～二十日（水）にかけて、群馬県安中市磯部温泉「磯部館」にて各教区から参加した代表者、約五十名が東京管区司祭評代表者会議を行った。

先ずこの会議の目的として次の事を述べている。

①管区司教団が管区内の司祭の声を聞き、それを第二回福音宣教推進全国会議の準備に役立てる。

②管区内の司祭が、第一回福音宣教推進全国会議の方向性を理解し、信徒とともに、教区公聴会や小教区の活動の中で第二回福音宣教推進全国会議の準備をしていけるような下地を作る。

参加者はこのような目的意識にたって、分団会、全体会議などで、ナイスⅠ後の各教区の動き、今後の動向など、積極的な意見交換を行った。

確認事項としては、ナイスの原点に戻り、その基本的性格、並びに方向性について、濱尾司教がナイスⅠの13提案の実現を目指しての現状報告と、継続的な協力を要請した。

ナイスⅠ後の各教区の動き

は、教区によってその事情が異なり問題点を多く抱えているようである。しかし、それらの問題と真剣に取り組みながらも、種々のアイデアをしぼり出し、ナイスⅡへ向けて、教会が司祭・信徒一体となって乗り越えてゆこうとする姿が感じられた。

今回の東京管区司祭評代表者会議は、司教協議会に対し、以下の提言をすることに合意し、終会した。

提言

一、第一回全国会議の精神と方向性、特に、「弱い立場におられる人々を優先すること」を確認し、受け継ぎ、発展させるための第二回全国会議とする。

二、各地域別に、事情と歴史性をふまえて、『家庭』の切り口を定め、それにもとづいて『福音宣教推進地区会議』（仮称）を開催しその成果を全国会議に持ち寄り、分かち合い、それらの経過と働きを通して、日本のカトリック教会の福音宣教の推進を図る。

三、地区会議を開く理由としては、次の諸点を挙げることが出来る。

(1) 家庭は地域に根ざしている。

(2) より多くの人々のナイスへの参加を可能にする。

(3) 身近な課題としての意識化のために、地域の家庭の実情把握が必要で、社会構造の反映としての家庭の現状把握を欠かしてはならない。

四、管区間、教区間で、自由な情報交換を行い、相互の協力と関わりを深めて行くように努める。

大阪管区

大阪管区（名古屋・京都・大阪・広島・高松各教区）では、二月二十五日（月）～二十七日（水）にかけて、大阪東洋ホテルにて各教区の司教・司祭、オブザーバーなど計百七十九名が参加して行われた。

今回の司教会議に先立って大阪管区は司教・司祭団の基本的共通理解として、文書をもって以下のことを確認しておいた。

①第二回全国会議は第一回全国会議の精神と方向性を受け継いで、「開かれた教会づくり」を通して日本における福音宣教を推進するために開かれる。

②第二回全国会議の準備のため、まず、第一回全国会議の取り組みを分かち合い、第一回全国会議の精神と方向性、即ち、「生活から信仰を、社会の現実から福音宣教のあり方を見直す」「社会とともに歩む」を確認する。

③以上の歩みを経てから、社会とともに歩むために生活を通して信仰を育ててゆく基本的な場としての「家庭」を、どのような面から扱ったらよいか、を考える。

④その際、「聴き、吸い上げ、活かす」という第一回全国会議のプロセスでも重視するよう努める。

以上のことを確認し、踏まえた上で、ナイスⅠを振り返り、ナイスⅡに向けて各教区の状況、福音宣教に励む現場司祭の意見、抱えている様々な問題への対応などについて参加者たちは活発な討論を行った。

会議プログラムの大まかな流れは、発題、パネルディスカッション、分団会、全体会まとめであった。

発題

「ナイスⅡ発表後の問題点を浮かび上がらせる」ために、次の三点について司祭、信徒の提言が行われた。

①**第二回福音宣教推進全国会議のテーマの決め方について**（広島教区・沢野耕司）

「全国会議」の新しさとその価値は、司教あるいは司祭型ではないという点にあり全信徒が福音宣教の使命を自覚し、責任を分かち合うための場として「全国会議」がある。つまり、最終決定は司教に委ねられるが、その展望、プロセスは信徒全員に委ねられた責任である。

②**ナイスⅡのテーマ「家庭」について**（大阪教区・吉村信夫、京都教区・松本秀友）

ナイスⅠが浸透していないこの時期に、「家庭」というテーマでナイスⅡを行うことにある種の違和感があるが、ナイスⅠからの継続性をもたせ、家庭の現場にいる信徒の体験・意見を充分に「聴き、吸い上げ、活かし」ていく、具体的拡がりのあるナイスⅡであることを望む。

③**「第二回全国会議」の取り組み方**（名古屋教区・岩崎一二三）

各小教区の主任司祭を通して、信徒の意見を集約し報告し合う。信徒と〝ともに〟準備を行ってゆく。

以上の提言をもとにアンケート調査も行われ、参加者たちはパネルディスカッション、分団会、全体会から大きな刺激を与えられた。更により広く意見を吸収するために「信徒向けアンケート」も作成されており、これは各小教区や地区集会などでの話し合いのためのよい材料になると思われる。

このように東京、大阪両管区では、それぞれ今年二月にナイスⅡに向けての準備プログラムとして「司教会議」を開いた。

福岡教区が属する長崎管区では、**「長崎教会管区司祭会議」**を十月十四～十六日に熊本ニュースカイホテルで開催予定である。この会議に向けての福岡教区の動向は以下の通りである。

福岡教区ナイスⅡ準備委員会のFr.山元真、Fr.竹森勇、Fr.S・ライル、Sr.黒木紗耶子、Sr.平田英子、小笠原勝己、深堀純、鬼木久美、桜井太郎、深堀邦枝各メンバーが定期的会合を開き、着々と準備を進めている。

現在、準備段階にある主な事柄

①「ナイスって、何だろう」のパンフレット作成。これはナイスⅡへの呼び掛けとして、教区民全員がナイスⅡへの積極的参加の準備として、ナイスへの興味と関心を高め、意欲を燃え立たせるために必要な情報を提供するものである。

②長崎教会管区司祭会議に備えて「ナイスについて考える会」を九月十五日（日）午後一時半～四時、福岡司教館において、司祭、修道者、信徒有志により開催予定。その内容は、ナイスⅠの教区民への浸透度、成果などの情報交換と、今後の課題などについて話し合う。

③信徒使徒職協議会レベルでの徹底化。ナイスⅡへの意識化対策の一つとして、地区別に開催される信徒協への働きかけを行う。

本年度の各地区信徒協開催予定は次の通り。

五月二十六日（日）
福岡教区信徒使徒職協議会（司教館）

六月二十三日（日）
北九州地区信徒協

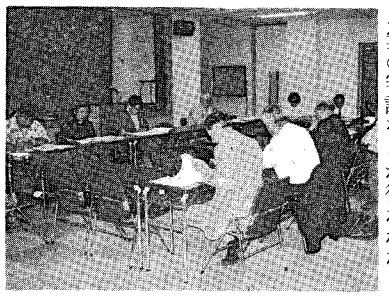
七月七日（日）
佐賀地区信徒協

七月七日（日）
福岡地区信徒協

七月二十一、二十二日
福岡地区信徒研修会（講師・濱尾司教指導でナイスについて）

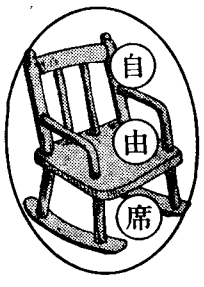
九月　予定
熊本地区信徒協

ナイスⅡへ向けてのこのような準備が進められている中、教区民一人一人は、改めて開かれた教会づくりの原点、「社会と共に歩む教会」「生活を通して育てられる信仰」「福音宣教する小教区」に立ち戻り、「内向きに閉ざされがちであった私たちの姿勢を真剣に反省し、神であるにもかかわらず兄弟の一人となられたキリストにならい、全ての人に開かれ、全ての人の想い、力、希望となる信仰共同体を育てる」そんな努力を積み重ねてゆきたいものだ。



長崎管区

今、秋の長崎管区司祭会議に向けて準備が進められていて、六月十八日(火)には第三回管区司祭会議準備会議が、大名町教会で行われ、各教区における招聘状の発送、プログラム案の審議などが行われた。



花の東京から愛する福岡教区の皆さまへ

渡辺　隆義
（カトリック中央協議会）

暑中お見舞申し上げます。

皆さまいかがお過ごしでしょうか。お世話になった教区の神父様方や修道者、信徒の皆さまへ転任のご挨拶もしないまま東京に出てきて、早二か月が過ぎてしまいました。

現在、カトリック中央協議会の広報部というところで働いています。広報部は、社会のさまざまな情報の収集を行ったり、教会のニュースを流したり、いわば教会と社会の接点のような役割を果たすべきところです。私は、幸いにも素晴らしい職場の仲間に恵まれ、楽しく仕事をさせていただいています。

朝夕約一時間、地下鉄の満員の通勤電車で人にもまれることなど、教区ではマイペースで生きていましたので、サラリーマン生活の大変さを少しだけですが体験する恵みの時となっています。

大都会東京では、みんな哀しいくらいに一生懸命生きています。

空を見上げて東京の天気を予想するのはなかなか難しいものです。九州の空の青さと違うからです。東京のいろんなことが分かるようになるには、まだまだ時間がかかりそうです。

上京される時は、どうぞご遠慮なく中央協議会にもお立ち寄り下さい。冷たい水の一杯でも差し上げますので。

愛する故郷福岡教区の発展と教区報の読者の皆さまの上に神の豊かな祝福をお祈りしています。

祈りの日へどうぞ！

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分
内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。
※簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

松永司教
熊本地区公式訪問

熊本地区信徒協主催で、五月十六日、手取教会堅信式の機会に、着座後、初の公式訪問として、ヨゼフ松永久次郎司教をお迎えした。司祭、修道女、信徒ら約二五〇名が参加して、松永司教司式の感謝のミサ、堅信式、そして、和やかな歓迎式が盛大に行われた。

手取教会ジョー神父が「松永司教様と私は〝ジョセフ〟で同じ名前です」とユーモアたっぷりな歓迎のあいさつで、爆笑のうちにスタートし、松川安秀信徒会長が、司教の経歴を紹介しながら、小羊の群れをご指導くださいとあいさつした。

アトラクションの「おてもやんサンバ」の踊りの輪に司教も加わり、信者からさかんに拍手喝采を受け、親しみある司教と好評だった。

パーティーの席上、松永司教は、「今の時代、ただ頼って信じるだけでなく、自覚して、自分で判断してキリストの道を歩んでいくことができるよう生涯勉強を続けて欲しい」、「司祭、シスターの召し出しを沢山出して欲しい」。また、受堅者に対しては「小さな頭でキリストのことを考えて、外に表わしていかなければならない」と語った。

'91福岡ブロック移動青年の集い

去る六月二日、司祭の家において、長崎など教区外の地域から移動してきた青年たちを迎え、『福岡ブロック移動青年の集い』が催された。長く続けられているこの集いに、今年も七名の移動青年を含む三十数名の青年たちが集まり、盛大に行われた。

松永司教司式のもとに捧げられたミサによって始まったこの集いは、昼食会・司教による講話・茶話会と続き、始めはぎこちなかったみんなも次第に親睦を深め、互いの信仰を分かち合った。

特に、司教は講話において、マリア様の祈りが宣教する者の心をつなぎ止め、心の支えとなったことを強調した。参加した青年たちは、同じひとつの信仰をもつ者として一致し、祈りを忘れることなく、社会にあってイエス様の精神を浸透させていく者とならなければならないことを感じたようだ。

今年三月に洗礼を受けたばかりの一人の青年は、この集いに初めて参加し、この『福岡ブロック移動青年の集い』を通して、教会におけるたくさんの仲間の存在を感じ、また教会における青年の使命の重要さを考えさせられたと、感想を語っていた。

フィリッピン研修生と交流会

去る六月九日、新田原教会で、行橋のローム福岡にフィリッピンからの研修生との交流会が、委員長大水茂市氏の肝いりで行なわれた。今回のローム福岡研修生のうち九名が信者で、七名が参加、同じ信仰の中で、片言の英語でありながらも、心が通じ合い楽しいひとときを過した。

国際生命尊重会議東京大会に参加して

去る四月二十五日～二十七日まで国際生命尊重会議東京大会（非宗派、非政府機関の国際組織）で受精から自然死までの、すべての人間の、生命の基本的権利の承認の達成を目的とし国連のNGOの組織として承認され、オブザーバーの資格が与えられた、ただ一つの生命尊重の組織（IRLF）が世界三十か国の参加者を迎え盛大に開催された。初日には、日本と外国からの生命尊重運動の発表や講演が行われた。その中でホワイト女史（医学博士）は、中絶後の恐ろしい精神的後遺症について話された。胎児は受精の初期から、ホルモンのメッセージを送っているのだから中絶によりひどく傷つけられること、そしてその責任は母親だけでなく医者の責任についても語られた。又ヴァチカン教皇庁からトゥルジロ枢機卿（家庭評議会委員長）が教会の見解をのべる為に参加。二十七日には本大会の発起人の一人である白柳大司教の同席のもと約四百名の参加者の賛同を得『胎児の人権宣言』が採択された。大会でウィルキー博士（会長）夫妻が胎児の成長の過程をスライドを用いながら分かりやすく説明され、どの過程も、人間であることを科学的に証明された。又百年前の奴隷には人権がなく、生かすも殺すも所有者の自由であったように、今日では中絶によって母親が子供に対して同じことを繰り返している。胎児は現代の奴隷である。今後の高齢化問題も、かつて親が子供にしたように、今度は子供が年老いた親を、重荷だとして同じことを繰り返さないといえるだろうかと話された。六個条からなる胎児の人権宣言は①受精の時から人間である。②胎児の基本的権利の立法化の必要性。③良好な胎内環境で発育する子供と母親の権利等が骨子になっている。この宣言文が『すみの親石』となって今後多くの賛同者を得ながら実現に向かっていくであろう。続いて『第二回世界生命賞』が、第一回のマザーテレサに続いて菊田昇医師に授与された。今後とも、この輪が広がっていくことを強く願った。年間百五十万ともいわれる我が国の中絶の実情に、IRLFの世界の仲間と手をつなぎながら、神の似姿として造られた私達が受精の瞬間から、死に到るまで、胎児や、老人の側に立って、尊い生命が守られ、大切にされる社会が築かれるよう、神が強く望んでおられるのを感じた。

（高宮教会・野川啓子）

家庭 第2回 全国会議に向けて

信仰の遺産

カトリックの知性を代表した哲学者『岩下壮一師』の説教をかつて聞いたことがある。

戦時中のことで、場所は珍しく中国の首都、北京の三條胡同にある教会であった。

日本が太平洋戦争に突入する前夜の暗い時期に、多難な前途を予測されてか、今こそキリストのみ教えを伝えるべき重大な時であると切々と語られたように思う。

「信仰の遺産を伝えるのは命がけ」といった内容で、「キリストのみ教えを伝えるのは家庭では聖職者ではなく、あなた方父親であり、母親ですよ。」――それはキリシタン迫害時代のように司祭不在の時期が近いことを暗示しているかのようであった。

杖をつきながら病弱の身で、中国を訪問されていた。帰国後まもなく病を得て、その年に帰天された。このことを知る人は少ない。

話は移るが、数十年ぶりに『ふるさとの教会』を訪れてみた。

ふるさとの山河は変わらず、正午にはアンジェラスの鐘が鳴って、ミレーの晩鐘を思わせる光景が展開する。丘の上には青空を背景に祈る農夫の姿があった。夕べには一家揃って家族全員で祈る後姿があった。

「祈る家庭に神宿る」といわれる。

都会では現代社会特有の不安は、とりわけ学歴競争社会の中でわが子を育てなければならない点で、激化する進学競争に敗れまいと子供たちは宗教的情操や自然界での遊びと無縁に育ち、塾通いや部活動その他に費やす。

茫茫四十年、進学指導に奔走したが、空しかった日々を思う。

やがて学生数の激減で、反省期が訪れようとしている。受験戦争の狂乱ぶりから解放され『教育の原点』に立ち帰る必要を感じる。

家庭教育の重要性を早くから指摘された偉大な先達、岩下壮一師を偲び名著『信仰の遺産』を今更ながら繙いているこの頃である。

牧山敏浩（佐賀教会）

床島藤吾の よもやま話

勝島のこと

昭和三十年頃のこと、ベネディクト会司祭バンドリー神父様（名前の意味―うろつき）がベトナムから福岡教区においでになりました。そして、修道院を建てるということで、名前の通り、うろつき回って、神湊の先の勝島に五、五〇〇坪あまりの土地を購入されました。でも、所有者が多く、数十名の方と売買契約をしなければならず、平田勇神父様の助言をあおぎ、白石さん（当時神学生）が、バンドリー神父様に協力して、たいへんな売買契約をやっとの思いで終えて、昭和三十一年には修道院もできました。そして、ひとりで修道生活をはじめられましたが、日本語もわからず、当時、学士会の九大の石先生が通訳をして世話されました。バンドリー神父様は典礼に詳しく、日本の反物を使って、斬新なデザインの祭服を作ったりされていました。でも、名前のように、ベトナムから突然やって来られましたが、一年あまりでフランスに帰られました。そのあと、深堀司教様は、他の修道会に、勝島に修道士を願われましたが、島までの交通の便も悪く、実現しませんでした。当時は、他にも、スカウトのキャンプなどにも利用されましたが、今は無人島となっています。バンドリー神父様が、名前の意味のように福岡教区をうろついて行かれたことがなつかしく思い出されます。

BOOK 読みは専科

★大地からの信仰 ―聖書に登場する人物より―

森　一弘著

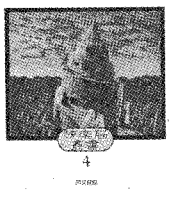
人類の大部分の人々に神が与えられる召命は、社会の現実の中に身を置き、その流れの中で神への旅路を歩むことです。人は夫のため、妻のため、そして子供や年老いた親のため、厳しい人生に挫折しないようにさまざまな意味で闘っているのです。

そうした人々にとって「生活を通して信仰を養成する」そのためにどうしたらよいのでしょうか。そのためにどのような姿勢が求められるのでしょうか。そのための光を聖書の中に登場する人々の中に探してみようと試みたのが、この書です。

中央出版社　一、四〇〇円

★驚くべき旧約聖書の真実

竹内　均著



地球物理学者として有名な著者が、九十回以上の海外旅行の中で、特に旧約聖書に関係ある国々をまわって、自分の研究とも一致している旧約聖書の歴史的事実を今更ながら驚きをもって語っています。

受験生向きの月刊雑誌「アルファ」に連載されたものですから初めて旧約聖書を読む若い人でも読める本です。

同文書院　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 理 大 御 石 影 石 そ 他 の
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

七月の行事

※ゴチックは司教日程

2日　教区立幼稚園園長会
13日　ナイスII準備委員会
14日　八王寺教会堅信式
20～21日　福岡地区信徒協夏季研修会
23日　司祭評議会常任委員会
23日　教区顧問会
26～28日　熊本サマーキャンプ
28日　大名町教会堅信式

福岡黙想の家

5日　祈りの会
6～7日　雙葉同窓会（インマヌエル会）
13～14日　アジアに生きる会
20～21日　信徒研修
25～26日　笹丘土曜学校
27～28日　C・P・黙想会（壮年男子対象）
27～28日　イエズス村
29～30日　泰星母の会
31日～8月4日　サダナII

平和巡礼

福岡教区青少年担当司祭団は、青年たちとともに歩むために、月一度、歩みの見直し、勉強会、活動の方向付などのために会議を行っているが、この夏の青年たちへの呼びかけとして平和巡礼を計画している。

◎広島教区主催「カトリック平和行事」参加
団長　森山　信三神父
日時　八月五日（月）九時～八月六日（火）十八時解散
定員　十五名
参加費　三、〇〇〇円
申込〆切　七月十四日
連絡先　小倉教会森山神父
☎〇九三―九三―〇〇九三

◎長崎平和行列参加
団長　川上　惣一神父
日時　八月九日（金）十三時～八月十日（土）十六時帰着
定員　三十名
参加費　三、五〇〇円
申込〆切　七月十四日
連絡先　本郷教会川上神父
☎〇九四二―七七―〇〇二二

◎沖縄平和巡礼
団長　平田　三好神父
日時　九月二十一日（土）～二十三日（月）
定員　十名
連絡先　直方教会平田神父
☎〇九四九―二―二四七
※詳細は後日お知らせ

青年たちが、平和に関心を示し、体験をもって平和を考える機会となるよう積極的な参加が期待される。

一九九一年度 第三回 結婚準備セミナー

福岡会場
9月5日（木）
7日（土）
12日（木）
14日（土）
19日（木）
21日（土）
26日（木）
28日（土）
9月2日（月）
4日（水）
8日（日）
9日（月）
11日（水）
16日（月）
18日（水）
22日（日）
熊本会場

問い合わせ
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎〇九二―五四一―六二〇七

※福音のひろば

第四回七月二十一日は十四日に変更になります。

鳥と虫とは鳴けども涙おちず。日連は泣かねども涙ひまなし。

日連

かのときのことのは

森山　敬三

『諸法実相鈔』に所収。佐渡に流された五十二歳のときの言葉。この前の文は、現在の大難を思ひつづくるにも涙、未来の成仏を思ふて喜ぶにも涙せきあへず、とある。そして、この文のあとは、この涙は世間のことではなく、法華経のためであり、甘露の涙であると言っている。

あの尊大で自信家のようにみえる反面には、憐情あふれるやさしい心があった。親鸞と違って、一生独身で通したにもかかわらず、夫婦愛について驚くほどの理解と共感をもち、「をとこのしわざは女の力なり」というほど、女性の地位を高く評価していた。念仏無間、禅天魔、真言亡国、律国賊という批判が残っているが、それは他の鎌倉の祖師と違って、社会改革者であったためであり、そのことは現代のわが国の新興宗教に承伝されている。

七月命日の司祭

*ウィリアム・シュルツ師（スカボロ会）一九八七年七月二日元吉塚教会主任
*ジョルジュ・ラグレブ師（パリ外国宣教会）一九八二年七月二十五日元門司天使園
*ヤコブ平田勇師一九八〇年七月二十日元西新教会主任
*ルネ・ルリエ師（パリ外国宣教会）一九七〇年七月二十八日元聖小崎育児園園長
*ジョセフ・ブルトン師（パリ外国宣教会）一九五七年七月二十五日元呼子主任
*ヨハネ平田惣五郎師一九八九年七月三十一日元浄水通教会主任

編集室から

▼六月号を不足欠点でやっと終ったと思ったら、七月号の準備、これはたいへんと思いながら三号終わりにならないように頑張りたいと思います。
▼本紙に寛大な心をもって、お付き合いください。各号を前回よりよいものにを努力目標に歩んでいます。

祈りかげ

予想外の出来事

徳山　登

ある一人の奥さんはやめる自分の夫を救いたい一心から、自分の生命の危険も顧みず、自らの内臓を夫に与え、移植させたのです。しかし、この移植は成功せずに夫は死んでいったのです。夫は天国に召されたとはいえ、自分の夫をここまで愛する事ができたとはすばらしい事です。この愛の気高さは称賛に値します。

「すでに、夫は去ってしまいました。あれほどまでに愛した夫、楽しかった日々はもうかえってきません。思えば本当に短かった彼との結婚生活でした。けれども、これほどまでに愛する事の喜びと苦しみを思い知らされた事はありませんでした……。」

私たちの日常の生活の中でも思いがけない出来事にぶつかります。どのような心をもってその出来事に直面するか、それが大事なのです。その出来事をどの様に迎え、受け入れるかという事です。

『よきサマリヤ人』のたとえ話（ルカ10・30）を現代において考えてみましょう。司祭とレビ人は真面目で合理的な精神をもっています。毎日きちんと一日の仕事のスケジュールを立てています。会議や講和などもメモされています。たまたま出会った道端の苦しそうな怪我人の事はその日のスケジュールに入っていませんでした。《本当に気の毒な人！強盗なんかに出会わない様にもう少し注意して貰いたかった。今はもう遅い！この度は勘弁していただきましょう。》サマリア人の方は司祭やレビ人の様に真面目ではありませんでした。しかしどんなスケジュールにも囚われていず、心にゆとりがあります。人をいつでも受け入れる自由さがあります。日々のプログラムは紙の上にではなく、心に記されています。予想外の出来事の為のスペースもいつも空けています。予想外の出来事！これは私たちと神との関係において大事なものです。その人の信仰が本物であるかどうかの試金石になります。勿論できるだけ予想して、物事に備える様に努めます。運命主義者になって「何でもいい。どうでもいい」という気持ちではよくありません。しかし、予想外の出来事を現実として受け入れ、神からの呼びかけとして認めたいものです。『聖霊は予想外の出来事の専門家である』といわれます。ジャンヌ・ダークも「神様はその日その日、私の歩む道を作ってくださる。」とおっしゃっています。そして、イエス様がペトロにおっしゃった最後の言葉を思い出しましょう。「シモン、あなたは若い時自分で帯を締め、行きたいところへ行っていた。しかし年を取ると両手をのばして他の人に帯を締められ、行きたくないところに連れて行かれる。」こういわれてから、「私についてきなさい。」とおっしゃっています。これはペトロの一生の全てだといえます。

そしてペトロだけでなく、キリストに召し出された全ての人々の生き方の全てだといえます。

実際、キリストさまが人々をお選びになった時、入社した時の様に契約を結び、今後の働き、条件などの話合いは全くありません。ただ、お互いの信頼関係に基づいた約束だけです。マリア様のご生活こそ、予想外の出来事の連続でした。御子の誕生を家畜小屋で迎え、赤ん坊のイエスを秣桶に寝かせる事も、エジプトへの避難、十二才のイエスを見失われた事、そして最後にわが子が皆に見捨てられ、十字架に釘つけられた事と、思いがけない事の連続でした。その中に聖母の神への信仰と愛は花咲いていったのでした。「私は主のはした女です。お言葉のとおりになります様に。」といつもいつも祈っておられたからです。終わりに、小さいテレーズの言葉をもってくくります。「私はイエスの声を聞いた事はありませんが、いつも共にいらっしゃる事を感じます。かれは、いつも私を案内し、私のいうべき事を悟らせてくださいます。今まで分からなかった事を必要な時に発見します。それは必ずしも祈りの中というより、平凡な日常の仕事の中でです。」

全てがお恵みです。特に予想外の出来事。愛するチャンスを逃さない様に。

（パリ外国宣教会・門司港教会）

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川３丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木１－４－24
ＴＥＬ　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　ＴＥＬ　092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　ＴＥＬ　092－521－0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価　一部60円

召命をより真剣に考える

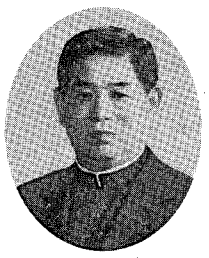
召命のためになすべきこと

（その2）

今回、教区報編集室では七月号の記事をもとに、福岡教区長、松永司教をはじめ、教区召命促進担当司祭山川神父、さらに、召命養成を担当している松井神父、杉原神父に寄稿をお願いした。

司祭を待つこころ

教区長　松永久次郎司教



神の民は『司祭的な民』と呼ばれます。キリストの唯一の司祭職に与って生き、かつ働く民だからです。

そこで神の民・キリスト者は、「人間の中から選ばれ……人々のために神に仕える職務」に任命された方、神と人との仲介者に立てられた大司祭キリストにおいて、神に相応しい礼拝を捧げ、神のお恵みをいただきます。そして、このキリストにおいて、父なる神の子であり、共に兄弟であることを認め合って、隣人愛を実践して生きるよう努めるのです。

ところで、キリストは、ご昇天の後、大司祭の務めを通常、キリストの教会において、司祭を通し、秘跡的しるしを通して遂行なさいます。この意味で、キリストの教会にとって、司祭の存在と秘跡の正しい執行が基本的な要素となります。

司祭は民の中から選ばれます。従って司祭的な民であることの中には、キリストの司祭を育てる責任が含まれています。ところで、最近、司祭の数の減少が心配されるようになりました。福岡の神の民はいま、この務めを忠実に果たしているのでしょうか。

司祭への召出しは神のお恵みです。わたしたちはこのお恵みを神に祈り求めねばなりません。神を動かす懇願を神に捧げねばなりません。司祭の召出しは本人の応答によって実ります。召された魂が神の呼びかけに応じなければなりません。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と寛大に申し上げるキリスト者が必要です。司祭はまた民の献げものです。キリスト者の家庭が、そして信者仲間が、司祭の召出しを理解し、協力して育て、支えていかねばなりません。司祭は神のお恵みと本人の応答、そしてキリスト者共同体の、いわば共同作品なのです。長い迫害の時代の間、日本のカトリック信者は司祭を待っていました。そして信仰を守り通したのです。司祭を待つこころ、これが本物の『カトリックのこころ』だと思います。

召命のために何ができるか

西新教会　山川辰幸神父

私は福岡教区の召命促進担当司祭に任命されていますが、召命のために何を、どうしたらよいのか暗中模索の状態です。でも今年七月一日付けの教区報に記載されていますように、召命の減少と司祭の老齢化は深刻な問題であり、私たちが一丸となって、真剣に取り組まなければならない重大事であります。そこで私は日頃考えていることを二、三申し述べて、皆様のご賛同を得たいと思います。

先ず第一に召命のために熱心に祈ってほしいと思います。既に沢山の小教区で毎日曜日実施していると聞き、大変嬉しく思います。けれども漠然と召命を祈るのではなく、具体的に「主よ、お望みならば、私の息子、娘を、私の甥、姪を、私の孫をお召しください」「神さま僕は神父様になりたいのです」とみんなが真剣に具体的な召命の祈りを唱えるならば、必ず収穫の主は私たちの願いをかなえてくださるでしょう。

第二に若いご夫婦やこれから結婚される方々にお願いします。自分のための子供だけではなく、まず神さまのための子供を産んでください。旧約時代から「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」（ルカ2・23）習慣でありました。現在福岡教区の司祭の中で、一人息子、長男司祭の方が過半数を占めていると思います。

第三に最も身近な召命促進の手段として、いまいる子供たちの信仰教育に徹してください。子供たちに神を愛し、熱心に祈ることを教えてください。多くの子供たちは、熱烈に祈る親の後ろ姿を見たことがありません。だから「サムエル、サムエル」と呼びかける神の声が聞こえず、「はい主よ、お話しください。あなたのしもべは聞いております」と、祈ることをしらないのです。それでも神は時々小さな胸に召命の種をまき、お父さん、お母さん、「僕は神父様になりたい、私はシスターになりたい」と漠然とした希望を打ち明けることがあるでしょう。そんな時に決して反対しないで、小さな召命の芽を育て、共に祈り、対話してほしいのです。

最後に聖ヨハネ・ボスコの言葉を紹介いたします。

「神が家庭に与える最高のプレゼントは、その家庭から司祭、修道者を召し出すことです。一人の若者が神の呼びかけに答えて親許を離れる時、イエズス自身が代りに、その家庭にお入りになるのです」と。皆さんこの言葉をどうぞ吟味して欲しいと思います。

浦和教区司教にペトロ岡田武夫神父を任命

一九九一年六月二十九日付で教皇ヨハネ・パウロII世から浦和教区の司教として、東京教区司祭であった岡田武夫神父が任命されました。日本のカトリック教会には十六教区があり、浦和教区は、埼玉・栃木・群馬・茨城の四県を含んでいます。岡田司教の浦和教区着任日は未定。

岡田武夫師の略歴

一九四一年十月二十四日千葉県市原市に生まれる。一九七三年十一月三日東京教区司祭として叙階。一九七五年九月ローマ・グレゴリアーナ大学へ留学、神学博士号取得。一九八六年日本カトリック宣教研究所所長となり現在に及ぶ。

今月のみことば

神の国は一粒のからし種のようなものである
（マルコ4・30）

島崎教会　W・カリー神父

時の話題

渡辺　孝之

六男六女の子供を育てあげるだけでも大変なのに、何と息子の一人は司祭に、娘六人はすべてシスターとして捧げ、聖職者にこそならなかった息子達も、福岡教区信徒会長をはじめ、小教区の信徒会長、宣教活動の指導者として現に活躍中という、まさに神の家族の中心的存在であった母親、マリア・高木愛子さんが去る七月八日天寿を全うされ、安らかに眠るがごとく急逝された。享年九十才。

脳溢血と狭心症で倒れる直前まで家族と明るく談笑し食事も美味しくとられていた。

カトリック島崎教会で松永司教をはじめ、多数の司祭団の共同司式で感動的な葬儀が行われたが、この中に四男高木善行神父（前サン・スルピス大神学院長）の悲しみに耐える姿もあった。マリア・高木愛子さんは、その名のとおり愛の実践に一生を過ごされた。

聖職家族の母親の死

愛子さんの大きな愛の遺徳を敬慕する人々は聖堂に溢れ、聖堂周辺も埋めつくした。

強く、そしてやさしかったこの母親は、子供達に「勉強しなさい」と言ったことが一度もないという。夫、慶一氏は十年前に帰天。「祈れ。働け」をモットーにした事業家で、篤信のキリスト者。夫婦は近くのフランシスコ修道院と親しく交わり、愛児園の孤児達をわが子同様に可愛がった。飢えた乏しい人がよく訪れたが、その度にお握りを作ってそっと持たした。ハンセン病患者を世話するシスター達の愛の姿や、それを物心両面から支援し続ける両親の生き方を、子供達は身近かに見て育った。夫と妻の中にはいつも神様があり、親と子の間にも、先ず神様がいた。

親子で毎朝夕ロザリオの祈り二本を繰ったという。十二人の子供達が両親をみる瞳の奥には、両親と共にいる神の姿が見えていたに違いない。

祈ること、愛すること、を身を以て示すほか、子供の教育には特に力をいれた。十二人共最高学府に学ばせ、娘は六人すべて聖心女子大卒。高木家も、マリア愛子さんの実家片岡家も数代遡れば浦上四番崩れで遠国に流され、拷問等の迫害に屈せず信仰を守り通した家系。高木仙右衛門は夫慶一の祖父である。

マリア愛子さんの孫に当る長男慶治氏の二人の娘さんもシスターに召し出された。司祭不在時代の到来が憂慮されている今、これほど聖職者を出した家庭の、愛の生き方から学ぶべきことは多い。

（熊本地区信徒会宣教部会長　手取教会）

召し出しについて

小神学校　松井忠之神父

現在、福岡小神学校には四名の神学生が在籍しています。この数は六十年の小神学校の歴史の中で最低の数でしょう。召し出しの減少の原因として世の中の豊かさ、司祭の高齢化で青少年と司祭との関わりが少なくなっていることなど、他いろいろな原因が考えられますが、神学校の存在を知らないと言うのも大きな原因のようです。現場にいる者として積極的に神学校をアピールする必要を感じています。

召命促進の方法として、霊的、物的援助も大切ですが、自分の子供を司祭に修道者にと言う気持ちでの子育ても大切です。型にはめて教育する

（二面につづく）

八月・九月号は合併号のため、**九月号**はお休みになります。よろしくお願い致します。

みちくさ

よく『豊かさ』ということばを見たり、聞いたりする。人間の豊かさへのあこがれには際限がない。心の豊かさ、生活の豊かさ、教養の豊かさ、知識の豊かさ、物の豊かさ、いろんな豊かさを貧しさの反動のように求めているのではないだろうか▼私たちはいろんなものに満たされたとき、幸せを感じる。この実体験は隠すことのできないものであるとは思うが、同時に満たされたときに、一つのむなしさ、空虚なるものを感じるようにも思える▼そこで、また求めはじめる。もっとたくさんのものに満たされるために歩みはじめる。確かに、神は人間に万物をお与えになった。でも、それは、私たち人間が万物に支配されるためではなくよく生かす意味で支配するためのような気がする。そのため、人間だけで求める豊かさにはむなしさが伴うのではないだろうか▼むなしさを伴わない豊かさがこの世にあるのだろうかと思う。そう思うとき、万物を与えられた神を忘れているのではないか、何が真の豊かさなのかと自問自答する。すべてを与えられた神を、すべてのものと同じ位置に並べて求める姿のさびしさを思う。神を求めること、神の愛に飢えることがあったらと思う▼信仰はこの神の愛に飢える心を教えるものではないかと思う。その神の愛に飢えてこそ、キリストが教えられた、いや身をもって生きられた愛を心から受け止め生きられるような気がする▼キリストの愛に生きることができて、はじめて、心の豊かさ、生活の豊かさなどいろんな私たちが求めてやまない豊かさは、真の豊かさに変えられていくような気がする▼でも、神の愛を求め、神中心に生きようとすると、自我が頭をもたげる。自分がない、自分がないと。そして、ふと思い出す。生涯わがままとの闘いだと▼いつも神のみ旨と愛に生きられたキリスト、このキリストにならい、真の豊かさに満たされたと思う。

↙（一面より）

というよりも神との関わりを大切にする祈り、ミサを家庭の中でも大切にする事、知恵と理性を養い、強い体と意志を持った子供を育てるために、子供の好奇心を大切にし、好き嫌いをさせず、我慢する事、しつけ、礼儀を大切にする幼児教育が必要です。

よきキリスト者を養成する事が召命促進につながると思います。そのためには大人がよきキリスト者になるよう祈り、学び、実行する生き方がとても重要になります。子供の養育の第一の責任者は両親です。夫婦で大切に育てた子供を神に捧げる時、アブラハムが息子イサクをいけにえとして捧げるように神に試された深い、大きな信仰を体験するでしょう。子供をキリスト者として養成するのは親の信仰養成にもなります。子供を司祭、修道者として捧げる事は大きな信仰の表明です。子供との関わりを大切にしながら、信仰を深めましょう。どうぞ召命のために日々お祈り下さい。また司祭になりたいとの希望を持つ子供が家庭に教会にいる時、まわりからの祈りと励ましをお願いいたします。

召命は皆で見つける宝物

聖パウロ会　杉原寛信神父

ある時期、修道会の小神学校を閉鎖しようという話が持ち上った。小神学生が少なく、入会希望者も皆無の状態のため、もう一度召命の土壌作りから始め、何年か後に再開しようとの考えだった。司祭・修道者を目指す子供が得られないことの苦しみと辛さであった。

各家庭に子供の数が減ってきたと言われ続けている。けれども子供たちはたくさんいる。しかし、召命に応えてくれる子供が少ない。

イエズス様は畑に隠された宝のたとえを話された。（マタイ13・44）。まだ見えなくとも必ず隠されている宝。神様はご自分の働き手として、ある人を選んでおられる。そのような人の中には、神様の隠された宝が必ずある。その宝を見つけなければならない。自分勝手な解釈かもしれないが、畑の宝を見つけた人は、自分一人ではなく、家族や親しい友人たちに手伝ってもらい、皆で畑を掘り起して宝を見つけたのではないだろうか。皆で一生懸命に汗を流して見つけた。皆に喜びがある。

今、召し出しに応える人が少ない。司祭だけが新しい召命を見つけるのではない。一人ならば難しい。信徒一人一人が、それぞれの家庭が、皆が協力して「この人の中に宝が隠されている」という神様の呼び声に、一生懸命汗を流して応えたいものだ。

なお今回、サン・スルピス大神学院は院長夏季研修のため寄稿を依頼できませんでしたのでご了承ください。

※連載で召命について考えていますが、信徒の立場で、ご意見などありましたら、編集室までお便りください。

教区報を通して、召命に関する意識高揚と神の民を愛し生きることへの問いかけができれば幸いと思っていますのでよろしくお願いします。

教会のために召し出しを願う祈り

神よ、わたしは、あなたの国の証し人となる人々が、数多く出るように祈ります。▲キリスト信者の心に聖霊の息吹きを注ぎ、あなたの招きの声を強く響かせ、召し出しに答える清らかな愛を燃え立たせてください。さまざまな立場で、自分の召し出しを考えている人々が、あなたの呼びかけにすすんで答えることができるようにしてください。教会の母マリアよ、わたしたちの願いを聞き入れ、あなたの子イエズスに取り次いでください。

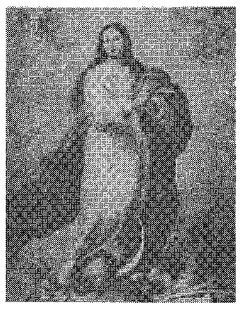
または、

いつくしみ深い父よ、▲あなたの民を顧み、イエズス・キリストのために生涯をささげる司祭、修道者の召命をお与えください。聖霊の恵みと力に支えられて、多くの青年があなたの招きに答え、あなたの愛に強められて、兄弟に奉仕する心が与えられますように。主キリストによって。アーメン。

（カルメル会　祈りの友より）

八月十五日と言えば、私たちがどんなことに思いをはせるのか、少し考えてみたい。

聖母の被昇天



カトリック信者として思い出すのは、まず、聖母の被昇天ではないだろうか。長崎では、ふくれまんじゅうのお祝いとして信者家族の中で、教会の中で、貧しさのうちにも盛大に祝われていたと聞く。

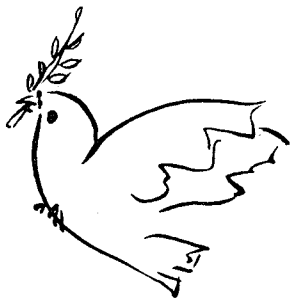
聖母月、ロザリオの月と聖母に対する信心を大切にする中にあって、聖母の被昇天について「五世紀のエルサレムで八月十五日に祝われていた神の母マリアの記念は、六世紀には、マリアの死去の日として東方教会で祝われるようになった。七世紀半ばには西方教会にも受け継がれ、マリアの被昇天の名で知られるようになったのは、八世紀になってからである。一九五〇年にピオ十二世教皇は、マリアが霊肉ともに天に上げられたことを教義として宣言した。教会は、キリストと最も深く結ばれていたマリアが、真っ先にキリストの復活と栄光にあずかっていることを祝っている。」（毎日のミサより）と教えている。

教会憲章は、「原罪のいかなる汚れにも染まずに守られていた汚れない処女は、地上生活の道程を終えて、肉身と霊魂ともども天の栄光に引き上げられ、そして主から、すべてのものの女王として高められた」（五九番）また「イエスの母は、天上において肉身と霊魂ともども、すでに栄光を受けている者として、来世において完成されるべき教会の像であり、始まりであるように、地上においては、主の日が来るまで（2ペトロ3・10参照）、旅する神の民にとって確実な希望と慰めのしるしとして輝いている」（六八番）と教えている。

八月を迎えた私たちが、聖母マリアに対する正しい崇敬とともに、聖母マリアとともに復活と栄光にあずかるために、復活への信仰を新たにしていきたいものである。聖母マリアを通してイエスの復活の恵みに至るために！

平和の願い

さらに八月十五日は終戦記念日でもある。教会は八月六日から十五日までを毎年平和旬間と定め、平和の尊さを新たにするようにすすめます。今年で、平和旬間が定められて十年目を迎えますが、今年初めの湾岸戦争をふり返えるとき、戦争のもたらす悲劇をいろんな点から教えられたような気がします。平和に慣れることなく、平和であるために日々の積重ねの大切さをも忘れることなく、平和のために祈り、平和であるために努力することを足元から大切にできたらと思う。家庭における家族の団らんからはじめて、地域社会における人々との交わり、さらに日本、隣国、全世界へと広がりゆく平和を願いたい。各地で平和祈願ミサがささげられているが、終戦記念日だけでなく、私たち全人類が、神の民、神の家族として平和に暮すことを大切にしたい。そして、教会は現代世界憲章七八番の中で、「平和は単なる戦争の不在でもなければ、敵対する力の均衡を保持することだけでもなく、独裁的な支配から生ずるものでもない。平和を正義のわざと定義することは正しい。平和とは、人間社会の創立者である神によって、社会の中に刻みこまれ、常により完全な正義を求めて人間が実現しなければならない秩序の実りである……他人と他国民およびかれらの品位とを尊重する確固たる意志、また兄弟愛の努力と実践は、平和の建設のために絶対必要である。こうして、平和は愛の実りでもある。愛は正義がもたらすものを越える。……隣人に対する愛から生まれる地上の平和は、父なる神から来るキリストの平和の映像であり結果である」と教えている。



（平和のシンボル）

八月十五日

お盆を迎えて

毎年、夏は帰省の人々で交通機関は混雑する。私たちにとって夏季休暇に実家へ里帰りするという心は、なんの抵抗もなく考えられる。この故郷への思いは、この世に生きるものだけでなく、先立った人々にも思いをはせる。教会の中でも、この日本人の心情は大切にされるようになった。

教会は「聖徒の交わり」という信仰宣言をもとに、祖先に対する崇敬を、また、神の十戒の第四戒「父母を敬え」の掟を通して、親に対する尊敬だけでなく、祖父母ならびに、すべての祖先に対する義務も含むものと考え、祖先に対する崇敬が、神のみ旨にかなうものと考えられるようになって久しい。私たちが、この心をいつも新たにして、お盆を迎えたい。生活習慣として流されることなく、聖母マリアをはじめ諸聖人を崇敬し保護とその取り次ぎを願うように、教会において列聖されてはいないにしても、祖先のうちで天国に入った人々も崇敬し、保護と取り次ぎを願うこと。また、全カトリック教会では「死者の日」は十一月二日ですが、日本の習慣に従って、お盆の八月十三日から十六日の間に死者のために祈り、死者のためにミサを捧げること。八月十五日に聖母の被昇天を祝うとともに他の人々の帰天を記念することなど心から大切にしたいものです。

（詳しくはカトリックの祖先崇敬という本を参照ください）

教区内でも、八月十五日は各地の納骨堂で死者のための追悼ミサが捧げられる。私たちが祖先への崇敬の念をもって祈りましょう。

教区の主な地区では

福岡地区納骨堂　午後二時
北九州納骨堂　午前十一時
佐賀教会墓地　午後六時
熊本地区納骨堂のみ八月十三日午後六時、追悼ミサがささげられる。

（フェニックス　復活のシンボル）

［カトリックの用語では「崇拝」は唯一の神に対する尊敬を表わすために用います。したがって、誤解をさけるために、神以外に対する敬意は「崇敬」という語を用います。］

八月十五日は、私たち日本人にとっていろんなことが思い出されるとき、心豊かに神の恵みを願い、夏のひとときを過したい。

※自由席の欄は、今月号は投稿がありませんでしたので、お休みさせていただきます。

祈りの日へどうぞ！

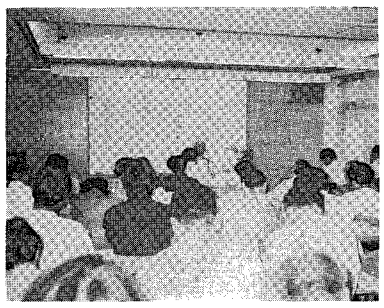
日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分
内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。
※簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区信徒協 研修会



第三回目を迎えた夏季福音宣教研修会（主催・福岡地区信徒使徒職協議会）は七月二十日・二十一日の両日、福岡黙想の家（宗像市）に15教会65名が参加して開催された。

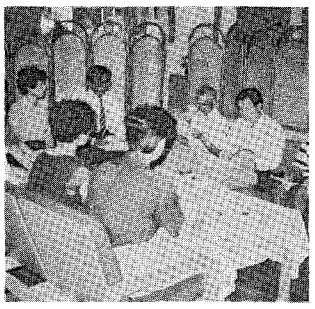
今回は一九九三年秋、長崎で開かれる第二回福音宣教推進全国会議（ナイスII）へ向けての取り組みの一環としてこれを位置づけ、テーマを「開かれた家庭……愛と慈しみの育まれるところ」とし、講師にナイスII担当司教の濱尾文郎司教（横浜教区長）が招かれた。

司教はまず、ナイスIIのテーマ「家庭」が選ばれた経過を説明した後、家庭の問題は最初から「あるべき姿」を軸にするのではなく、逆に今、現実に日本の社会でそれぞれが生きて感じている喜びや痛みを聴き合い、吸い上げていくことから取り組もうと促した。

参加者は講話と分かち合いを通して、信徒の信仰生活が仕事、勉強、家事、育児の中で、また特に子供、老齢者、障害を持った人、滞日外国人など、弱い立場に置かれている人との関わりの中で実践され、育てられていくことで気づき、企業の倫理、強者・持てる者の倫理が優先するこの豊かな社会の中で福音を生きて行くことの困難にもあらためて気づかされた。

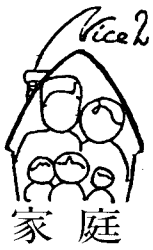
「身近かであるだけに、話し合いにくい『家庭』について新しい視点を示され、多少なりとも本音で語り合えたことは有意義であった」（参加者の声）

福岡地区教会学校 リーダー会に参加して



七月十五日、カテドラルセンターで福岡地区教会学校リーダー会が開催されました。今回は、松永司教様をお迎えして、「子供の信仰教育とは？」というお話を伺いました。司教様は、信徒の「司祭職・預言職・王職」について話されました。司祭職については、マタイ6・1～18の施し、祈り、断食が宗教者の務めである。預言職については、本当（真理）を伝え教える時には、愛も伝えるように。王職については、神の国が、私達の中で造られるように。そして最後に、教育の仕事の中で、神様は味方であること。信仰を伝えることが大事であって、公教要理を教えるだけでは不足であることなどを話されました。時には、力強く手を握られ、又、ユーモアたっぷりに私達を笑わせて下さり、私達は反省させられたり、勇気づけられたりしました。午後からは、松井神父様の司会で、各教会スタッフの自己紹介と教会学校の様子、問題点、悩みなどが発表されました。（福岡地区のほとんどの教会から四十名のスタッフが参加しました）今回でこの集まりは三回目ですが、一回から参加されている方々はなつかしそうに、又、スタッフの交代などで初めて参加された方々はどこの教会学校も同じような問題をかかえているような気がして、安心されたのではないでしょうか。この会が開催されて一年経ちましたが、各教会学校で、随所にそのアイディアや資料は生かされているようでした。最後に、山元神父様が、子供の行儀が悪いというのは、その子供のサインであるといわれ、これからも子供達と関わっていく上で大きな力となりました。次回は十月頃の予定です。

（笹丘教会　小川みちる）



家庭

第2回 全国会議に向けて

お父さん お母さん 愛を下さい！

子供達の心が幸せでない為に発せられる種々の問題行動を見たり聞いたりしている中で、最近特に増え続け社会問題にもされている〝中高生（十代）の妊娠〟の現実は、余りにひどく解決策も手さぐりの状態です。しかし、この性的な問題行動も根源は同じだろうと思うのです。甲府少年鑑別所長、松本良枝さんは「性の問題行動を起す子供達には、孤独感、愛情欲求不満、寂しさが見られる」と書いておられます。中高生になって急にこの様な思いに襲われたとは考えられません。この子供達がずっとずっと小さかった時、幼児の時、赤ちゃんだったかもしれない、お母さんのお腹の中に居た時かもしれない時期に、愛を余り感じていなかったとしたら大変なことです。小さければ小さい程両親、特にお母さんの愛に敏感です。子供は親に愛されていると確信している時、心は安定して幸せです。

娘が小2だったある日、学校から帰って来てゴロンと寝ころんで本を読み始めました。暫くして「おうちっていいね。のんびりできるもの」と言いました。その時私はとても安心した気持になったことを思い出します。小さな命は夫婦の愛により受け継がれ、育てられなければならないものです。

教会は結婚するカップルに、クリスチャンであろうがなかろうが、NFP（自然な家族計画）として排卵法（ビリングス・メソッド）を勧めています。私達夫婦はずっとこれを取り入れてきました。夫はクリスチャンではありませんが、私の信仰と共にこの方法を尊重し協力してくれました。排卵法は何故か夫婦関係を安定させてくれます。心身共に一致したいと思う夫婦の基本的な思いが満たされ、お互いを大切に思い、尊重し合うことが増し加わって本物の夫婦愛に変えられていき、それが子供や家族に影響しない筈はありません。夫婦愛は子供達にとって、どれ程大切かを痛感させられます。そしてこの様に計らって下さった神様に感謝致しております。

（教区家庭委員会委員　太田寛子）

典礼＝聖歌と祈りの集い

日　時　9月8日(日) 14:00～18:00
場　所　福岡黙想の家(宗像市)
お　話　鈴木　忠一師
指　導　深堀　純氏
参加費　1,000円
問い合わせ先　黙想の家
(☎0940－32－3222)

第一回 福岡ブロック青年大会

日　時：1991年9月14(土)～16日(月)
(14日18:00受付開始)
テーマ：『出会いからコミュニケーション』
場　所：聖パウロ小神学校
講　師：原田豊己神父(広島教区司祭)
参加費：¥5,000(2泊3日)
申し込み締め切り：8月末日
問い合わせ先：〒810 福岡市中央区大名2-7-7
☎092-741-3687 大水幸一神父

《信仰教育委員会・聖書委員会からのお知らせ》

今秋、下記の要綱で「聖書講座」を企画しています。サフライ教授（イスラエル・ヘブライ大学）の講演も含まれています〔英語の通訳付き〕。
聖書の知識と信仰を深めるため、ぜひご参加ください。

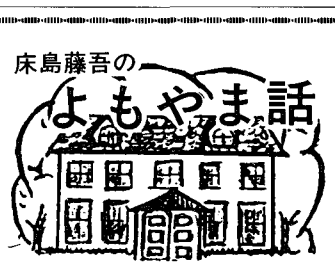
〈聖書講座〉

第1回	9／27(金)	第6回	10／25(金)
第2回	10／4(金)	第7回	11／1(金)
第3回	10／12(土)	第8回	11／8(金)
第4回	10／13(日)	第9回	11／15(金)
第5回	10／18(金)	第10回	11／22(金)

時間：金曜日　18:00～20:00　参加費：各回700円
第3回　14:00～18:00　参加費：1,000円
第4回　13:00～17:00　参加費：1,000円
場所：カテドラルセンター（大名町）
＊講師・テーマ等、詳しくは8月中旬にポスターを各教会に掲示いたします。申込みは当日受付にて。
問い合わせ先：司教館事務所（Fr.山元）
〔☎092－522－5139〕

※自由席の欄の投稿、及び、三面の各地区の行事などの記事がありましたら、記事、写真など、〒八一〇　福岡市中央区浄水通39　司教館内　教区報編集室あてお送りください。本来、取材に伺うのが当然だと思いますが、人手不足のため、なにとぞ、よろしくお願い致します。

床島藤吾の よもやま話

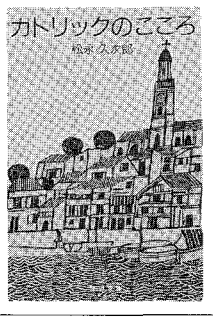


隠れた生活―奉仕ひとすじ

創立五十周年を迎えた神学校援助姉妹会。創立当初、井手ミネヨ、平田タキオ、稲村スナ、平田コメの諸姉が会員として神学生養成事業の側面より援助をされた。同時に、司教館の司教、司祭、私たちヨゼフ会会員のためにも食事をはじめお世話をいただいた。時世がら社会全体が戦下の中、貧しいとは言え、修道会として何の資金もなく、身一つで、神学校援助、ならびに司教館への隠れた奉仕を思い出します。物のなかった時代、自ら畑を耕し、食事の準備をしていただきました。その姿は、戦中、戦後の貧しかった時代だけでなく、周りの土地が畑として生かすことができる間続けられた。司教館の世話が師イエズス会に交代する昭和四十五年までは、ヨゼフ会会員はぜいたくな食事ではありませんでしたが、材料をよく生かしておいしい食事を、また、神学生より色添えした食事を、毎食いただきに行くのが楽しみでした。こうして、神学生養成のためだけでなく、司教館のためにも、この五十年間、自らの使命を自覚し、奉仕ひとすじに歩まれた姉妹会への感謝を小神学校出身の神父様方がなされたことを聞き、自分のことのように喜びを感じ、これからも、姉妹会としての使命を全うされますようにお祈りしております。

BOOK 読みま専科

★カトリックのこころ　松永　久次郎著



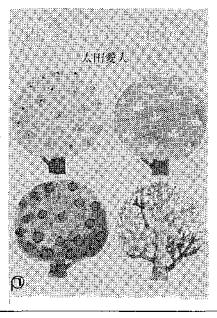
福岡教区長松永久次郎司教の講演集

数年にわたる長崎地区でのいくつかの講演がまとめられ、長崎の信徒発見以来の伝統的キリスト教信仰を現代の私たちが、信仰の遺産としていただいた者として生きるために、今の日本の教会の動きとともに、ユーモアたっぷりに書かれています。

現代社会の中にあってカトリック信仰に生きることが問いかけられています。

聖母文庫　六〇〇円

★四季のおくりもの　太田　愛人著



四季の変化に富む豊かな自然から、人は生きる喜びと確かさを与えられてきました。

経済発展優先で自然破壊が進む今、農薬使用や人工的栽培の不自然な食物があふれ、それを食べる人間もまた不自然になり、人間の価値観も変化しています。

この辺でもう一度、人間と自然とのつきあい方を考えなおし見つめなおすよう、本書は自然を友とし、自らの作物を育てる生活の場から〝自然との共存〟を提唱しています。

女子パウロ会　五二〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 理 大 石 影 御 他 の そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

八・九月の行事

※ゴチックは司教日程

八月

3日　ナイスII準備委員会
15日　教区墓地ミサ
26～28日　第17回幼児教育連盟教職員研修大会

九月

3日　司祭評議会
9日　長崎管区司祭会議準備会
12日　今村聖母園25周年祝典
15日　鳥栖教会堅信会
15日　ナイスについて考える会
27日　聖書講座―第一回

福岡黙想の家

八月

5～13日　幼きイエズス会黙想会
14～15日　中部教会黙想会
15～18日　カトリック医師会
18～24日　サレジオ会黙想会
24～26日　カノッサ会黙想会
25～26日　ルーテル教会研修
27～28日　泰星学園研修
28～31日　日本カトリック学校連盟研修会

九月

1～6日　オブレート会黙想
5日　小倉教会教師会
8日　典礼聖歌研究会
9～10日　日本キリスト教団北九州市教師会
14～15日　C・P黙想会
15～16日　聖母カテキスタ会黙想会
20～21日　雙葉小学校錬成会
21～23日　M・E
24日～10月3日　C・P黙想会

参加者募集

マリッジ・エンカウンター（夫婦のための集い）

日時　9月21日(土)から23日(月)まで

場所　黙想の家（宗像）

条件　ご夫婦での参加が必要です。
司祭・修道者のご参加も歓迎です。

申し込み・詳細は、鈴木忠一神父（黙想の家）まで
☎〇九四〇―三二―二二二二

一九九一年度 第三回 結婚準備セミナー

福岡会場
9月5日(木)
7日(土)
12日(木)
14日(土)
19日(木)
21日(土)
26日(木)
28日(土)

熊本会場
9月2日(月)
4日(水)
8日(日)
9日(月)
11日(水)
16日(月)
18日(水)
22日(日)

問い合わせ
ファミリーセンター
ライル神父まで
☎〇九二―五四一―六二〇七

神学校基金へのご寄附

◎八代教会　江口勢子様と匿名で金一封いただきました。心よりお礼い申し上げます。
福岡小神学校松井忠之神父

八月命日の司祭

*ジョン・オーサリバン師（聖コロンバン会）一九八三年八月十二日元熊本地区長
*パチフィコ・マルケシーニ師（フランシスコ修道会）一九八〇年八月八日元待労病院付
*ミカエル木村義巳師（マリンガ教区）一九六七年八月十四日元馬渡島教会主任
*エミール・ベノア師（パリ外国宣教会）一九六二年八月六日元門司港教会主任
*アルベルト・ブルトン司教（パリ外国宣教会）一九五四年八月十二日第二代教区長

九月命日の司祭

*ビオ・オジョニ師（ミラノ外国宣教会）一九八二年九月十七日ロザリオの園付
*ユスチン・ヴィオン師（パリ外国宣教会）一九六九年九月二十九日司教館
*アナトール・ヒューゼ師（パリ外国宣教会）一九四四年九月十五日司教館
*ピエール・コトレル師（パリ外国宣教会）一九二八年九月三日熊本地区で宣教

編集室から

▼暑中御見舞い申し上げます。やっと梅雨明けしたと思ったら、猛暑の今日このごろ、暑いですねのあいさつのうちに遅れながらの発行お詫び致します。
▼皆様からの善意の投稿をお待ちしていますが、日本人特有の奥ゆかしさからか、遠慮がちなのでしょうか？
▼よりよい教区報のため、よろしくご協力ください。
▼この夏、事故、病気などなく、子供たちが、そしてご家族の方々が元気で過されますようにお祈り申し上げます。

おのときのことのは

森山 敬三

おうい雲よ
ゆうゆうと
馬鹿にのんきそうぢやないか
どこまでゆくんだ
ずっと磐城平の方までゆくんか

山村 暮鳥

『雲』に所収。この詩の前に、雲と題して、丘の上で　としよりと　こどもと　うっとりと雲をながめている　があり、この詩の題は「おなじく」となっている。貧しい家庭に生れ、大正十三年四十一歳で亡くなるまで、彼の生涯は苦悩の連続であった。ほんのつかのまでも、この詩のような瞬間があったかと思うと、ホッとする。聖公会の牧師であったころの彼は、朔太郎・犀星とともに人魚詩社を設立し、その社から『聖三稜玻璃』を出版し、朔太郎をして、日本における未来派の嚆矢と言わしめた。亡くなる年、彼が詩僧と呼んでいた著書『聖フランシス伝』が出版された。

物忘れ

徳山 登

「近ごろ物忘れが激しくなりました。たとえば料理のとき、塩で味をつけるのを忘れたり、あるいは、すでに、味つけがすんだのに、それを忘れて、又、塩をいれることがあります。」というような苦情を耳にすることがよくあります。

たしかに年を取るにつけて、物忘れがだんだん問題になります。たとえば、約束を忘れたために、人に迷惑を掛けたりすることがあります。《悲しい現実だ。憂鬱になる！》

ところが、そういった寂しい現実にはたいへん意義のある面もあります。よく考えてみますと、忘れるように努めなければならないものが沢山あります。たとえば、人から、誤解されたり、傷つけられたり、侮辱されたりしたことを難しいでしょうが忘れるようにしたいものです。

実際、私たちみんな、いろいろな形で人を傷つけたことがあるでしょうし、人から受けた迷惑をいつまでも思いめぐらすことは何の益もありません。

父なる神の寛大さを思い出しましょう。《天の父は、悪人の上にも善人の上にも太陽を上らせ、また、正しい者の上にも正しくない者の上にも雨を降らせてくださるのです。》（マタイ5・45）私たち、お優しい神の子どもとして、どうにか、苦しめられたことを忘れる恵みを与えられるに違いありません。

このように忘れてよい、忘れたほうがよいものもあれば、絶対に忘れてはならない最も大事な存在があります。それは神様の存在です。神様は次のように嘆いていらっしゃいます。《お前は私を心に留めず、心にかけることもしなかった。》（イザヤ57・11）《私の民は私を忘れ、むなしいものに香を焚いた。》（エレミヤ18・15）

私たち人間が神様を忘れても神様が私たちを忘れることはありません。《神の前では、一羽のすずめさえも忘れられていない。そればかりか、あなた方の髪の毛も皆数えられている。恐れてはならない。あなた方は多くのすずめよりももっと値打ちがある。》（ルカ12・6）

又イエスがこの世にお見えになる前から、神様はご自分の心を次のように表しておられます。《女が自分の乳のみ子を忘れることがあろうか。たとえ、女達が忘れようとも、私があなた方を忘れることは決してない。》（イザヤ49・15）

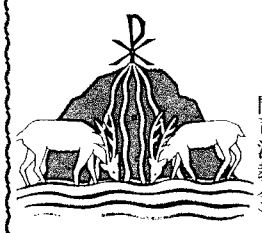
私たちが神様から、ひとときも忘れられないという事実のほかに、今一つ忘れていけないことがあります。それは自分の人間としての弱さのことです。何回決心しても、実行できないことがあります。又、心弱く誘惑に負けることもあります。

ちいさいテレーズはご自分の経験から、次のように話してくださいます。「私は神様を愛しているので、どんなことでも受け入れます。私の頭に浮かぶむちゃな考えまで……」また、「私は自分の弱さに負けても悲しみません。つまらないことに、心を捕われることがあります。そのとき反省して、ぜんぜん進歩していないなあと思いますが、静かな心で、少しも悲しまずにそれを認めます。常に変わらない自分の弱さ、小ささを感じて感謝します。私が完全でないことが本当にうれしいのです。神様のあわれみがいつも私に必要だから」

物忘れが心配の方は、テレーズを手本にするならば、きっと安心されるでしょう。そして、終わりに聖パウロのはげましの言葉で終わりましょう。

《私は後ろのことを忘れて前のことに全身をかたむけ、神がキリスト・イエスによって、与えてくださる賞を得ようとしているのです。》（フィリピ3・13）

（パリ外国宣教会司祭門司港教会）



マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱ メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　藤倉良夫

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL 092－521－0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀　勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

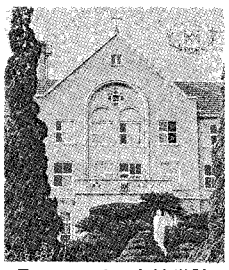
召命をより真剣に考える（その3）

召命への道

六月号から三回にわたって〝召命をより真剣に考える〟をテーマに連載を計画し、今回で終わりになるが、福岡教区に設立されている司祭養成の場としての神学校を紹介して、終わりたい。

司祭になりたいと志す青少年を迎え、具体的に司祭職への道を準備するのが神学校である。ところで教区内には、聖・スルピス大神学院、福岡小神学校、聖パウロ小神学校の三つが養成機関として設置されている。ここに神学校を案内し、召命への道がいつも開かれていることを新たにしたい。

司祭召命と大神学校


聖・スルピス大神学院

第二ヴァチカン公会議は、「大神学校は司祭養成のために必要である」（司祭の養成四番）と言明しています。つまり、司祭になる準備は大神学校でしなければならない、ということです。それで、司祭志願者は、大神学校で、宣教者・大司祭・牧者であられるキリストの代理者として生涯神と人々に奉仕することができるために、まず祈り特にミサ聖祭を通してキリストと交わり、共同生活を通して心身を鍛え、人格を磨き、キリストの愛を深め、さらに人文学や哲学、そして聖書や神学を学びながら、一定の歳月（福岡大神学院では八年）を過ごすわけです。日本には、大神学校は、現在東京と福岡にあります。福岡の大神学校は、原則として九州と沖縄の教区のために司祭養成がなされる場です。

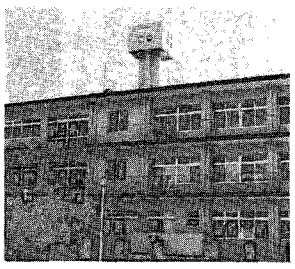
大神学校に入るためには、ここ九州では普通、小神学校（中学・高校）で準備します。しかし、小神学校を経ないで、直接大神学校に入ることもできます。その際、主任司祭の推薦と当該司教の認可を得る必要があります。それは、大神学校に入る前に一定の資格と条件を満たしている必要があるからです。その資格とは㈠カトリック男子（成人の入信の場合は、入信後三年以上経過していること）であること。㈡高等学校以上の学歴を持っていることです。また条件は、主に次の四つです。㈠ただ神への奉仕と人々の救いに献身することだけを目的として、司祭になりたいという真正な意向を持つこと。㈡強い信仰を持つだけではなく、将来司祭の役務を果たすために必要な知的能力を与えられていること。㈢心身の健康に恵まれていること。㈣司教の協力者として、愛と従順のうちにキリストの教会に奉仕するという意向を持つこと。などがあげられます。

「生涯神と人々のために生きたい」という志を持っている青年男子が、一人でも多く大神学校の門をくぐり、巣立って行くことを祈り、期待しています。とりあえず、十一月四日の「召命の集い」においでください。

最後、この場を借りて、祈りや金銭や物資をもって司祭養成に協力してくださっている多くの方々に篤く御礼申し上げます。今後もなお一層の御支援をお願い申し上げます。

詳しくは左記へ
810福岡市城南区松山一-一-一
福岡聖スルピス大神学院
（〇九二-八七一-四九四二）
院長　高見　三明

福岡小神学校



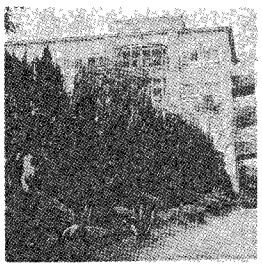
福岡小神学校は教区司祭を目指す中学生・高校生を預かり共同生活を通して、共に祈り、共に学びながら、明日の司祭を目指す少年を養成する機関です。

入学を希望される方は、先ず所属する小教区の主任司祭に相談し、推薦を受けなければならない。

当小神学校では中学校は福岡市立平尾中学校に通学する。高校は公立高校を受験する。希望者は私立高校も受験できる。

詳しくは左記へ
810福岡市中央区浄水通三八
福岡小神学校
（〇九二-五三一-六八一一）
校長　松井　忠之

聖パウロ小神学校



聖パウロ小神学校は、聖パウロ修道会の司祭・修道士になることを希望する子供達を養成する機関です。入会条件は原則として、小学六年生の男子で、受洗後、少なくとも満一年を経過した者。心身とも健全で将来、会の使徒職遂行のために努力、向上を目指し、生活に適応できる者。などとなっています。

福岡の聖パウロ小神学校は中学生志願者の養成を行なっています。

詳しくは左記へ
810福岡市中央区小笹　四-十一-十一
聖パウロ小神学校
（〇九二-五三一-〇九二四）
院長　杉原　寛信

今月のみことば
神はすべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます
（1テモテ2・4）
司教館　牧山重光神父

時の話題

鈴木　明郎

ある小さないのちの誕生

十七歳の少女が三か月になる女の赤ん坊と一緒に手取教会の近くで生活しています。彼女の母親はフィリピン女性で、日本人男性と結婚したものの四年前に離婚しました。彼女は実の母親を嫌い、両親の離婚後は再婚した父親と暮らし、中学卒業後は大阪で働いていました。二年前、彼女は転がり込むようにしてこの嫌いな実母の所にやって来たのです。精神的にも肉体的にも病んでいる印象を受けました。私達大人の言う事は全く受け入れません。それでも何かと働きながら定時制の高校に入る事になりました。そして、彼女の現実の有り様とはかなり離れていますが、将来の夢を語る様にもなり、微かな希望を抱きました。しかし、昨年の秋、最も恐れていた事が起こりました。彼女の妊娠です。家庭も崩壊している状況の中で、どのような道が残されているのか困ってしまいました。ある人は、中絶させた方がよいと言い、ある人は、いや生ませるべきだと言います。彼女の心も揺れ動きました。私達は、生まれてくる子供の将来に不安を抱きながらも、生んで欲しいとの祈りを込めて彼女の決断を待ちました。五か月目に入ってようやく彼女の気持ちが決まり生む事になりました。そして女の子が生まれました。日々可愛い赤ん坊に育っています。しかし、今だにこの子の行く末は定まっていません。少女であるこの未熟な母親には、その意志があっても子供を育てる事は難しいと思われます。母親本人の責任もさる事ながら、三代にわたる不幸な運命の糸になりました。そして女の子を感じさせられてこの子の将来に心の痛む思いです。あどけないいのちがここにあります。もしかしたら、この世に無かったかも知れないこのいのち。それだけになおさらいとおしく思えるいのち。しかし、この子の将来に責任を持てるのだろうか。この世に生を受ける事は誰によって計画されたのだろう。子供には生まれる権利のようなものがあったのだろうか。生むとか生まないとか、果たして私達に決められる事だったのだろうか。当然のごとく自然な事として考えていたいのちの誕生が、こんなにも様々な意味を持った大変な出来事である事を改めて知らされた思いです。

（手取教会）

召命への導きについて

（一信徒の立場から）

召命への導きに就ては二つの考え方があると思う。

一、現状に立脚した活動

信徒の家庭に於て、教育の場に於て車の両輪の様に召命への導き、祈りが如何に大切であるかは既に聖職者の方々に依て述べられている。そもそも召命への道の糸を辿って行くと、殆んど信徒の家庭と言うことになると思う。然し今日の様に急速に子供の数が減って来れば、誰しも神の子であることを意識しながらも、我が子を進んで棒げることに抵抗を感じるのは人間本来の弱さであろう。そこで視点を変えて、広く一般の子供達に目を向けることが出来ないものであろうか。然しそのためには先ず小教区の意識改革に就て取り上げなければならない。開かれた教会と言うことは既に提唱されているが、現状は未だ閉鎖的だと感じている人は少なくない。

勿論新しい訪門者に対して、温かく受け入れる即応態勢の出来ているところもある。しかし召命への道を切り開く抜本的対策のために、ウオーカーソンの様な催しや、特に一般の人々に開放された集い、或は奉仕活動を通して緩やかに召命への道の心を伝達する様な工夫が必要だと思う。この出会いの場にカトリック幼稚園は少からざる役割を果たすのではないだろうか。

二、マクロ的活動

ここで述べるマクロ的活動と言うのは、取りも直さず人種を越えた考え方を指すのであるが、召命に対してはこれが例外であると言う理由は見当らない様に思う。英国の例の如く、人口減少を食い止めるため外国人を含めた人口増加の長期的対策が検討されていると言う事実がある。日本の場合ではアジアの中の日本としてマクロ的に促えられないかと言うことである。この激動期に召命の対象が、猶日本人だけに向けられていることはどんなものであろうか。寧ろ柵を取り払うことこそ、主の御手が神秘的な御摂理の中で、広く子供達、若者達を導いて下さるのではなかろうか。

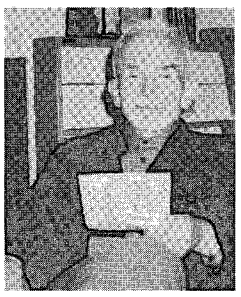
みちくさ

不順な天候で終わった夏、でも夏休みの間、楽しい一家団らんのひととき、また、ともに学んだ平和・研修などのひととき、心静かに先祖に思いを寄せたひとときを過ごされたことと思う▼教区にとっては、この夏、二人の司祭の死という出来事があった。二人の司祭の死に直面して体験したことは、正義でも、平和でもない。司祭としての生涯を通しての愛を、通夜、葬儀に際して感じ取れたことだ。人間の歩みの中には、いろんな弱さ、欠点も数えきれないほどある。しかし、死という終点で見えてくるものに（人生の清算のとき）何が思い出されるかと思うとき、形容詞がどんなに少なくても愛ということばをいただけたらと思う▼マルコ・ボヌカズ神父様のとき「七十一年という司祭生活を日本（特に教区）のために棒げてくださった」。ステファノ川口康頼神父様のとき、「ほんによか人やった」ということばを聞いたとき、そこには、正義とか平和ではなく、愛を感じる▼ところで、ある司祭と周期説について云々しているうちに、三年周期が三位一体の神に事を発して出てきた。人の教育は三の倍数。人の生き方は、正義と平和と愛。人の神に対する徳は、信仰、希望、愛。そして思うに究極には愛ということばで終わる▼愛ということばはいかなるものか不思議でしかたがない。そのことばのもつダイナミックさ、豊かさを感じる▼これから過ごしやすい豊かな季節を迎える。自然の美しさ、実り、人間の心身の充実。しかし、その期間は一年の中でもわずかである。すぐに冬のおとずれを感じる。このすばらしい季節を大切に過ごしたいと思う▼そして、教会学校で、子供とともに祈る中で歌う典礼聖歌が口の中にほとばしる。「神さまの愛は染みとおる／わたしたちの心に／日の光のように」とか「わたしたちは魚のよう／神さまの愛の中で泳ぐ」▼愛に心が向けられた季節に。

司祭のあしあと

二人の司祭の死

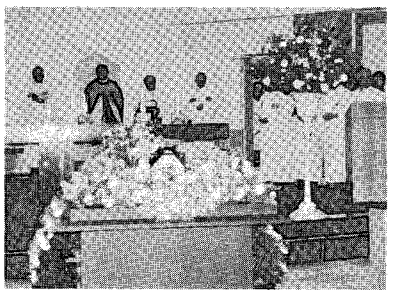
マルコ・ボヌカズ師八月四日帰天



昨年十一月から入院生活を余儀無くされたマルコ・ボヌカズ神父が、八月四日(日)、午後六時二十八分に、新田原聖母病院にて、循環不全のため帰天した。九十八歳。

八月五日(月)、午後七時から大名町カテドラル・センター一階講堂にて、松永久次郎司教司式のもと、島本要長崎大司教の列席のうち通夜が行われた。翌六日(火)午後一時より同カテドラル大聖堂にて松永久次郎司教司式のもと深堀敏高松司教も列席し、しめやかに葬儀ミサ・告別式が行われた。

同神父は司祭叙階後、日本に来日して祖国に帰ることなく、七十一年間の司祭生活を日本の教会のために捧げた。ふり返ると、その来日は福岡教区創立以前のことであり、神学校の講師をはじめ、黒島、人吉、手取、八代、飯塚、新田原、田川教会などで司牧・宣教の任にあたり、七十二歳で引退後は、八王寺地区本部にて過ごし、一九八八年には〝人間は何のために生きるのか〟の著書を著した。同神父の永年の働きに心から感謝をささげたい。

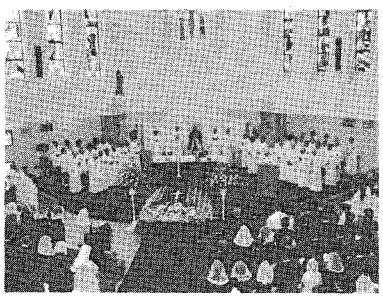


川口康頼師八月十九日帰天

予てより長崎にて病気療養中であったステファノ川口康頼神父が、八月十九日(月)午後七時十七分、長崎聖フランシスコ病院にて、大腸癌のため帰天した。六十六歳。

八月二十日(火)、午後七時より大名町カテドラル・センター一階講堂にて、松永久次郎司教司式のもと、三十名の司祭、約二百八十名の信徒が参列し、通夜が行われた。翌二十一日(水)、午後一時より同カテドラル大聖堂にて、松永司教司式、六十名の司祭の共同司式、そして約六百名の信徒の参列のもと、葬儀ミサ並びに告別式が執り行われた。

同神父は叙階して三十六年の司祭生活の間、献身的に福岡教区のために働かれた。西新、呼子、老司での司牧活動、そして十六年の長きにわたり、小神学校で司祭育成など、教区で果した役割は大であった。



主よ永遠の安息を故川口神父に与え、不滅の光で照らし給え。

三人の司祭の帰国

F・サルディ師永久帰国

佐賀地区を司牧するミラノ宣教会の武雄教会主任・F・サルディ神父(七四)は、このほど本部人事により、イタリアのカンポドーロ・ミラノ会修道院付司祭として永久帰国することになった。

地元武雄教会では、九月一日、信徒、幼稚園児父兄、前任地伊万里、呼子教会信徒代表も招き、幼稚園講堂に約一〇〇名が参加して送別会を催した。園児代表から花束を受けたあと、同神父は挨拶の中で、「日本に来て四十一年、その間皆さんの温かい理解と愛情、お世話と協力をいただき有り難う。いつまでも日本のためにお祈りします」と述べた。

また、信徒を代表して田口会長から「自動車購入の一部に当てて下さい」と餞別を贈った。同神父は九月五日、帰国の途につく。

（佐賀教会・牧山）

F・カロール師帰国

アメリカ・ボストン出身のコロンバン会司祭、F・カロール神父が九月十五日帰国の途につく。一九六三年に来日し、七四年より福岡教区、熊本地区の八代教会から始まり、健軍、手取、本渡の各教会で司牧・宣教に活躍した。今回、病気療養も兼ねての帰国ということであるが、同神父のこれまでの司牧・宣教活動に感謝するとともに、全快を祈り、今後の司祭生活の上に神の豊かな恵みと、新たな地での活躍を期待したい。

泉類治師転勤

現在祖国スペインに帰国中のイエズス会司祭泉類治神父は、八月十二日付で転勤。福岡教区には一九八三年、泰星学園勤務のため来福し、一九八五年からはラミーレス神父のあとを引き継ぎ、浄水通教会での司牧・宣教のみならず、スペイン語の講師、イコンの製作と展示などで活躍した。

一九三一年四月生まれ。一九六三年司祭叙階。

スペインより帰国後は、広島教区での司牧・宣教にあたる予定。

◈◈◈◈◈◈◈◈◈◈◈◈

この八月から九月にかけて、福岡教区内全司祭数は五名が減ったことになる。確かに、この七月号から取りあげている教区報の一面の現実のあらわれではあるが、その前に、司祭として、神と人々のために奉仕してくださったことに心からの感謝を忘れたくない。私たちが、神の民として生きるために、どれほど多くの人人々の祈りと犠牲に支えられ、生かされているかを思うとき、また、その生涯を捧げ尽した司祭を思うとき、信仰に生きることを新たにし、今まで以上に神の国の発展を祈らなければと思う。司祭たちの残してくれたあしあとを無駄にすることなく、その上に豊かな教会を築いてこそ、心からの感謝になるのではないだろうか。

夏の召命行事

―召し出しを目指して―

召命錬成会

聖パウロ修道会では今年も夏休みの初め、七月二十二～二十四日に召命錬成会を行った。今年は、市内の教会や遠く関西地方から十二名の子供たちが集まってくれた。

集まった子供たちは小神学生と共に、祈り、食べ、遊びながら過した。

今年子供たちを迎える側になった中一の小神学生は、錬成会を振り返って次のように語ってくれた。

「僕は去年錬成会に来た。その時すごく感動した。先輩たちの祈るすがたといったら、すごく美しい光景でした。今年は僕たちの祈るすがたはどんなものか、子どもたちに見せる番です。僕も、他の志願者も一生懸命頑張りました。今年錬成会に来た小学生たちも、去年僕が感じたよりももっと何かを感じてくれた人がいると思います。何故なら、僕がパウロ会の小神学校に入ってきて、ここで感じたこと経験したことを、この錬成会で子どもたちに教えたからです。

錬成会が終って、僕はここがだめだったなという思いはないです。なぜなら一生懸命頑張ったからです。

来年の錬成会も、自分が経験し感じたことを全部教えるつもりです。来年もたくさんの小学生が来てくれることを待ってます。」

召命学校に参加して

聖パウロ小神玄関にて

去る八月二十日から二十二日に福岡小神学校において召命学校が開かれた。今回で何回目だろうか。私も以前、この召命学校に参加して神父になる決意をした様な気がする。今回は参加者としてではなく、ヘルパーとして参加した。

参加者は、小学校高学年から中一まで、総勢二十七名。予想以上の参加者があった。内容は、神学校の説明、祈り、遊びなどなど。一番の目玉は親元を離れての共同生活だろう。楽しくもあり、少し淋しくもある。この共同生活に何を感じるかが召命への第一歩となる。今年は、かなりの手応えが……。

ところで、この召命学校に合わせるかのように一人の司祭が逝った。奇しくもその生涯の大半を召命のために捧げられた川口康頼神父様であった。子どもたちも、その葬儀に参加した。司祭の死。去り逝く司祭と将来司祭になるかもしれない彼らとの出会い、不思議なものである。葬儀のため召命学校中止の声もあったが、あえてやったことに大きな意義があるような気がする。死に際してまで、川口神父様は召命のために働かれた。子どもたちは、この中で感じるものがあったと思う。感じたものを大切にして司祭を目指してくれれば嬉しいかぎりである。

召命ばかりは神の恵み、細かいことは気にしないでまずトライしてみること。それが、神の恵みへの第一歩だと思うから……。

サン・スルピス大神学院　谷口雅春

福岡市動植物園にて

ご会葬御礼

パリ外国宣教会司祭、故マルコ・ボヌカズ神父、並びに、福岡教区司祭、故ステファノ川口康頼神父の教区葬に際しましてはご多忙中にもかかわらずご会葬賜わり、温かいご芳志をいただき、心より御礼申し上げます。

勝手ながら香典返しとして福岡小神学校に寄贈させて頂きましたのでご諒承くださいますようお願い申し上げます。

実は拝眉のうえお礼申し述べるはずのところ、略儀ながら紙面をもってお礼申し上げます。

平成三年九月　福岡教区長　松永久次郎

小神学校基金への寄附の御礼

故マルコ・ボヌカズ神父様と故ステファノ川口康頼神父様の香典返しとして教区長松永久次郎司教様より多額の寄附を小神学校における司祭養成のためにいただき心よりお礼申し上げます。

平成三年九月　福岡小神学校　松井忠之

祈りの日へどうぞ！
日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分
内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。
※簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。
福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

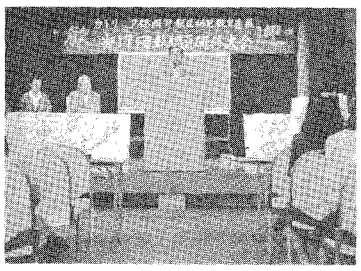
別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

カトリック福岡司教区幼児教育連盟
第17回 教職員研修大会

去る八月二十六日～二十八日、カトリック福岡司教区幼児教育連盟は、杖立の「ひぜんや」で、第十七回教職員研修大会を催した。「成長を分ち合おう」をテーマに、三百五十余名が自分の姿勢を見直すひとときを味わった。

今回は新教区長、松永久次郎司教が講演を引き受けてくださったことが大きな勇気付けになっていたようだ。一方では、山崩れのため国道が間近で不通になり、迂回して行くと云う試練もあったが、横浜からの講師・シスター坂上麗子先生礼拝会・横浜・サンタマリア幼稚園園長）も山々の緑を喜ばれながら時間内に着かれてほっとした。

開会式につづいて、松永久次郎司教が「三位一体の教えを生かす」と題して講演された。三位一体の教えの骨子の説明のあと、人間教育の示唆として三位の独自性を「カリスマ」をもって描かれ、我々人間も互いに仲間、兄弟として他の人を愛する独自性が本物の自己となるよう祈り尽して行く心の成長を説かれた。最後に、イエス様にならって天の父の計らいを信じ、三位一体の神様が味方に居られることを知って、すばらしい幼児教育の場で人格的奉仕に誇りをもって尽されるよう励まされた。大広間での夕食後、「地の塩・世の光」のみことばを聴き五地区の代表者が共同祈願を奉唱して祈り、第一日目を閉じた。



第二日目、シスター坂上麗子先生の講演は「カトリック幼稚園の教師像」で、現代の若い人々に向って、人とは、人間とは、自分とは何かと探索することが貧弱ではないかと問いかけられた。〝育てられた自分〟だけでなく、〝人格的資質〟を他者との関わりの中で見出しながら、子どもの心の旅路に添える教養を研いてほしいと主張された。自分の体験をきっぱりと出されて分ち合ってくださった。幼児の心の内から導く神様の僕の姿が見えたようだった。あと小グループで意見、感想、抱負も分ち合い、三日目の全体会で締め、感謝の祭儀で研修大会を終えた。（文責乾盛夫）

福岡司教区には教区立幼稚園・保育園が三十四園、宣教会・修道会立幼稚園・保育園が二十四園設立されています。教職員のみならず、教区民が園を盛り立て、キリスト教精神に基づく幼児教育実現のために協力しましょう。

ナイスについて考える会

十月に開かれる長崎教会管区司祭会議に備えて、教区内各信徒層の意見を聞くために九月十五日午後一時半～四時半まで、司教館で「ナイスについて考える会」が開かれた。

参加者は信徒十五名（男性八名、女性七名）、修道者六名、司祭十名の計三十一人。

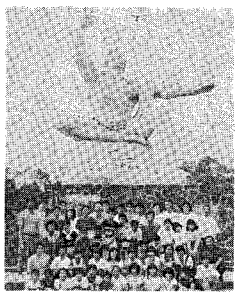
以下の三点を軸に、会が進められた。

①あなたの教会はナイスI以後（準備段階を含めて）変わったか？ ②それは福音宣教に関係しているか？ ③変わっていないとすればなぜか。どうしたらよいか？

参加者全員から本音の意見が出されたが、小教区によってナイスについての知識と意識の開きが大きく、まだ十分浸透していないというのが大半の参加者の意見だった。

くわしくは次号に。

長崎巡礼の旅



黒崎教会の教会学校の夏期行事として長崎巡礼の旅に出かけました。七月二十九、三十日の一泊二日の予定でしたが、ちょうど二十九日に長崎方面に台風が通過するというので止むなく二十九日の出発は諦め、三十日に日帰りで小中学生、リーダー、神父様と総勢五十六名で貸切バスに乗って出かけました。

聖母の騎士→大浦天主堂→日本二十六聖人記念館→国際文化会館→浦上天主堂というコースで回りました。

行く前に教会学校で、コルベ神父様の生涯、二十六聖人の歩んだ道を調べたり、被爆された方の話を聞いたりして準備をして行きましたが、やはり百聞は一見にしかず。

参加者のほとんどは長崎に一度は行ったことがあっても聖母の騎士修道院に行くのは初めてで、聖堂には、コルベ神父様の遺髪が残されていたり、修道士の方の簡潔明瞭な神父様の生涯の話は感動しました。また、資料館には、当時の印刷機などが残されていたり、聖人のことがとても身近かに感じられました。

二十六聖人記念館では、結城神父様の説明を聞いてから展示物を見ると、信仰を守ってきた聖人達の姿がより深く見えました。

これを機会にまた巡礼の旅の続きを今後もしていきたいと思いました。

（黒崎教会）

聖母園　二十五周年

九月十二日(木)、久留米より今村に移転してから二十五周年を迎え、福岡教区長、松永久次郎司教をはじめ、福祉関係者、他多くの参加者のうち盛大に感謝ミサならびに祝賀会が行なわれた。

なお、この節目に、デイケアーなどの施設も充実され、これから老齢化社会を迎える日本における社会的な大きな役割と使命が期待されている。

※今回、紙面の都合で床島藤吾のよもやま話はお休みさせていただきます。次月号を楽しみによろしくお願い致します。

家庭
第2回 全国会議に向けて

NFP（自然家族計画）とその意義

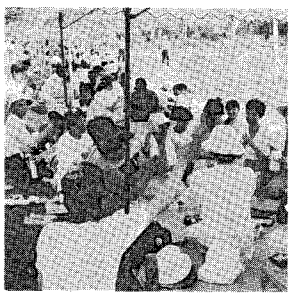
毎年の事ですが、私は母性保健の講義時間枠の中で看護学生にNFPの話をしています。彼女たちは基礎体温を測定することによって女性ホルモンの作用とその変動を知り、さらに頸管粘液の分泌、下腹痛、少量の出血など排卵時の徴候を観察することによって受胎能力を持つ（即ち母性としての）自己の理解を深めています。自分の身体の神秘に驚き、今後も観察を続けて行きたいとレポートで述べています。

さて、カトリック信者のなかでは、NFPに消極的な方が、さまざまな理由を挙げています。①頸管粘液の観察が難しい。②月経周期が不規則でNFPは使えないのではないか。③禁欲期間が長い。④避妊に失敗したらどうなるのか。⑤男性の理解が得られず女性側のみが頑なな為に家庭不和となる等々。ここで少し、整理してみたいと思います。①頸管粘液の観察について。受講前の学生のうち何らかの方法で排卵の時期が判ると答えたものは二〇%以下でした。ところがNFPの講義とその後の観察によって七〇%となり、助産学科の学生になると九五%は観察可能と答えています。将来、家族計画を指導する立場にあるため真剣に取り組んだからでしょう。②月経周期が不規則な方について。周期の不規則な方ほど頸管粘液の観察をしてみて下さい。排卵の時期とそれから二週間後の月経を予知することが出来ます。③禁欲期間について。性産業と呼ばれる程の性情報の氾濫する現代において、正しいセクシュアリティーの知識に乏しい日本の男性にとって、この問題こそNFPに消極的である理由の最も大きなものかも知れません。

福音に生きようとする信徒にとってNFPの意義は、夫婦が性に関しても開かれた誠実な対話を通してお互いを理解し、信仰の一致のもとに豊かな結婚生活、性やいのちの尊さを生きることにあると思います。真に正しいものを求める努力こそ祈りに通ずるのではないでしょうか。

（教区家庭委員会委員）
産婦人科医　井手　信

筑後地区 親善ソフトボール大会



恒例となった筑後地区の七教会（二日市、小郡、鳥栖、今村、本郷、久留米、大牟田）対抗スポーツ大会は、晴天に恵まれた九月一日午前九時から、大牟田市にある三井東圧化学グラウンドを会場に開催されました。

今年は、七回目で大牟田教会が担当。小郡教会を皮切りに始まった行事も一巡したことになります。

今村教会では堅信式、鳥栖教会では結婚式と行事が重なっていたにもかかわらず、二日市教会からは貸切大型バスでの参加など、たくさんの信者たちが集い、にぎわいました。

スポーツで汗を流すことはもちろん、昼食後には、みんなで綱引きをして盛り上がるなど、親睦を深め合う楽しい一日となりました。

本郷教会の川上惣一神父様、小郡教会の下町豊重神父様のハッスルにもかかわらず、司教杯を獲得したのは、子供の部は久留米教会、大人の部は今村教会でした。

各教会とも自分の教会の仲間同士はもちろんのこと、他の教会とも交流を深め合うことができたことを神に感謝し、これからも共に生きる共同体であることを誓い合いました。

（小郡教会　野瀬秀子）

アルメイダ神父のデッサン寄贈

本渡市の天草切支丹館二十五周年記念に、M・ライル神父所有のアルメイダ神父のデッサン（船越保武氏作）が寄贈された。

BOOK 読みま専科

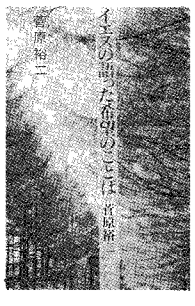
★こんにちは地球家族 ＝マザー・テレサと国際養子＝ 千葉茂樹著

ユ・バハン（子どもの家）には、路上やゴミの山に捨てられていた子どもたちが大勢います。ノーベル平和賞を受けたマザー・テレサは、この子どもたちがごく普通の家庭に引き取られることを厚く望んでいます。

家庭は子どもが「愛され、愛することを学ぶ場」であるからです。国際養子家庭をめぐる感動の報告書です。

女子パウロ会　五二〇円

★イエスの語った希望のことば 菅原裕二著



聖書に書いてあるのは神様のことばです。そこには神様の考え方、感じ方が表現されています。人間となり、人間にわかることばで神様は語られました。もし神様のことばが本当に私たちにわかるようになるなら、その時、私たちは人間のとは違う神様の考え方、感じ方に触れるでしょう。そこには大きなカルチャー・ショックがあるにちがいありません。

本書は、バチカンからラジオを通じて聖書や教会の教えをやさしく解説したものです。

女子パウロ会　一、二〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

十・十一月の行事

※ゴチックは司教日程

十月

4日　聖書講座―第二回
5日　ナイスII準備委員会
6日　高宮教会堅信式
9日　教区顧問会
12日　聖書講座―第三回
13日　教区青年体育祭
13日　聖書講座―第四回
14～16日　長崎教会管区司祭会議
18日　聖書講座―第五回
20日　玉名教会堅信式
25日　聖書講座―第六回

十一月

1日　聖書講座―第七回
3日　死者のミサ（教区墓地）
4日　召命の集い
8日　聖書講座―第八回
10日　帯山教会堅信式
11～14日　教区司祭黙想会
15日　聖書講座―第九回
22～24日　CLC九州大会
22日　聖書講座―第十回
24日　新田原教会堅信式

福岡黙想の家

9/24～10/3日　御受難会主催黙想会
9～10日　ふれあいTEN・TENまつり
11～12日　長崎医技短助産婦グループ
12～13日　御受難会主催黙想会
13日　泰星学園職員研修
　　バプテスト教会壮年会
15～16日　希望の集い（日生中央教会）
20～26日　サレジオ会黙想
26～27日　今宿キリスト教会祈りの会（鹿児島）
30～31日　仙台YBU巡礼団
31日　雙葉中父母宗教講話会

レジオマリエクリア五〇〇回記念

レジオマリエが福岡の地に発足したのが一九四九年（昭和二十四年）で、その集合体（クリア）が久留米の地に第一回の集会を持ったのが一九五〇年であった。

そのクリアが去る二月に五〇〇回の集会を開いた。一年十二回のくりかえしで、無事五〇〇回を持てたのは、多くの方々のお祈りのおかげとあつく感謝する次第です。

その感謝のため、来る十二月八日、マリア様の無原罪のおんやどりの祝日に、感謝記念ミサを行い　ささやかな感謝の意を表したいと思います。どうぞ多数の方々のお出でをお待ちしています。

日時・十二月八日(日)
午後二時ミサ
午後三時感謝の集い

典礼＝聖歌と祈りの集い

日　時　11月17日(日)14:00～18:00
場　所　福岡黙想の家（宗像市）
お　話　鈴木　忠一師
指　導　深堀　純氏
参加費　1,000円
問い合わせ先　黙想の家
（☎0940－32－3222）

天草殉教祭

日時　10月27日午後4時30分
場所　本渡市　千人塚

変更のお知らせ

《聖書講座》金曜日午後6時は**午後7時**からに変更。会場一階ホールになります。

《福音のひろば》第六回「生命の交わり、夫婦、子供、家庭、老人問題」は10月20日から**10月27日**に変更になります。

神のほほえみ

《真理は子どもの口から、出る。》という言葉があります。真理そのものでいらっしゃる神様は子どもたちの口を通して、語りかけることが多いということです。大人はたびたび裏考えを持ち、計算しながら、お互いにつき合っています。子どもの世界は建て前がなく、本音だけです。

今日のテーマは子どもたちの無垢を通じて、神はご自分のユーモアを私たちに感じさせてくださるということです。子どもたちは大自然の中に息づいている命を大人より、実感しているようです。小学三年生の理科のテストに次の問題が出されました。《氷が解けるとどうなりますか。》一人の男の子は《氷が解けると春になる。》と答えて、バツをもらいました。大自然のリズムに合わせて生きている子どもの心を先生は受けとめる余裕がなかったようです。

又、愛情の豊かさにおいても、大人は恥ずかしい思いをすることがあります。ドイツでの話しですが、夫婦に一人の男の子、そして、主人の父親の四人家族がありました。問題になったのはあの年とった父親です。彼の中には老人の癖、弱さが全部揃っているように見えます。

ユーモア・

特に食事どきのおじいちゃんの態度が、たいへん奥さんは気にさわるのです。たとえば、食べ物を口に運ぶ途中、いつも落としたり、周りを汚したり……それに、又、食べ物を噛み潰して、やっと飲みこむとき、蛙の鳴き声を思い出させるような気持ちの悪い音を立てて、喉を通すのです。等々の不快なことが重なって、とうとう奥さんは主人に向かって訴えます。

「おじいちゃんのこと何とかしてください。私にはもう耐えられません。」

主人は考え、おじいちゃんのため特別の箱を作りました。食べ物を落とすとき、その箱で受けるように口の下に持たせました。そして……食堂の隅っこにおじいちゃん専用のテーブルを設けました。どうにか解決がついたと思われました。ところが、息子が板切れを集めてきて、一生懸命、何やら作っていました。お母さんは不審に思い尋ねました。

「何をしてるの。」

「お父さん、お母さんのために箱を作っているの。おじいちゃんのように年寄りになるでしょう。その時、助かるでしょう。」ユーモアの中に厳しい現実を感じさせます。

人類の文明は限り無く進み、人間の必要に限り無く応じてくれています。事実、二十世紀後半に生きる私も、冷暖房完備した部屋に快適に住まわせて頂き、自分の車で、自由に動き回っています。しかし、この現代の一人一人の生活は限り無く大きな問題を作っていっています。地球は泣き、さまざまな警笛を鳴り響かせています。一瞬、耳を澄まし、目を見据えると怖くなり、動けないような気がして、途方にくれます。

この重く、緊張した空気の中に子どもの心に触れ、その単純なユーモアに救われる気がする今日この頃です。やはり、子どもは神様から、贈られた天使、慰め、大人の力の泉です。

《子どもたちをとめるな。私のところに来るのを邪魔するな。天の国は、このような者たちのものだから。》

マタイ十九・十四

パリ外国宣教会司祭
門司港教会
徳山　登

かのときのことのは

森山　敬三

人と別るる一瞬の
思ひつめたる風景は
松の梢のてっぺんに
海一寸に青みたり

佐藤　春夫

『我が一九二一年』の同心草拾遺に「別離」と題して所収。この拾遺には、「別離」の前に「つみ草」として、しづこころなくちるはなに／なげきぞながきわがたもと／なさけをつくすきみをなみ／つむやうれひのつくづくしという、中国の薛涛の詩の名訳がある。代表的な詩「秋刀魚の歌」は谷崎の妻であった千代子と結婚する前の心境を歌ったものである。丸谷才一はその『文章読本』の中で、春夫の『退屈読本』の中の短篇「好き友」を、名文として絶賛している。詩に小説に批評に伝記に往くとして可ならざるこの才人は、名声一時は、芥川・谷崎をも凌いだ。私は若き日『慊斎雑記』を愛読したことを、その装幀とともに、なつかしく憶い出す。

お礼とご報告

先般、雲仙普賢岳噴火に伴う被災者のための義捐金をお願いしましたところ、多くの方が進んで献金してくださるとともに、フィリピンのピナツボ火山噴火の被災者もあわせて捐助してほしいとの要望が各方面から寄せられました。皆様の寛大なお心に心より感謝いたします。

そこで義捐金総額四百六十万円のうち、三百六十万円を長崎教区を通じて雲仙普賢岳地区の方々のため、百万円をカリタスジャパンを通してピナツボ火山地区の方々のため送金いたしました。

以上、報告申し上げ、重ねて心からお礼申し上げます。また、災害に遭われた方々が一日も早く正常な生活にもどれるようお祈りするとともに、皆様のご厚意を天の御父が豊かに報いてくださるよう祈願いたします。

平成三年九月十三日
福岡教区長
松永久次郎

十月命日の司祭

＊ジャン・バプチスト・ドラビ師（パリ外国宣教会）…九六七年十月二十三日元黒崎教会主任
＊エミール・ラゲ師（パリ外国宣教会）…一九二九年十月三日福岡司教館
＊ジュリオ・ベルトラン師（パリ外国宣教会）…十九八七年十月二十七日元門司港教会主任

編集室から

▼夏休みぼけから解放される間もなく、九月が終ろうとしています。
▼少しあわててやっても、あまり仕事ははかどりません。ゆとりをもってと思うとのんびりしたくなります。人間とはやっかいなものだと思いながら十月号もまた発行できそうです。神に感謝
▼ところで　実り豊かな秋、心身ともに充実した季節を！でも、太り過ぎだけは気をつけて……。（司教館での会話）
▼二学期もよろしくご協力のほどお願いいたします。

マスコミによる福音宣教は私たちの使命です。

みことばを、いつもあなたに

聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

"任意保険に加入してから車の運転を致しましょう"
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱ メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI **藤木工務店**
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL　092－521－0568

カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

10月13日

長崎教会管区司祭会議

第二回 福音宣教推進全国会議に向かって

【動き】

一九九三年の秋に長崎で開かれる「第二回福音宣教推進全国会議」（ナイスII―以下、第二回全国会議という）に向けての動きを紹介したい。

一、「ナイスについて考える会」

去る九月十五日に、教区内の信徒、修道者、司祭が司教館に集まり、一九八七年の秋に京都で開かれた「第一回福音宣教推進全国会議」（ナイスI―以下、第一回全国会議という）後の教区内の動きの確認がされた。第一回全国会議で示されたこれからの日本の教会の基本方針「開かれた教会づくり」が、各小教区でどのように具体化されているか、という点を中心に参加者から発表していただいた。そこで明らかになったことは、

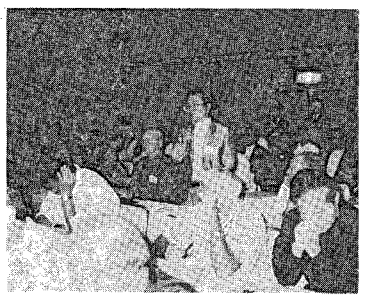
① 全国会議の後、教会が活発になり、みんなで福音宣教について考え、意識して行動する機会が確かに増えている。

② その一方では、全国会議そのものについて信徒がまだよく知らないし、また知っていても、どのようにしたらよいか分からないのも事実。

③ ②の原因の一つとして、全国会議についてのきちんとした情報が、信徒にまで届いていない。

＊信徒からの要望として、次のことが出された。

全国会議に興味のない司祭がいるようだが、日本の教会（司教団）が打ち出した方針なので、興味のあるなしにかかわらず、基本的情報は信徒に流してほしい。小教区によって、全国会議への取り組みが違ったり、まったく情報が流されていなかったりする。そこから、信徒の間にも当然、意識の差が生じ、とまどいを感じている。



二、「長崎教会管区司祭会議」

十月十四日から十六日まで、長崎、福岡、大分、鹿児島、那覇教区の司教と司祭が集まり、第二回全国会議の準備のひとつとして熊本で司祭会議が開かれた。内容は、管区内の全司祭へのアンケート集計結果の報告。信徒と司祭の発題。それを聞いての「分かち合い」。テーマ『家庭』を受けての「言いたい放題」。共同通信社論説委員、横川和夫氏の講話『現代社会と家庭』。二十のグループに分かれての「分団会」。分団会のまとめと発表など。

長崎教会管区（九州と沖縄の教区）の司祭会議は初めてのことで、約二〇〇名の司祭が一同に会したことは、まず司教、司祭にとって大きな喜びであり、この会で、皆が一つの家族であることを雰囲気によって感じ、確認したことは大きな収穫であったように思える。

この会議で分かち合い、討議された事柄は今後まとめられ、十二月に開かれる司教総会で「管区」の意見として発表される。日本の三つの管区、東京、大阪、長崎の意見が司教総会で出され、九三年の長崎の全国会議に向けて、今後「どのような断面からテーマ『家庭』を見つめていくか」が討議、決定される。

第二回全国会議に関して、現在決まっていることはテーマだけであり、この点で信徒がとまどいを感じているふしもあるが、今後の司教団の決定までは、各教区内で信徒、司祭、修道者の意見の「吸い上げ」がなされることが望まれている。そのために「公聴会」が開かれる。

三、教区内各地区の「公聴会」

十一月二十三日に北九州地区、二月十一日に福岡と佐賀地区、三月二十二日に熊本地区で「公聴会」が開かれる予定。この「公聴会」では、日本の教会の基本方針と優先課題の確認、第一回全国会議後の歩みを確認することから始めて、家庭の諸問題と福音宣教のために信徒一人ひとりに何ができるかを探っていく。

「公聴会」の進め方に関しては、各地区の信徒協が準備をしているが、地区の司祭、修道者の積極的参加が望まれている。

＊お礼＊

長崎教会管区司祭会議開催におきましては、信徒の皆様から、祈りと献金、実際的な奉仕の援助をいただき感謝しております。この会議の成果を今後の司牧宣教活動に活かしてまいりたいと思います。引き続き、信徒の皆様のお祈りとご協力をお願いいたします。

（第二回福音宣教推進全国会議
福岡教区準備委員会
山元神父）

浦和教区に ペトロ岡田武夫新司教誕生

去る九月十六日午前十一時浦和市の明の星短期大学講堂にて、第四代浦和教区長に任命されたペトロ岡田武夫被選司教の司教叙階式と着座式が、W・A・カルー教皇大使臨席のもと、白柳誠一東京大司教主司式で荘厳に挙行された。式には、司教団・司祭団をはじめ二千人余が参列して岡田新司教の誕生を喜び、感謝の祈りをささげた。

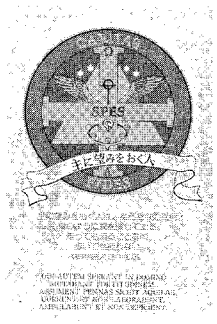
教区長不在の期間を一年余過ごした教区民にとって、講堂を超満員にした信徒の姿は、その大きな喜びをあらわしていた。

岡田新司教は、挨拶の中で「責任を思うとき、身のすくむ思いがします」と語っていた。

三時間に及んだ叙階・着座式と祝賀式典のあとには、テント食堂で各小教区持ち寄りのカレーライスやたこ焼きなどをいただきながら新司教誕生を喜び、歓談のひとときを過ごした。

左記の写真はペトロ岡田武夫新司教の紋章とみことばである。

（記事が遅くなりましたことお詫びいたします。）



今月のみことば

あのかたは栄え
わたしは衰えなければならない
（ヨハネ3・30）
サン・スルピス　大山悟神父

時の話題

鈴木　明郎

私が持っているカトリック教会（巡回教会を除いて）のイメージは、教会があり、神父様がいて、日曜日にはミサがあるというものです。

つまり、司祭館の常住司祭が、毎日曜日のミサをささげる揺るぎない小教区の存在であります。

従って、小さくても新しくひとつの教会が建ち、そこに司祭が赴任すると、新しい小教区が誕生し、キリストの福音宣教のための活動の場が確実にひとつ増えたことになります。現在私が所属する教会もそのひとつです。この小教区制は、カトリック教会の強味であり、同時に限界でもあるのです。

この一小教区一司祭が維持出来ない時代を迎えようとしています。否、熊本地区では、司祭のいない小教区がすでに現出しています。

九月初旬に手取教会で一泊二日で行われた熊本地区の信徒協の委員会で、牧山神父様が「司祭のいない時代への取り組みについて」という題で講話をされました。その中で司祭にかわる聖体奉仕者の育成の必要を訴えられ、そのための講座の開設を提案されました。信徒委員の反応のひとつは、司祭が不足することによって生ずる司祭職の一部を信徒が補うに当っては、司祭団からの訴えだけではなく、信徒自身の中の危機感の認識と同時に、いわば信徒司祭職への使命感の昂揚と充実が欠かせないというものでした。

司祭が少なくなる時代に備えて

問題は聖体奉仕者の育成で解決されるのでしょうか。司祭職とミサとは不可分の関係にあります。特に、ミサの中で最も大事な部分は、奉献と聖変化です。この部分のない、聖体奉仕者によって行われるミサは、果たしてどんなものになるのでしょうか。そうなると、聖体奉仕者の司式による日曜日には信徒の集まりが悪くなり、ひいては小教区の崩壊にも進みかねません。

あらゆる権威が失墜し、再評価の憂き目に合う現代、独り正しい権威を保ち続けてきたカトリック教会に対して、私達信徒は従順であります。

ところで、開かれた教会とは、聖変化、告解、そして洗礼といった、カトリック教会の最も大事な秘跡と奥義をより開かれた形で日常化することを意味するのではないでしょうか。

司祭とミサが一体になって形成されて来たカトリック教会の歩みを考える時、司祭不在時代の到来にあたって、人智では計り知れない天の御父の御旨を正しく理解するお恵みをお与え下さいと祈りたいものです。

（熊本大学教授
武蔵ヶ丘教会）

みちくさ

あっという間に駆け抜けてしまいそうな秋、自然の美しさをたたえる紅葉、でも春とちがって樹木は休みを告げ知らせるときでもあるような気がする。春には芽吹き、勢いづく樹木も秋には、そのいのちをもっとも美しくしたかと思えば休みに入る。でも、いのちの終わりではなく、寒い冬を越して新たな息吹のために▼樹木をながめていると輪廻的なものを思うが、この自然の中を生き抜き、積み重ねて年輪をたくわえる。私たち人間も日々の積み重ねをもって豊かさを増したいと思う▼生命あるものには、はじめと終わりはつきものではあるが、この生命のある限り、人は自然以上に美しく生きれるものではないだろうか。でも現実を見るとき、そうではないと言いたくもなる。しかし、神が私たちに永遠の生命を約束されたとしたら、いや、約束されたから、弱さの中にあっても、日々老いてゆく人生であっても、より豊かな、より美しい人生にしたい。そして永遠の生命に向かって信仰と希望をもって歩みたいと思う▼十一月は教会にとって死者の月とも言われる。死者のために祈る季節であるが、死者を思い起し、ただ永遠の安息を願うだけだろうか。日曜日のミサの中で、いつも信仰宣言を通して、『聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます』と祈る私たちの信仰を新たにしたい。私たちが神から尊い生命をさずかった以上、いつも永遠の生命をめざして歩む心を確認できる月でありたいと思う▼イエスは『永遠のいのちとは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです』（ヨハネ一七・三）と祈られました。父である神と、父のひとり子主イエス・キリストの愛にあずかり、愛に生きるとき、永遠のいのちが何であるかを信仰のうちに体験しはじめるのではないだろうか。

司祭会議報告
―分団会から―

出席した司祭たちが数名ずつ分かれて話し合いを行い、その中で、それぞれの持っている生の声を出しあった。以下は、その分団会からの提案の要旨である。

(A) NICEとNICEIIに向けて

(1) NICEそのものについて

①神の民のコミュニケーションの場として、また福音宣教の意識高揚のためにもNICEそのものは有意義である。そのNICEも一度は開かれたが、その理解度にはずれがあるように思われるので、信徒代表の比率を増やし、もっと徹底させるために時間をかける必要がある。要するに遣りっぱなしではなく、見直しと評価によって、成功も失敗も活かして行くよう考慮すべきである。

②各回のつながり、積み上げを大切にし、テーマは各回毎に変えないで「福音宣教」という方向性を示すものだけでよい。

なお、(NICE)という名称については、特に、子供老人には馴染みにくいため、開催地の名をとって「京都会議」「長崎会議」に変えるなど、もっと皆に馴染みやすいものにしてはどうか。

(2) テーマ「家庭」をめぐって

NICEIIのテーマ「家庭」を具体的に考えるに当って、信徒家庭に限定せず、全ての家庭を対象として具体的かつ実践的な、更に、NICEIとのつながりを持った方向を打ち出す。

例えば、

①問題を持った家庭に具体的に福音を与えるような。

②NICEIのキーワードである「ともに」から家庭を捉える。

③ヨハネ・パウロII世教皇の使徒的勧告「ファミリアス・コンソルチオ」の中で指摘されている家庭の四つの使命を参考にし、現代の日本の家庭を分析してみる。

(3) NICEIIに向けての基本的姿勢

①的確な分析

ⓐ家庭の現状と社会の現状の分析や問題に対しての取組のために司教団が専門家の協力を依頼する。

ⓑ相談を受けたとき、問題に応じた専門的な窓口の設置。例えば、福岡教区におけるファミリーセンター内で。

①生の声

様々な状況におかれている信徒の生の声を聞く努力をして欲しい。本当の問題は、特に家庭については、言葉にならないが、聞いてもらいたい声が多いことを認識して欲しい。

(4) 地域性について

日本は広く、統一性を求めることは困難さがある。「家庭」の具体的な問題やそのための解決の方法論については、地域によって異なる。地方にある地域的なレベルのものと、全国的レベルのものとを十分に考慮しながら、具体的な課題を出して欲しい。

(B) テーマ「家庭」を取り巻く諸問題

(1) 家庭と典礼

信徒の中には主日のミサを粗略にする傾向がある。例えば、長期間ミサに来ない信者が、告白もせず、聖体拝領をするなど。また、司祭の中にも、主日のミサを重要視していない者もいる事実。主日のミサに対する真摯な心構えを確立する必要がある。それと、家庭の健全化と福音宣教に向かわせるような内容の典礼書や全国共通の祈禱書の作成が急務である。これは、家庭の健全化と福音宣教に向かうために不可欠な要素である。

(2) 家庭と信仰教育

種々の事柄(例えば、塾通いなど)に拘束された子供たちのために年齢に応じた信仰教育の教材と、指導指針が早急に望まれる。

(3) 家庭の健全化

家庭の健全化が福音の証となる。しかし、信仰に照らした家庭の健全化は何かが問題となる。教会活動のため家族を蔑ろにするケースもある。

(4) 家庭と社会

司教団や司祭団は、利潤追求・営利主義の日本の政治、社会に対し、人間を大切にする生き方を明確にし、アピールすべきである。

(5) 結婚・離婚・再婚

①離婚・再婚者の救済策を早急に講ずる必要がある。苦しむ人たちに暖かい配慮を。また、より良い結婚のための準備は大切であり、幸せな結婚のための具体的な方法を確立する必要がある。(例えば管区・教区ごとのマリッジ・エンカウンターを開く)

②未信者の結婚式と葬儀のための方針とマニュアルを出して欲しい。

これから福岡教区内でも各地区での公聴会が行われる予定であるが、「聴き、吸い上げ、活かす」ための参考になればと思い教区報編集室の方で一部をまとめ報告したものです。

聖徒の交わり

典礼では諸聖人の祭日、死者の日と始まる十一月、各地区の納骨堂などでは追悼式、追悼ミサなど行われる十一月、私たちがミサの信仰宣言の中で唱える、〝聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの復活、永遠のいのちを信じます〟という信仰を新たにして、ともに祈り過したい今月ではないでしょうか。

諸聖人の祭日

この祭日は西方教会においては、ボニファチウスⅣ世教皇が聖母マリアにローマのパンテオンを献堂した六〇九年に始まった。最初はローマで五月十三日に祝ったが、グレゴリウスⅢ世教皇(七三一～四一年)のとき、この記念日を十一月一日に変更した。

死者の日

死亡した信徒を記念する日。九九八年にクリュニーのオド大修院長が自分の修道院において死者の記念日を始め、それが徐々に全教会に広まった。

(現代カトリック事典より)

―・―・―・―・―

教会の典礼の中で、諸聖人の追憶をもって「教会は、殉教者やその他の諸聖人の追憶を一年の周期に編入している。かれらは神の多様な恩恵によって完徳まで導かれ、すでに永遠の救いを得て、天において神に完全な賛美を歌い、われわれのために取り次ぐのである。教会は、聖人の記念日に際して、キリストとともに苦しみ、ともに栄光を受けた聖人において、復活秘義を告げ知らせ、キリストを通して父のもとにすべての信者が引き寄せられる模範を信者に示し、聖人の功績によって、神の恵みを願うのである。」(典礼憲章一四〇番)と教えている。

私たちは諸聖人を典礼暦の中では平日に祝い、主日には主の復活を記念し祝うために、あまり聖人の祝日を祝う機会は少ないのかもしれませんが、この十一月、諸聖人を思い起こし、取り次ぎを願う心を新たにしましょう。

また、私たちは、洗礼のときに、それぞれ洗礼名として聖人たちの名をいただきます。洗礼名の聖人の祝日だけを思い出すのではなく、いただいた聖人の取り次ぎのうちに神の子として聖人にならい、完徳に至ることができるように恵みを願いましょう。

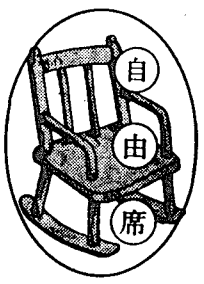
さらに、ミサの奉献文の中でいつも諸聖人の取り次ぎを願い、亡くなった人々のために祈る司祭の祈りに心を合わせ、教会の祈りとして捧げられる御ミサに心からあずかることを心がけましょう。

「聖霊によってわたしたちがあなたにささげられた永遠の供えものとなり、選ばれた人々、神の母おとめマリアをはじめ、使徒と殉教者、すべての聖人とともに神の国を継ぎ、その取り次ぎによって絶えず助けられますように。……

亡くなったわたしたちの兄弟、また、み旨に従って生活し、いまはこの世を去ったすべての人をあなたの国に受け入れてください」

(ミサの第三奉献文より)

私たちが、いつも聖徒の交わりによってキリストの道を歩むことができますように。



カトリック幼稚園の片隅から

外遊びの最中に、「見て、見て、きれいでしょ。」と一人の女の子が短い紐らしき物を持って来ました。「きれいな紐ね。」と言って差しのべた私の掌にのった物は黒と黄色の縞模様で、よくよく見ると何と干からびた毛虫でした。叫び声を上げたいのを我慢して、「アー毛虫が死んだのね。どうしょう。」「お墓にうめようよ!」という事になり、毛虫の墓が出来上がり、一件落着。またある日、子供が突然に歩行困難な病気に罹り、母親が涙ながらに話されるのを未信者の若い先生と共に聞いている内に、私共もつい貰い泣きしてしまう。「子供達と助け合って頑張りますから安心して!」という言葉が先生の口から出て、側で聞いていた私の方が驚いた事がありました。一日中幼い子供達と共にのんびり過ごしている様に見える幼稚園の仕事も、子供を通して母親に、父親にそして家庭へ、卒園生へ、共に働く先生方へと、良き知らせを伝える使命があります。毎年新入園児を迎え新しいお母様ともお馴染みになります。最初はお互いの助け合い、奉仕等が理解されない事もありますが、子供が園に慣れ始めると共にお母様方の心も乾いた土地に水が染み込む如く潤され変えられていくのを感じます。この事は人の心を変えて下さる神様の不思議な御業なのでしょう。

お母様方も園の主旨に賛同されて、お互いの親睦という暖かい雰囲気の中で、園に対しての奉仕活動に積極的に参加されるこの頃です。また、私共の園には、セ・コ(奉仕と分かち合い)というボランティアグループがあり、望んで入会された方は、卒園生の御父兄の会員と共に、国内の施設とフィリピンの貧しい人々への援助に奉仕されています。古着を一枚一枚選り分けて、子供用、大人用にと分類し箱に詰め、紐を掛け発送する迄の作業を見る度に、これらの援助を受け取る人々の喜びはどんなに大きい事かと感動します。喜びを与える方の忙しさも、喜びを受け取る方の貧しさも喜びと感謝へと変えられ高められていく事でしょう。この様な献身的なセ・コの会の働きは、これからの私共の園の活性化に大切な役割を神様がお与え下さると信じます。豊かさに飽かされた現代にあって、犠牲とか奉仕の精神はなくなりつつあるといわれますが、私共人間の力ではどうする事も出来ない難しさの中にこそ、神様はこの大切な精神を御手の力で生かし続けて下さるでしょう。

子供達は小さな石ころも、砂場の中の貝殻も、木片も、すべて宝物に変えて楽しんでおります。

神様もきっと私共の毎日の小さな悲しみ、困難、痛みをすばらしいお恵みと喜びに変えてお楽しみになっていらっしゃるにちがいありません。

(聖心のウルスラ宣教女修道会　シスター高取)

※読者のみなさまへ

自由席の欄は読者の方々が教区報をお読みになったことの感想、記事に対する意見などもお願いできればと思います。そして、以前にもお願いしましたように、信仰の喜び体験、ちょっといい話、家庭のこと、教会のこと、信仰者として感じることなど、紙面を通して分かち合いの場になればと願っています。

なお、字数は六百字程度(多少長くなっても結構です)でお願いします。原稿をお待ちしています。

(編集室)

祈りの日へどうぞ!

日　時　毎週火曜日　午前11時～午後3時30分

内　容　小さな講話、黙想、ロザリオ、ミサ、晩の祈りで終わります。

※簡単なお食事を用意します。前日までにお申込みください。

福岡黙想の家　〒811-41　宗像市名残1056　☎0940(32)3222

熊本石材株式会社

熊本市島崎4丁目2ノ68

電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち

草苑(SOU-EN)

ご葬儀

木下株式会社

TEL092-526-5656

福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡教区
青年体育祭

去る、十月十三日（日）に久留米信愛女学院において、福岡教区青年体育祭が開催された。福岡、北九州、筑後、佐賀長崎、熊本の五つのブロックより一七九名の高校生、青年が参加した。

午前九時より松永司教様を迎えてのミサで、福岡教区の青年が一同に集い、心をひとつにして、神様の恵みがあるように祈った。

競技は、谷口実行委員長を中心に青年の手作りで行われた。

体育祭で目を引いたのは、なんといっても仮装行列だった。各ブロックとも、それぞれ個性のある時代にそった出し物が多かった。吉野ヶ里遺跡（佐賀長崎ブロック）を再現したものや、男性五名のきもちわるいほど息のあったシンクロナイズスイミング（筑後ブロック）など、各ブロックとも特徴をいかした仮装が非常に好評だった。団体戦の結果については、最後の男女混合リレーで一位となった筑後ブロックが優勝した。

各ブロックとも一生懸命走り、応援し、また、喜び、悲しみ、お互いをたたえあった。心の拠所を同じにする教会青年の親睦がはかられたのではないかと思う。このようなイベントを通じて一つの教会を越えた青年同志のつながりができたことは、ほんとうにかけがえのないものであった。楽しい一日を過ごした参加者は「おつかれさま。また、会いましょう。」と再会を約束した。

実行委員のみなさん、参加者のみなさん、ほんとうにおつかれさまでした。そして、最後に久留米信愛女学院の先生や協力していただいた各教会の神父様どうもありがとうございました。

（筑後ブロック　本郷教会　柳　健二）

聖書講座開催

今回、以前福岡地区のために行なわれていた神学講座に代って、福岡教区レベルでの聖書講座（十回）が開催されている。

第一回目が台風十九号の影響で一週間延期になり十月四日より始められた。今回の聖書講座にはヘブライ大学サフライ教授の講座も加わり花を添えた。毎回受講者は約百三十名あまりに及び、福岡市内ばかりでなく、北九州地区、筑後地区からの参加者もありながら初めての試みとしては大きな成功のうちに講座が行われている。

この聖書講座は今年だけでなく、今後、回を重ねて行われる予定である。神のみことばである聖書が信徒の中で理解が深められ、神の民として、社会においても、家庭においても、霊的な糧となるように期待されている。

今回は十一月二十九日が最終回になるが受講者が講座を通して神のみことばを豊かにいただけるように祈りたい。

聖書週間

十一月十七日～二十四日

聖書を読み、親しむことを、この週間に特に心掛け、努め、そして神の心に生きる者とされますように。

幼稚園園児募集はじまる

前号でお知らせいたしましたように、福岡教区内には三県にわたって教区立、修道会立の幼稚園・保育園が五十八園あります。

今日、出生率の低下とともに園児数の減少という厳しい状況にあります。幼稚園運営が困難をきたさず、福音宣教の精神をもって、幼児期におけるキリスト教精神に基づく教育が豊かにできますように園児募集の時期を迎え、教区民の暖かいご協力をお願いします。

※十一月一日から願書受付がはじまります。

家庭
第2回全国会議に向けて

ありのままの姿を

彼女が幼稚園のとき、クラスに身心に少し障害のある子がいた。あるとき、砂場で遊んでいたその子がなかなか教室に入ってこない。彼女は走っていって、しゃがんで遊んでいるその子のそばに同じようにしゃがみこみ、しばらくいっしょに遊んでいたが、やがてひと言声をかけると兎飛びをしながら砂場を出た。すると男の子も兎飛びをしてあとを追い、二人して教室に入ってきたという。

どこでそんな知恵を学んだのだろう。

彼女が小学生になったときにも、クラスに同じような子がいて、よくその子の話しをした。テレビの時代劇が大好きで、そのことに関しては右に出る者がいないこと、そして人のものまねがうまいこと、自分はとうていかなわない、ほんとうにすごいと言って話した。ただ、やっちゃん（その子の名）はかわいそうだと言う。障害をもっているからではなく、ときどきいじめられるのだそうで、何も変なことをするわけでもないのに、かわいいのになぜなのだろうと真剣に悩んでいた。

相手をありのままに受けとめ、しかもよい点にだけ目をとめる、こんな根本的な人との関わり方を彼女は一体どこで身につけたのだろう。

彼女の家庭も、ことさらそのように育てたのでも、特別の信仰教育をしたのでもなさそうだ。人に親切にしなさいとは教えても、これほど見事に実行されると、もう親や学校の手柄を越えている。

つまりどこかでだれかに教わったのではない、神に授かったのである。

親のすることは、子供が神に賜わったよい点を見つけ出し、ただじっと見守ってやることであろう。

子供の、家庭のあるべき姿を先に立て、それに合わせようとすると、せっかくの賜物が無駄になってしまわないだろうか。現実の、ありのままの姿に目をとめることから出発しようという、ナイスIIの姿勢をこんな風に受けとめたいと思っている。

（大名町教会　深堀　純）

北九州教会学校リーダー研修会開催のご案内

日　時　11月18日(月)　10:00～15:30
会　場　小倉カトリック教会／会館　二階集会室
テーマ　《家庭と信仰教育》
講　師　深堀邦枝氏(福岡司教館) 内藤正氏(小倉教会)
内　容　午前　お二人の講師によるお話し
午後　分かち合いと、全体での質疑応答など
対　象　教会学校リーダー、両親、その他どなたでも
会　費　1,000円(お弁当を注文される方は別に500円)
当日受付で頂きます。
申　込　11月13日(水)までに　教会でまとめて
教会学校リーダー会担当司祭　ガイヤール

床島藤吾のよもやま話
ミサとラテン語

福岡教区事務所での奉仕もふり返えると四十三年あまりが過ぎてしまいましたが、その間、特に終戦後十年あまりは、サレジオ会、ザベリオ会、コロンバン会、フランシスコ会、スカボロ会、ドミニコ会、オブレト会、ミラノ会、アウグスチノ会、ベネディクト会、御受難会など多くの宣教会、修道会の神父様方が、司牧・宣教の任に着かれる前に司教館に宿泊されました。そのころは、日本語学校もなく、まだ日本語も存じないままおいでになり、来日された神父様方のお世話はたいへんなものでした。でも朝のごミサのときは、ことばの通じない神父様方であっても、同じ信仰、同じ心をもって祈る喜びを待者をしながら体験したものでした。今は、各国のことばでごミサもできるようになり、宣教会・修道会の神父様方も日本語学校を経て、直接任地に赴かれるようになり、ほとんど、そんな体験をする機会はなくなりましたが、国を越え、ことばを越えたカトリック信仰のすばらしさを肌で感じ取れた時代がなつかしく思い出されます。確かに、典礼も刷新され、一つの形ではなく、一つの心が大切にされ、豊かさをもつようになりましたが、〝主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ〟（エフェソ4・5）という信仰の喜びをいつも教会が大切にできますようにと願う今日このごろです。

カトリック中央協議会に赴任された渡辺隆義師が働かれている広報部から、〝六番町の窓〟という記事が広報担当者へ送られて来てがいますが、その中に世界宣教の日にあたってのカトリック信者の統計ありましたのでご報告します。

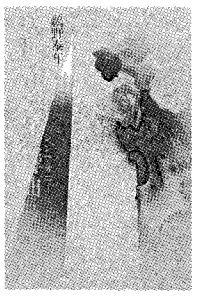
（1991年9月1日現在）

世界のカトリック人口

世界の総人口	5,073,993,000	人口の対する比率
世界のカトリック人口	890,907,000	17.5%
アフリカ	81,883,000	13.4%
北アメリカ	190,305,000	45.8%
南アメリカ	254,117,000	89.1%
アジア	78,331,000	0.3%
ヨーロッパ	279,401,000	39.6%
オセアニア	6,870,000	26.8%
日本	428,830	0.3%

BOOK 読みま専科

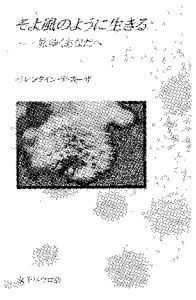
★聖母マリアの交響曲（シンフォニー）
鵜野泰年著



聖母マリアのみ手を通して注がれた神の慈しみと愛を、著者の司祭生活三十年の記録としてまとめたものである。音楽を愛好してやまない著者は、人々の中で出会った神の慈しみを文をもって奏でようと試みた。「聖母マリアを賛えて歌う人々の賛美の歌は、やがて天使、聖人達の歌声に重なり、大合唱となって世界中に響き渡るであろう。」それはあたかも聖母マリアの交響曲である。

中央出版社　一、〇〇〇円

★そよ風のように生きる
バレンタイン・デ・スーザ著



仕事をうまくこなし、人間関係もまあまあよくいっているとしても、時に自己を見つめ、透きとおるような心で生きてみたいと誰しも感ずる時がある。「私たちがこの世に遺すことができる最も貴いものは優しさです。」こんなことばを胸にして、人生を『そよ風のように』さわやかに生きることができたら、まわりの人も豊かな人生をおくることとなるだろう。本書は、わかりやすく説かれた人生の金言集。

女子パウロ会　六〇〇円

ジャパン建築株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

十一・十二月の行事

※ゴチックは司教日程

十一月

1日　聖書講座―第六回
3日　死者のミサ（教区墓地）
4日　召命の集い（大神学校）
8日　聖書講座―第七回
10日　帯山教会堅信式
11～14日　教区司祭黙想会
15日　聖書講座―第八回
17日　西新教会堅信式
21日　神学院祭
22～24日　CLC九州大会
22日　聖書講座―第九回
23日　佐賀地区司教懇談会
23日　北九州地区公聴会
24日　新田原教会堅信式
26日　司祭評議会
26日　教区顧問会
29日　聖書講座―第十回

十二月

8日　レジオマリエクリア五〇〇回記念
8日　誓願式（黒崎にて）
10～14日　司教総会
15日　吉塚教会堅信式
17日　福岡地区司祭の集い
22日　直方教会堅信式

福岡黙想の家

2～3日　黙想会（松永司教指導）
3～4日　北九州レジオ・マリエ
5日　光丘教会婦人部黙想会
10日　浄水通教会婦人部黙想会
11～14日　福岡教区司祭黙想会
17日　典礼聖歌研究会
17～22日　コロンバン会黙想会
22～24日　御受難会主催黙想会（畠神父指導）
愛徳カルメル会召命黙想会
25～26日　日本キリスト教志免教会研修会
26日　茶山教会黙想会
30～12/1日　御受難会主催黙想会（マテオ神父指導）

教区人事

A・スカットロン師　鹿島・武雄教会兼務（多久）
A・テンペリーニ師　多久教会（鹿島）
C・バスチ師　戸畑教会（八王寺）

～ 映画ご案内 ～

「チェルノブイリ黙示録」

日時：11月9日～11月15日
場所：シネテリエ天神
福岡市中央区天神3-6-18
馬場ビルB1F
TEL092－781－5508

チェルノブイリ原発から、はや5年。かつて「チェルノブイリ・シンドローム」を撮ったロラン・セルギエンコが再びこの惨事を記録したドキュメンタリー映画。
事故の作業に当った作業員とその家族、胎内被爆の実態、膨れ上がる被害の数々、ローマ法王、マザー・テレサ、サハロフ博士、等のインタビューも収められています。
ソビエト国内未公開作ですので、この機会に是非とも御高覧下さい。

福岡市民クリスマス

◎十二月九日(月)18時30分～
◎福岡市民会館　大ホール
・バレエ「くるみ割り人形」
・メッセージ「愛はうめきから」

生命山のフランコ神父様をお迎えして
ボランティアについてのお話

★日時　1991年11月10日　日曜日
11：00AM～12：30PM
★場所　福岡カテドラルセンター
大名町カトリック教会1F講堂
★お話　フランコ・ソットコルノラ神父様
（生命山シュバイツァー寺）
＊どなたでもご自由に、ご参加ください。
★主催　†ぶどうの樹の会
★問い合わせ　☎092－521－1093(佐伯)

お―かげ

二十年前のこと、イエルザレムでパウロ六世教皇とギリシャ聖教会のアテナゴラス総大司教との歴史的な出会いがおこなわれました。

アテナゴラス大司教様はたいへん豊かなお人柄で、ある時、次のような談話をなさったそうです。

「人の死に臨み、人々はその遺体をたくさんの花々で埋める習慣がどこの国にも見られます。そして、葬儀は花いっぱいで飾られます。人はどうして花を捧げることを死まで待つのでしょう。その人の生きている間に花を捧げるチャンスを作りたいものです。神様が私たちに花を咲かせてくださるのは、天国への餞のためというよりは、生きている人々が生きている間にお互いに喜び合い、慰め合うためではないでしょうか。」

カトリック信者の間で《霊的花束》が取り交わされます。それは相手のために唱えた祈りや善行の回数の通知状のようなものです。

しかし、他に私たちの人生を永遠に飾るたいへん美しい《愛の花》もあります。

《孝行十五年》という記事に感銘を受けたことがあります。田畑よしえという和歌山県の未亡人は、中学二年生の博君を交通事故で失ったのです。

自転車とトラックとの衝突事故です。加害者のトラック運転手、明君（二十歳）に対しての恨みと怒りははかりしれません。

彼は、この悲しむ母親の前に立つ勇気がなく、トラックの仕事も辞め、自宅に引きこんでしまいました。しかし、そのうち一人息子を失ったよしえさんのことを思って、じっとしていることができなくなりました。

家族と相談の上、よしえさんの養子になろうと決意しました。この明君の申し出に、驚き、とまどいながらも、よしえさんは、ついに明君を入籍し、子として受け入れました。養子になった明君は、よしえさんの支えとなって、明け暮れ面倒をみました。新しく就職し、結婚もし、三人の子どもの父親になりました。

この世のはなを永遠の中に

よしえさんはこう言っています。

「明を咎めず入籍したお陰で『母さん』『ばあちゃん！』と呼んでもらっている。反対に許すことができずに責め続けていたら、私は今頃どうなっていただろう。」

しあわせは困難に遭遇しないということではないのです。愛に生きるならば苦しみもまた大きな喜びに変容していくのです。

これこそ永遠に枯れない《愛の花》です。

今一つ、対照的な交通事故の悲劇があります。

友達と二人乗りのオートバイでトラックに接触し、横転し、後ろの同級生を即死させた高校三年生。そのまま六百メートルほど走って、オートバイを放置して、姿を消しました。その後、近くの杉の木で首をくくって死んでいるのが発見されました。

私たちは人の心の中は見えません。

しかし、神様は人の思いを見抜いてくださいます。うれしいではありませんか。神様は愛そのものです。人間一人残す事なく、大切に支えていらっしゃいます。

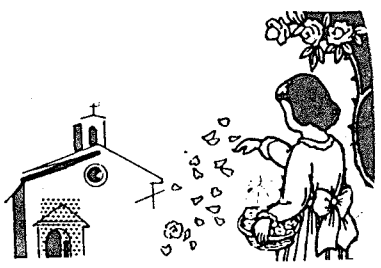
ちいさいテレーズは無限の愛でいらっしゃる神様の心を誰よりも悟りながら自分自身も多くの人に愛されることを予感していました。

そして、彼女は遺言をくださいました。

「いよいよ、天国にいってから、この世にバラの雨を降らせます。」

と約束されたのです。

（パリ外国宣教会司祭
門司港教会
徳山　登）



つねならむ世はうきものとみつぐりのひとり残りてものをこそおもへ

大田垣蓮月

かのときのことのは

森山　敬三

『天人の刈藻』拾遺に所収。蓮月は二度の結婚に二人とも夫を亡くし、子供さえ、三十歳の頃さきだたれ、いがの中にある三つの栗のように、仲良く暮らしていたのにそれさえできなくなった。遂に剃髪して尼となり名を誠から蓮月とかえた。宿貸さぬ人のつらさがなさけにて朧月夜の花の下臥し、という道歌めいたもので有名であるが、美人で、歌・書・焼物は勿論、武芸において薙刀などに巧みであった。井手曙覧や野村望東尼の訪問もうけている。明治戊辰の役のとき、西郷隆盛に与えた和歌の一首が、西郷の機鋒をにぶらせたともいわれる。明治八年、八十五歳で没するまでに多くの逸話がある。與謝野寛の名付親であり、日本のセザンヌといわれる鉄斎は、蓮月が六十歳のころより同居して、ずっとその薫陶を受けた。

十一月命日の司祭

＊フレデリック・ボア師（パリ外国宣教会）一九七七年十一月三日元援助修道会黒崎修道院付き
＊スヴァノニ・セヴェリーノ師（ミラノ外国宣教会）一九六二年十一月二十七日元唐津教会主任

編集室から

▼台風十七号・十九号の被害御見舞い申し上げます。
今回の台風は年長者の方に尋ねても経験のないほどの強い台風だったとか。被害の大きさに驚かされたり、安否を気づかったりしました。一日も早い復旧をお祈り申し上げます。
▼実り豊かな秋も台風のため収穫に大きな影響を与えました。なんでも高くなったと聞きますが、お互いに助け合いながら歩むことができたらと思います。
▼教区報は教区民のための機関紙です。皆様の自発的な投稿をお待ちしています。よろしくお願いします。

マスコミによる福音宣教は
私たちの使命です。
みことばを、いつもあなたに
聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

未来へ――安心を創る
FUJIKI　藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL 092－521－0568

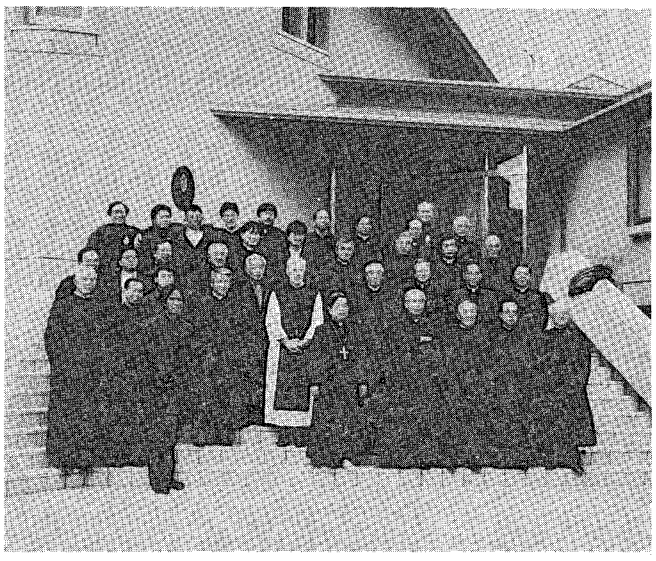
カトリック福岡教区報

松永司教認可
発行所　福岡司教館
福岡市中央区浄水通39
発行人
カトリック福岡司教区
編集人　深堀　勝人
TEL　092－522－5139
FAX　092－523－2152
振替口座　福岡6－20729
定価一部60円

今月のみことば

刈り入れのために働く人を送ってくださるように、刈り入れの主に祈り求めなさい
（ルカ10・2）
新田原教会　平田正喜神父

福岡教区邦人司祭黙想会



司教のもとに全員集合の司祭団

年に一度の福岡教区邦人司祭の黙想会が十一月十一日より十四日まで黙想の家で行われた。

今年は松永久次郎司教着座後、はじめての黙想会ということもあって、教区邦人司祭三十二名が教区長のもとに集い、神の民の奉仕者としての心を新たにした。

今回は、例年に比べて一日短かい黙想会ではあったが、三泊四日の間、心の霊的糧のみならず、教区邦人司祭として兄弟的愛と交わりをもってともに歩むことのための時間ももうけられた。

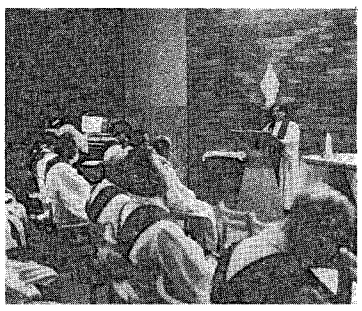
ロザリオの祈りで始められた黙想会。祈りと静けさを大切にしながら、黙想指導司祭J・マルセル神父の心の巡礼というテーマでの説教は、その雰囲気を一層高め、司祭団を霊性の世界へと導いた。

日頃、小教区やその他の場で司祭職に生きる司祭団にとって、この世の事柄に忙殺されることなく、司祭として心の旅を「キリストに根を下ろして」（コロサイ二・七）永遠のみ国の建設のために生きることを説教を通して新たにした。

教区長松永久次郎司教は司祭団に、この黙想会中に、ミサはもとより教会の祈りを共同で歌って唱えることを勧め、信心業（特にロザリオ）を行うこと、そして黙想会の恵みとしてゆるしの秘跡にあずかることをすすめた。

毎晩、教区邦人司祭としての兄弟的交わりを深めて神の国の建設を目指すため、人事の件、地区別の邦人司祭の集まり、教区カレンダー、サバティカルイヤー、今村信徒発見百二十五周年、教区財政と教区費、小神学校と召命の問題、幼稚園の運営、教区報などの提起がなされ、教区邦人司祭の協力が求められた。

最後の晩は、兄弟的交わりの一つとして、黙想会の中にあって親しい交わりの夕食のひとときを過ごした。



最終日、今回の黙想会を感謝し、心をひとつにゴミサをささげ、それぞれ帰路の途についた。

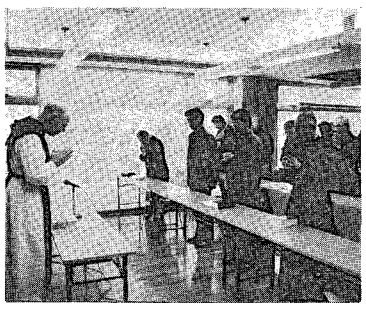
教区邦人司祭グループ分け

第一グループ
大名町　青木　保師
西新　大水　幸一師
茶山　山川　辰幸師
光丘　堤　要吉師
美野島　◎山田　成章師
大楠　畠山　七郎師
老司　鵜野　泰年師
呼子　竹森　勇師
馬渡島　田川　清美師
伊東　誠二師

第二グループ
司教館　松永　久次郎師
牧山　藤房師
牧山　重光師
深堀　勝人師
◎山元　眞師
山下　正師
小神学校　松井　忠之師
糸島　平田　三郎師

第三グループ
小倉　岩永　義人師
森山　信三師
戸畑　浦口　均師
湯川　平田　寛師
新田原　◎平田　正喜師
行橋　浦　俊雄師
直方　平田　三好師

第四グループ
二日市　堤　敏雄師
馬渡島　伊東　誠二師



※お詫びと訂正

十一月の時の話題の著者名が鈴木明郎氏と記載されておりましたが、谷川二郎氏でしたのでお詫びとともに訂正いたします。

今村　糸永　武男師
糸永　一師
本郷　川上　惣一師
下町　豊重師
小郡　久留米　◎平田　敬師
三村　邦明師
大牟田　西田　邦洋師
健軍　牧山　勝美師
帯山　青木　悟師
八代　中浜　一男師

◎印は地区の担当者です。

邦人司祭独自の問題があり、それを討議・検討するため、司牧上体験する種々の問題、および貴重な経験等の分かち合いのため、さらに研修・勉強会のために定められた。

教区の地区司祭の集まりも行われているため、その調整の中で、今後の歩みが期待されている。

ポール・エミール・レジェ枢機卿帰天

日本の教会、とりわけ福岡教区に多大の貢献をもたらされたポール・エミール・レジェ枢機卿が十一月十三日、カナダのモントリオールにて帰天された。八十七歳。

師は、一九〇四年カナダ・ヴァレフィールド近郊聖アニセトに生まれ、一九二九年に司祭叙階。スルピス会入会後パリ大神学校で教え、一九三三年に来福。司牧活動に活躍し、サン・スルピス大神学院創設のため尽力し、神学生養成の重責を果された。一九五〇年カナダ・モントリオール大司教に叙せられ、一九五三年枢機卿に親任された。年齢を重ねるにつれ、ますます宣教意欲に燃え、一九六七年モントリオール大司教辞任後もアフリカ、アジアにて布教活動に従事し、活躍された。

十一月十六日（土）午後二時より福岡サン・スルピス大神学院では平田三郎司教（元スルピス会員）主式、松永久次郎司教、他司祭団の共同司式のもと追悼ミサがささげられた。また翌十七日には、カテドラル大名町教会で、多数の信者の列席のもとレジェ枢機卿の安息を祈るミサがささげられた。

時の話題

渡辺　孝之

生きがいをさがそう……のキャッチフレーズの熊本地区短期キリスト教講座は、今年から水俣教会でも開催されることとなり、熊本、人吉と、三カ所で行われた。

ひろく市民によびかけ、福音を伝えるこの講座のため、講師の方々は並々ならぬ熱意を傾けて、心に泌みる話しをしてくださる。

そっと目頭をおさえる聴講者の姿があちこちに見受けられた。

話が終わって演壇を降りた講師のところに来て、感激の涙とともに、心の痛みを解放して貰った喜びと感謝のことばが伝えられる風景もあった。求めていたのである。

求めている人は沢山いたのである。

この人達を講座にお誘いするために信徒が果たした役割も大きい。また、会場設営、受付、司会、湯茶の接待、子守と、多くの信徒の奉仕による協力があってこそ、講座は滞りなく進められる。

どんな小さな役割の一つでも、それが宣教活動にとって欠くことのできないもので、主のみ栄えのため役に立っていると自覚し、行動が伴ったとき、その人の信仰は、さらに強く生きたものとなり、信徒の目は輝いてくる。信徒数のすくない水俣では、はたして準備や進行がうまくゆくだろうかと多少懸念されたようであったが、この講座に結集された力は予想をはるかに上廻り、信徒の活性化ができたという。

受講者が、講師の話の中から何か一つでも心に残るものをくみとり、その人のこれからの人生の支えになることができたら、もうそれだけでこの講座は目的を達したといってもよいと思う。

八月から十一月まで、ミサの共同祈願の時に、一緒に誦えた祈りはつぎの祈りである。

短期キリスト教講座のための祈り

〈神よ、福音を伝えるこの講座が、あなたのみ旨のままに行われますように。

私たちが一致して、惜しみなく働くことができますように、力をお与え下さい。

私たち一人ひとりが、福音宣教の担い手として、身近な人を、主との出会いのためにお誘いする勇気をお与え下さい。

聖霊の導きによって、この講座に豊かな実りがありますように。

主、キリストのみ名によって、アーメン。〉

来年からはさらに、天草の大江教会でも、開催の動きがある。聖霊は常にそそがれている。

（熊本地区信徒協宣教部会長　手取教会）

一人ひとりが福音宣教の担い手

みちくさ

今年も最後の月を迎える。時の流れの早さを感じるのは誰の口からもでてくるが、その時の中にあってどのように生きていたのか、ふとふり返る。どう問い返してもあまりたいした答えは返ってこない。四月から新任地で忙しいと思いながら歩んでいても、時は確実に流れ、自分は立ち止まっているように見える

▼この一年もまた平凡に過ごしたかのように思えてしかたがない。でも非凡に生きるよりも平凡であることのほうがはるかに難しいとも思う。そして、あたりまえに見える日々の中にふと神の豊かな恵みを味わえたらとことのほか思う　▼忙しくなると人も自分も見えなくなる。でも、自然体で生きられたらと思う　▼もし、自分と自分の回りをよく見ることができたら、そこに、神の愛も、人の愛も、もっと豊かに味わえただろうと思う　▼詩編作者は「前からも後からもわたしを囲み、御手をわたしの上に置いていてくださる」（詩編一三九）と祈っているが、その祈りが、心から祈れたらと思う

▼思いがこもる十二月、でも時は流れ、逆流することは決してない。しかし、時の流れを体験できることは、生きていることの証、この尊い命を神から受け、生かされ、生きていることに心から感謝をささげる十二月でありたい

▼パウロは「あふれるばかりに感謝しなさい」（コロサイ二・七）と教えるが、平凡な生活であっても、ふり返って何もないように思われる一年であっても、そこには、神と人との親しい交わりが与えられ、神に支えられ、人に支えられた生活があったことを感謝できる一年であると思う

▼感謝できるとしたらすばらしい。感謝は明日への生きる力を新たに与える。なんの変化のない生活にも喜びを与える。そして、何よりも一人ひとりの心に豊かさをもたらす。一年を終えるとき感謝のできる年としたい。そして新しい年を迎えたい。

待降節のこころ

『愛の母なる教会は、自分の神聖な花婿の救いのわざを、一年を通して、一定の日に、聖なる想起をもって祝うことを自分の務めとしている。毎週、教会は「主の日」と名付けた日に、主の復活を記念し、また、年に一度、復活祭の盛儀をもって主の聖なる受難とともにそれを祝い続けるのである。また、教会は、一年を周期としてキリストの秘義全体を、受肉と降誕から昇天へ、また聖霊降臨日へ、さらに、幸いなる希望と主の来臨との待望へと展開しているのである。』（典礼憲章一〇二番）と典礼暦年における キリストの秘義を教えている。

ところで、典礼暦年は待降節からはじまって年間最後の主日、王であるキリストをもって終わりますが、実は、待降節は典礼暦年の一番はじめであるだけでなく、最後でもあるのです。

待降節とは、

待降節ということばの意味をご降誕を待ち望むと解釈していますが、本当は、〝誕生〟は過去のことで待ち望むはずはありません。待降の〝降〟は第二の来臨、つまり、キリストの再臨を示しています。初代教会の「主イエスよ、来てください」（黙示録二十二・二十）の祈りは、ご託身のことではなく、救いの計画が完成されて、天にのぼられた主が、再び来られるのを待ち望んでいる祈りです。

待降節のおこり

待降節が定められたのは、およそ三三〇年、ローマ皇帝コンスタンティウス大帝の時代以来のことです。迫害時代も終わり、平和な時代として信者が暮すことができるようになったとき、来世の天国への希望よりも今の生活に満足して〝再臨を待ち望む〟気持が薄れてきたため、希望を養い、強めるために待降節が設けられました。

中世紀では、ご降誕を記念し、主の再臨を待ち望むということが、お生まれになったみどり子（たとえば馬小屋）に対する信者の喜びを重んじ過ぎたため、主の再臨をわすれる傾向がありました。

待降節とは、キリストの再臨を待ち望みながら、今のうちに準備することを強調し、思い出させる季節です。

典礼において

日曜日毎に、神の救いのみ業を感謝し、主イエス・キリストの復活を祝っているキリスト信者にとって、三つのことを大切にしなければなりません。

㈠　過　去

過去のできごとを記念し、祝うことで、私たちの救いのために、神が昔からなさってくださった恵みを忘れず、思い出すことが大切です。預言者たちを通して告げられた救い主の到来（キリストの誕生）はすでに実現されたことを記憶しなければキリストを信じることさえできないからです。

㈡　未　来

すでに来られた救い主・キリストは、もう一度来られるべきお方です。まだないキリストの再臨は、世の終わりに神の栄光のうちに来られるひとり子イエス・キリストを待ち望む信者の未来に対する希望です。イエスが、特に最後の晩さんのとき、「戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える」（ヨハネ十四・三）と約束された預言のことばに希望を置くことは大切です。

（預言とは、未来のことを予め言うというのではなく、神のみことばを預かって、未来に必ず実現する神の約束を言うことです）

㈢　現　在

現在は、過去と未来の二つを結びつけるものです。イエスはすでに今、帰ってくることをはじめておられます。完全にはまだですが、ご復活以来、キリストが現存しておられることを私たち信者は確信しています。

キリストの現存について、教会は「キリストはミサの犠牲のうちに現存している。……特に、聖体の両形態のもとに現存している。……諸秘跡のうちに現存している。……キリストは自身のみことばのうちに現存している。……なお、『二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである』（マタイ十八・二十）と約束されたキリストは、教会が懇願し、賛美を歌うときにも現存している。』（典礼憲章七番）と教えています。

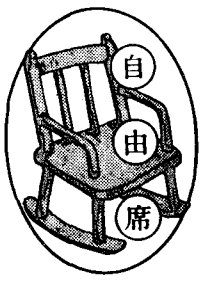
私たちは、今年も主のご降誕を迎えお祝いするために、〝み国の来たらんことを〟と主イエス・キリストの心をもって祈り、主のご降誕に際し、ふさわしい心を準備するためゆるしの秘跡にあずかり、神の愛の中に生きる平和と、貧しい人に対する愛の心を社会の中にあって証し、私たちの中に来られる救い主イエス・キリストを伝えることができますように心がけましょう。

教会でのクリスマス・ミサ

福岡教区の各教会での二十四日のクリスマス・ミサの時間は左記の通りです。家族揃って集いましょう。

大　楠　教会　七時～
笹　丘　教会　八時～
浄水通　教会　七時～
高　宮　教会　六時～八時～
大名町　教会　六時～八時半～
茶　山　教会　八時～〇時～（真夜）
西　新　教会　七時～

糸島　教会　八時～
箱崎　教会　八時～
光丘　教会　八時～
美野島　教会　八時～
吉塚　教会　七時半～
老司　教会　七時半～
黒崎　教会　七時～十時～
小倉　教会　六時～八時～十一時～
天神町　教会　八時～
戸畑　教会　八時～
八王寺　教会　八時～
門司　教会　八時～
門司港　教会　七時半～
湯川　教会　七時半～十一時～
若松　教会　七時～
飯塚　教会　八時～
今村　教会　十時～
大牟田　教会　八時～
小郡　教会　八時～
久留米　教会　七時半～十時半～
古賀　教会　七時～
新田原　教会　八時～
田川　教会　六時半（予定）
直方　教会　七時～
二日市　教会　八時～
本郷　教会　八時～
水巻　教会　七時半～
行橋　教会　七時半～
伊万里　教会　七時半～
鹿島　教会　六時半～
唐津　教会　八時～
佐賀　教会　八時～
多久　教会　九時～
武雄　教会　八時～
鳥栖　教会　九時半～
馬渡島　教会　〇時～（真夜）
呼子　教会　七時～
帯山　教会　七時半（予定）
菊池　教会　八時～
大江　教会　七時半～
荒尾　教会　九時半～
健軍　教会　七時半～
崎津　教会　八時～
島崎　教会　八時～
玉名　教会　七時～
手取　教会　七時～十一時～
人吉　教会　八時～
本渡　教会　七時半～
水俣　教会　八時～（予定）
武蔵ヶ丘教会　七時半～
八代　教会　七時半～



亡き友を偲ぶ

八月十九日、K師は神に召されて、天国に旅立った。六十六年の、未練を残す人生であったが、神の前には満ちされた一生だったかもしれない。彼の善良な人柄については、誰でも認めるところである。お人好しの彼は、皆に愛されていたが、裏を返せば、その長所が彼の人生の終わりを早めたのではないか、と気にかかる。なぜなら、彼は人に用事を頼まれると、どんなに疲れていても、断ることができなかった性分であったからである。他人の用件を果たすために、長崎への日帰りをしてきた彼の姿をたびたび見ることがあった。

また、受けるよりも与えることに喜びを感じていた彼は、頂き物をひとり占めすることなく、隣人に分配して廻る優しい、無欲な一面をも持っていたと思う。

兵役の身にあったK師は、第二次世界大戦の敗北によって、厳寒のシベリア抑留の塗炭の苦しみに遭遇したのであった。この痛ましい思い出と体験が、彼の脳裏を離れることはなく、また、彼の体を蝕んでいったのではあるまいか。飢えと寒さの中で重労働を強制された、苦難の日々を語っていた彼の心中は、どんなものであったろうか。

彼の愛唱歌に「岸壁の母」があった。この歌は、シベリア抑留のわが子の生存を信じて（実際には死亡通知が届けられていたが）、復員船が着くたびに、港に出迎える母の姿を歌いあげていると聞いていた。

ときどき、K師の運転する車に便乗することがあったが、彼の鼻歌によく出てくるのが「岸壁の母」であったと記憶している。おそらく、彼のシベリア体験の辛い思い出が、この歌を通して引き出されていたに違いない。あるいは、多くの戦友の死をまぶたに浮かべながら、生死の境から無事復員できたばかりでなく、司祭にまで召されたK師を感謝する賛美歌だったと考えられないこともない。

キリストのみ跡を慕って司祭職にあげられたK師は、天国の栄冠をいただくために、走るべきコースを全力で完走したのである。

キリストのように考え、キリストのようにはなし、キリストのように行い、キリストのように愛するために、隣人に生涯をささげつくした善き牧者ではなかったろうか。

この数年間は、病魔に侵されて入・退院をくりかえす療養の生活であったが、そこには常に、永遠をみつめる司祭のおもかげと微笑みがあった。

彼との最後の出会いは、死の二週間前の見舞いとなったが、おだやかな表情の中にも、死を間近に感じさせるあの世の顔がちらついていた。聞くところによると、K師は最後の息を引き取る瞬間まで、はっきりした意識を持っていたそうである。

K師に永遠の安息を！

『深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。
主よ、この声を聞き取ってください。
嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。』
（詩編一三〇）

カトリック光丘教会
主任司祭　山田成章

※今年も自由席にご協力くださり、ありがとうございました。
新しい年も皆様の寄稿をお待ちしています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

待降節黙想会ご案内

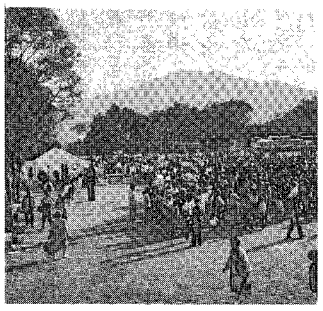
11/30(土)～12/1　「神の御旨」マテオ神父・Br梅田指導
12/7(土)～8　「マグニフィカト/主をあがめ」ガブリエル神父・Br梅田指導
12/14(土)～15　「私につながっていなさい」――壮年男子対象――　鈴木神父・Sr斉藤指導
12/21(土)～22　「メシアの誕生」ガブリエル神父・畠神父指導

会費　1泊3食6千円　18：00(夕食)～翌日15：30頃まで
問合わせ・申込みは　0940・32・3222　黙想の家
※J・R・赤間駅南出口よりバス自由ヶ丘南2丁目下車バス停前

熊本石材株式会社
熊本市島崎4丁目2ノ68
電話　096－352－3306
096－352－8622

別れ・出逢い・旅立ち
草苑（SOU-EN）
ご葬儀
木下株式会社
TEL092-526-5656
福岡市中央区平和3丁目1-5

召命の集い



福岡サン・スルピス大神学院では、十一月四日、恒例の召命の集いが晴天の中、盛大に行われた。

今年は「イエズスさま、みつけ！」というテーマのもと福岡教区のみならず、長崎教区、広島教区、大分教区、鹿児島教区からの参加を得て、千名あまりが集い、成功のうちに終えた。

午前中は松永久次郎司教司式の召命祈願ミサがささげられ、午後からは子供たちが、各学年ごとに分かれて、学年に応じたゲームを神学生たちとともに楽しみ、司祭職を目指す神学生との触れ合いの中で楽しいひとときを過ごした。

★　★　★　★　★

どこの教区でも司祭の高齢化が進む中、今、司祭職を目指す神学生への期待とともにそのあとに続く神学生への召命が願われている。

神の民がみ国を目指し、キリストとともに歩むために奉仕する司祭を求め、心をひとつにして祈り、家庭の中からひとりでも多くの青少年が、神の呼びかけに応え、キリストのあとに従って行くことができるように、私たち一人ひとりが召命への深い関心を持ち歩みたいものである。

教区報でも七・八・十月号で召命をより真剣に考えるを連載したが、召命への新たな意識高揚を求めてやまないものである。

〝主よ、刈り入れのために働く人を送ってください〟

福岡地区 教会学校リーダー研修会

去る十月二十八日、カテドラルセンターで福岡地区教会学校リーダー研修会が開かれました。福岡地区でこの活動が再開されてほぼ一年ということですが、研修会はおもに夏休み、クリスマス、復活祭と、それぞれ教会学校の大切な時期の前に開かれ、今回のテーマはクリスマス。

クリスマスといえば、ともすれば行事の忙しさに追われて、その心を忘れてしまいがちなのですが、午前中は、小神学校の松井神父様の「待降節について」のお話があり、子どもたちとともに待降節を心から準備するために、クリスマスとはどんな日かということを、また、私たち自身に「待降節の心を生きる準備」のための種をまかれたように思います。

午後からは、各教会のクリスマスや夏のキャンプ、教会学校で使われている資料等の展示を見て情報交換。その後、クリスマスの取り組みについての具体的な質疑応答、信仰を伝えるという根本的な問題や悩み、家庭の中で教会の話が少ない、生きた信仰を伝えるのは、家庭の中で、実際の出来事をとおして親が伝えなければ伝わっていかない、教会では基本的なことしか教えられない等の意見が出されました。親の教会学校への参加や、小教区全体が子どもの信仰教育についてもっと悩み、励ましあっていかなければならないという神父様のお話もあり、家庭と教会が「信仰と愛」によって深く結ばれることの大切さをあらためて感じました。

最後は手話による「主の祈り」と聖歌を学び、祈って終わりましたが、この場は、それぞれの小教区にもちかえる大切な種をまかれ、また小教区を越えてひとつの教会として、横のつながりを広げていける大切な機会となっているように思います。

（古賀教会　福田敦子）

家庭

第2回 全国会議に向けて

私たち夫婦のNFP（排卵法）

私たち夫婦は結婚して七年。その間に三人の子供に恵まれました。結婚前には、「子供は野球チームができるくらいほしい」と思っていましたが、いざ現実の生活を送ってみますと、子供の数を制限せざるを得ませんでした。三人目の子の出産後に、私たちの家族計画が始まりました。

教会では、NFP（自然な家族計画）を勧めています。私たちはこの方法を選び、ビリングス法（排卵法）の本やビデオで共に学びました。妻の方は、この方法を早く自分のものにしたいと思いながらも、授乳期であったため、排卵法による頸管粘液の確認がなかなかできませんでした。夫に対しては、すまないと思いながらも、このような妻の実情を理解してくれないことにいらだちを感じていました。また、夫は夫で、頭では十分理解できていたはずですが、いざその場に直面すると、妻に対してつらくあたることもしばしばでした。二人であれほど話し合って十分にわかり合っていたと思っていたのに……。私たちにとって本当につらい試練の時でした。

しかし、私たちには信仰のお恵みが与えられていました。神様の助けを願い求める必死の祈りによって、この苦しい時期を乗り越えることができたように思います。神様の助けなしには、とうていこれを実行できなかったでしょう。このことを通して私たちは、神様の愛を実感し、二人が本当の意味で一つになる喜びを味わうことができました。また、相手に対する配慮、いたわりの気持ちも強まり、夫婦のきずなが一段と強まりました。この二人の気持ちは家族全体に広がり、家庭が明るく安らぎに満ちたものとなりました。

NFPを実行することは決して楽なことではありません。しかし、私たちがこれを実践して思うことは、これは夫婦のきずなを強め愛を育むために、ぜひとも必要だということです。信徒の中からこそ、これを実行するカップルが一組でも多く生まれることを願ってやみません。

山崎　昌典（糸島教会）
真由美

天草殉教祭

天草郡本渡市にある千人塚で十月二十七日、天草殉教祭が行われた。仏教・神道・キリスト教と行われたが、四時三十分からのキリスト教の殉教祭は、松永久次郎司教司式のミサのあと、マリア行列が行われた。

毎年行われるこの殉教祭に熊本県内の小教区の信徒も多数参加し、先祖の信仰をたたえ、ともに祈りをささげた。

《六番町の窓より》

各教区の司祭の平均年齢

教区	平均年齢	教区	平均年齢
1．高松	63.5	9．広島	55.4
2．新潟	57.7	**10．福岡**	**55.1**
3．札幌	57.4	11．名古屋	54.8
4．仙台	57.4	12．那覇	53.8
5．浦和	56.8	13．鹿児島	53.7
6．大阪	56.6	14．横浜	53.7
7．東京	56.4	15．長崎	52.1
8．京都	55.5	16．大分	52.1

秋の褒章

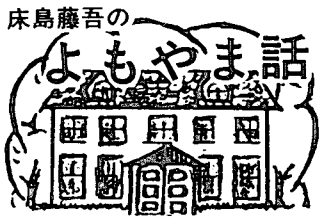
北九州市八幡西区本城東にある聖小崎育児園が戦後間もなく始められたときから尽力され、昭和三十九年からは園長としての重責を果されている木藤章子女史が、このたび藍綬褒章を授与された。

聖パウロ書院 年末年始のお休み

◎12月25日(水)～26日(木)
◎12月31日(火)
◎1月1日(水)～5日(日)
◎1月25日(土)
※定休日　毎水曜日

今年もお世話になりました。来年もどうぞよろしく。

床島藤吾の よもやま話



ペトロ平田三郎司教様とともに

ペトロ平田三郎司教様が福岡教区長として着座されたのが昭和四十五年、それから引退された昨年まで二十一年間、第四代教区長としてご活躍された。司教様は同郷の人で、名古屋教区の平田義雄神父様、亡くなられた平田勇神父様方とともに学生時代、神学生時代、先輩・後輩の仲として、楽しく遊んだり、共に学んだりしたことが、なつかしく思い出されます。

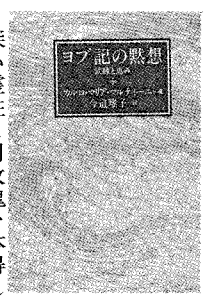
教区長として福岡教区においでになったころは、教区事務と秘書的な仕事をさせていただいていましたが、建築の際は、その事務的な仕事も多く、永年の念願であったカテドラル建設や最後の仕事となった糸島教会の建設のお手伝いができましたこと感謝しています。また、堅信式などでは運転をしながら、車中お祈りがはじまると眠くなったりして、時には事故まで起こして司教様にもご迷惑をおかけしたこともありました。償いに免停までいただいたりして……。

ところで日々のごミサの中で、週二回オメリアをしてくださっていましたが、聖書学を修められた司教様が、当時まだそれほど親しむことのなかった聖書をひもといてお話しくださったことは、聖書を学ぶにあたってのすばらしい機会になったことを思い出します。

今、糸島教会でご活躍の司教様のためにお祈り申し上げ、よもやま話を終わります。

BOOK 読みは専科

★ヨブ記の黙想＝試練と恵み
カルロ・マルティーニ著
今道　瑤子　訳

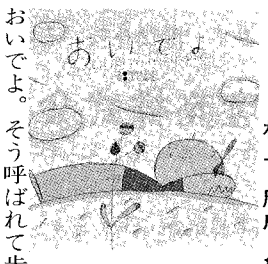


深い霊性と司牧魂を体得しているミラノの大司教である著者は、人間に襲いかかる苦しみの隠された意味をヨブ記の中に探し、人間の神秘と神の秘義を照らそうと導く。

「あなたがたは、わたしが試練に遭ったとき、絶えずわたしと一緒に踏みとどまってくれた」（ルカ22・28）をテーマに、自らを解放へと向かわせてくれる黙想書である。

女子パウロ会　一、二〇〇円

★おいでよ
晴佐久昌英　文
村上　康成　絵



おいでよ。そう呼ばれて歩き出すとかならず誰かに出会います。出会って嬉しくなりふしぎな仲間がうまれます。それは誰かの都合やきまった目的によらず、呼び集められてうまれた仲間です。それぞれ違っていながら呼ばれてひとつに結ばれた仲間です。ほんとうはみんながそんな仲間であるはずです。だって誰もが呼ばれているんですから。きこえますか？おいでよって。

（あとがき）より。

園児から小学三年生。大人のかたもお読みください。

女子パウロ会　八五〇円

ジャパン建築 株式会社
不動産／管理・仲介・売買・建設／一般建築
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－761－8800
代表取締役 マルガリタマリア 吉田由利子

吉田設計 株式会社
建築設計／企画・設計・監理
〒810 福岡市中央区六本松4-9-4
TEL092－711－0550
代表取締役 ヨゼフ 吉田豊博

祭壇・洗礼盤他
素材 石 石 他
理 影 の
大 御 そ
石のパイオニア
高木石材株式会社
〒860 熊本市段山本町2－21
TEL096－352－2417

会合と催し

十二・一月の行事

※ゴチックは司教日程

十二月

8日　レジオマリエクリア五〇〇回記念
8日　誓願式（黒崎にて）
10～14日　司教総会
15日　吉塚教会堅信式
17日　福岡地区司祭の集い
22日　直方教会堅信式

一九九二年　一月

元旦　神の母　聖マリア
7日　司祭新年の集い
15日　修道女連盟集会
18～25日　キリスト教一致祈祷週間
19日　福岡地区・成人ミサ　筑後ブロック成人ミサ

福岡黙想の家

12月スケジュール・待降節黙想会ご案内

11/30～12/1日　神の御旨（マテオ神父・Br梅田指導）
7～8日　マグニフィカト・主をあがめ（ガブリエル神父・Br梅田指導）
14～15日　私につながっていなさい（鈴木神父指導）（壮年男子対象）
21～22日　メシアの誕生（ガブリエル神父・畠神父指導）
23～24日　聖ヨゼフ幼稚園職員研修
26～1/3日　善きサマリア人会黙想
26～1/5日　幼きイエズス会黙想

※祈りの日毎週火・11時より
12/3日は都合により休みます。

一九九二年度第一回結婚準備セミナー

福岡会場（福岡カテドラル・センター4階）
日時（毎回　午後七時から）
1月　18日　23日　25日　30日
2月　1日　6日　8日　13日
問い合わせ
ファミリー・センター・吉永
☎〇九二―五四一―六二〇七

熊本会場（手取教会）
日時（毎回　午後七時から）
1月　20日　22日　27日　29日
2月　3日　5日　10日
2月　12日
問い合わせ
手取カトリック教会・稲田
☎〇九六―三五二―三〇三〇

十二月命日の司祭

*アンドレ・ベニエ師（パリ外国宣教会）一九八三年十二月二十三日
元飯塚教会主任
*ジェームス・マグラ師（聖コロンバン会）一九七六年十二月十八日
元荒尾教会主任
*パウロ青木功師　一九七三年十二月十九日
元行橋教会主任
*ミシェル・ソーレ師（パリ外国宣教会）一九一七年十二月二十日
元久留米教会主任
*ミカエル・コニリー師（聖コロンバン会）一九九〇年十二月十七日
元島崎修道院付

さねさし相武の小野に燃ゆる火の火中に立ちて問ひし君はも

古事記

かのときのことのは

森山　敬三

ヤマトタケルの乗った船が、走水（今の浦賀水道）にさしかかったとき、海神の怒によって大浪がおこり、一向に進まなくなった。そのときオトタチバナノヒメが、御子にかわりて、海の中に入らむ、といって入水した。その前の歌である。日本書紀では、贖王之命而入海、となっている。相模の国の野原で、だまされて草に火がつけられ、焼き殺されそうになったとき、私の名を呼んでくださったあなたよ、の意。死ぬ前、君と呼び、しかもその歌は、君が絶命寸前のところで、私を呼んでくださったことの厚情を謝したものであり、二人の間が、二重にも三重にも行きかっている。八世紀に、こんなに美しい物語や歌を残した日本民族の心を、ヤマトタケルのことばをかりれば、はしけやく、思う。

子どもの祭り　クリスマス

クリスマスが訪れる度ごとに私の心に思い出があふれてきます。

昭和二四年終戦まもなくの時期です。小倉の日明辺りを散歩していました。そこで戦争中の防空壕を見つけました。ほら穴から煙が出ていました。私は好奇心にかられて、中に入って行きました。しちりんで湯を沸かしているおじいさんに出会いました。彼は突然の侵入者を寛大に受け入れてくれました。その上、熱いお茶を煎れてくれました。私はそのお茶を勇気をもって飲み干しました。私もご挨拶とうれしさを表すために少しの果物を差し上げました。私にとって、忘れられないすばらしい交換でした。そのとき愛することは安っぽい同情ではなく交換であることを教えられました。

クリスマスは歴史的イベントが記念されるお祝いです。神様が私たちへの熱いお心を表して下さった大イベント！神様が人間となられ、私たちも神様の友達になったのです。ところが、神様を恐れるような言葉をたびたび耳にします。たとえば、交通事故や家族の病気などの災難に遭ったとき、神様からの罰のように受け取るようです。私たちの身内となられたのです。

機械文明の急速な進歩の中に、ある意味で、ずいぶん豊かになりました。しかし、幸福になったといえるでしょうか。「日本の消費者は欲しいものは何でも手に入れることができる。でも感動がない。物がありあふれて、本物の喜びをどこに求めれば良いのか、わからなくなっている。」という言葉をラジオで聞きました。

キリストの誕生は貧しく、実に貧しいものでした。《私はこわい神ではない。》事をはっきり示すために二千年前、ユダヤのベツレヘムの町で、か弱い赤ん坊としてお生まれになりました。こうして神様の優しさが人間の世界に現れたのです。クリスマスは子どもの祭りともいわれます。神様は謙って、おさな子の姿をとってこの世に現れたという不思議な出来事。この事実に、しかさで見せてくれました。神様は『あっ子ちゃん』の病気は治しては下さいませんでした。でも、もっと大きな恵みを与えて下さいました。それは十一歳で召された『あっ子ちゃん』が多くの人々に生きる希望を与え、愛の証し人になったからです。彼女の不治の病と短い生涯は神様の光栄でありました。『あっ子ちゃん』は洗礼の時に《死ぬことは生きることだ》ということを深く悟る恵みを得たのです。

そして、彼女の母親を慰めて「母さん、病気が治らなくても不幸でないよ。死ぬことも決して不幸ではないよ。」と言い切りました。この短い生涯を輝かしく全うした『あっ子ちゃん』の証に私たちも人生を見直すことを呼びかけられます。

どうしたことか、家庭の収入の半分を越える教育費、白熱する受験戦争に翻弄され、幼い頃からの塾がよい、のどかな遊びの世界も味わうことなく、いら立ち、疲れ、非行の中に追いこまれる青少年も無数にいます。問題の大きさ、根の深さに己の無力をひしひし感じ、落ちこんでいるとき、「神様がいっしょ。そのために貧しく、無力な赤ん坊としてお生まれになりましたよ。」「恐れることはない。」と恐怖で震えている羊かいたちに神様がおっしゃいました。実に神様は、私たち一人ひとりと共に歩いておられます。私たち、一人ひとりを抱き抱えるように大切に運んで下さいます。これこそ、クリスマスのメッセージです。私たちは今一九九一年のクリスマスの準備を進めています。このクリスマスこそ、よき訪れ、喜びの日となりますように。

（パリ外国宣教会司祭　門司港教会　徳山　登）

編集室から

▼四月にこの仕事を引き受けたとき、何号まで発行できるのだろうかと思いました。でも、多くの方々の暖かいご協力の中で、十二月号まで何とかできましたこと心から感謝申し上げます。

▼この教区報のため原稿を快よく引き受けて永年ご協力いただいた森山敬三先生、徳山登神父様。また、この一年、時の話題を担当してくださった熊本地区の渡辺孝之先生、鈴木明郎先生、谷川二郎先生、よもやま話のブラザー・床島藤吾様に心からお礼申し上げます。

▼担当が代ってから、よちよち歩きのこの一年、読者の皆様には、いろんなミスで、読みにくかったり、ご迷惑をおかけしたりしましたが、弱さを忍耐してくださったことお礼申し上げます。

▼年の瀬、あわただしくなりますが、心の静けさをもってよいクリスマスと新年をお迎えになりますようにお祈り申し上げます。（スタッフ一同）

マスコミによる福音宣教は
私たちの使命です。

みことばを、いつもあなたに

聖パウロ修道会
福岡支部＝福岡市中央区小笹4-11-11

“任意保険に加入してから車の運転を致しましょう”
自動車、火災、傷害、海外旅行傷害保険、保育園、幼稚園児を守る、企業賠償保険
〒814-01
福岡市城南区樋井川3丁目17－10
大石保険事務所　大石真澄
☎092-552-8195　Ⓕ092-541-7734

各種高圧ガス・溶接材料・その他
松尾産商株式会社
社長　松尾光敏
北九州市若松区藤ノ木1－4－24
TEL　093－771－3657

技術　真心
黒崎・小倉　城野・行橋
㈱ メガネの正視堂
小倉香春口交差点　☎093-921-8074

FUJKI
未来へ――安心を創る
藤木工務店
福岡支店　〒812　福岡市博多区博多駅南3-1-1　TEL 092-441-6585(代表)
取締役社長　藤木鐵三　福岡支店長　小田正人

吉川病院
院長　吉川東陽
福岡市中央区平尾四ッ角　TEL　092－521－0568